

2025年度 歯科衛生学科 シラバス

目次

1年生 カリキュラムツリー	5
1年生 教育課程(カリキュラムマップ)	6
1年生 年間予定表	7
1年生 シラバス	9

開講科目	頁	開講科目	頁
日本語表現法	9	微生物学	25
法律入門	10	薬理学	26
現代の社会	11	栄養学	27
コミュニケーション演習	12	衛生学・公衆衛生学	28
心理学	13	口腔衛生学	29
数理リテラシー	14	歯科衛生士概論	31
情報処理	15	歯内療法学	32
化学	16	保存修復学	33
解剖学	17	歯科予防処置法	34
生理学	18	保健指導論	36
組織発生学	19	保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）	37
口腔解剖学	20	歯科診療補助法（基礎知識）	38
口腔生理学	22	歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）	40
歯牙解剖学	23	感染予防法	42
病理学	24	臨地実習Ⅰ（臨床基礎）	43

2年生 カリキュラムツリー	47
2年生 教育課程(カリキュラムマップ)	48
2年生 年間予定表	49
2年生 シラバス	51

開講科目	頁	開講科目	頁
英語Ⅰ	51	歯科放射線学	64
生化学	52	う蝕予防処置法（臨床基礎）	65
地域保健・保健統計	53	歯周病予防法（臨床基礎）	66
衛生行政・社会福祉・社会保障	55	保健指導演習Ⅱ（臨床応用）	68
歯周療法学	57	口腔リハビリテーション論	70
歯科補綴学	58	歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）	71
口腔外科学	59	臨床検査法	73
歯科矯正学	60	介護技術の基礎	74
小児歯科学	61	臨地実習Ⅱ（臨床応用）	75
高齢者口腔保健学	62	臨地実習指導（臨床応用）	77
障害者口腔保健学	63		

3年生 カリキュラムツリー	81
3年生 教育課程(カリキュラムマップ)	82
3年生 年間予定表	83
3年生 シラバス	85

開講科目	頁	開講科目	頁
英語Ⅱ	85	口腔リハビリテーション演習	96
医療手話	86	歯科診療補助演習Ⅲ（臨床総合）	97
スポーツレクリエーション	87	救急法・救急蘇生法	99
一般臨床医学	88	審美歯科演習	100
人間関係論	89	臨地実習Ⅲ（臨床総合）	101
口腔衛生管理	90	臨地実習指導（臨床総合）	103
う蝕予防処置法（臨床応用）	91	歯科衛生研究法Ⅰ（臨床基礎）	104
歯周病予防法（臨床応用）	92	歯科衛生研究法Ⅱ（臨床応用）	105
保健指導演習Ⅲ（臨床総合）	94		

ナンバリング	108
教員一覧	111
オフィスアワー、成績評価	112
実務経験を有する教員の科目一覧	113

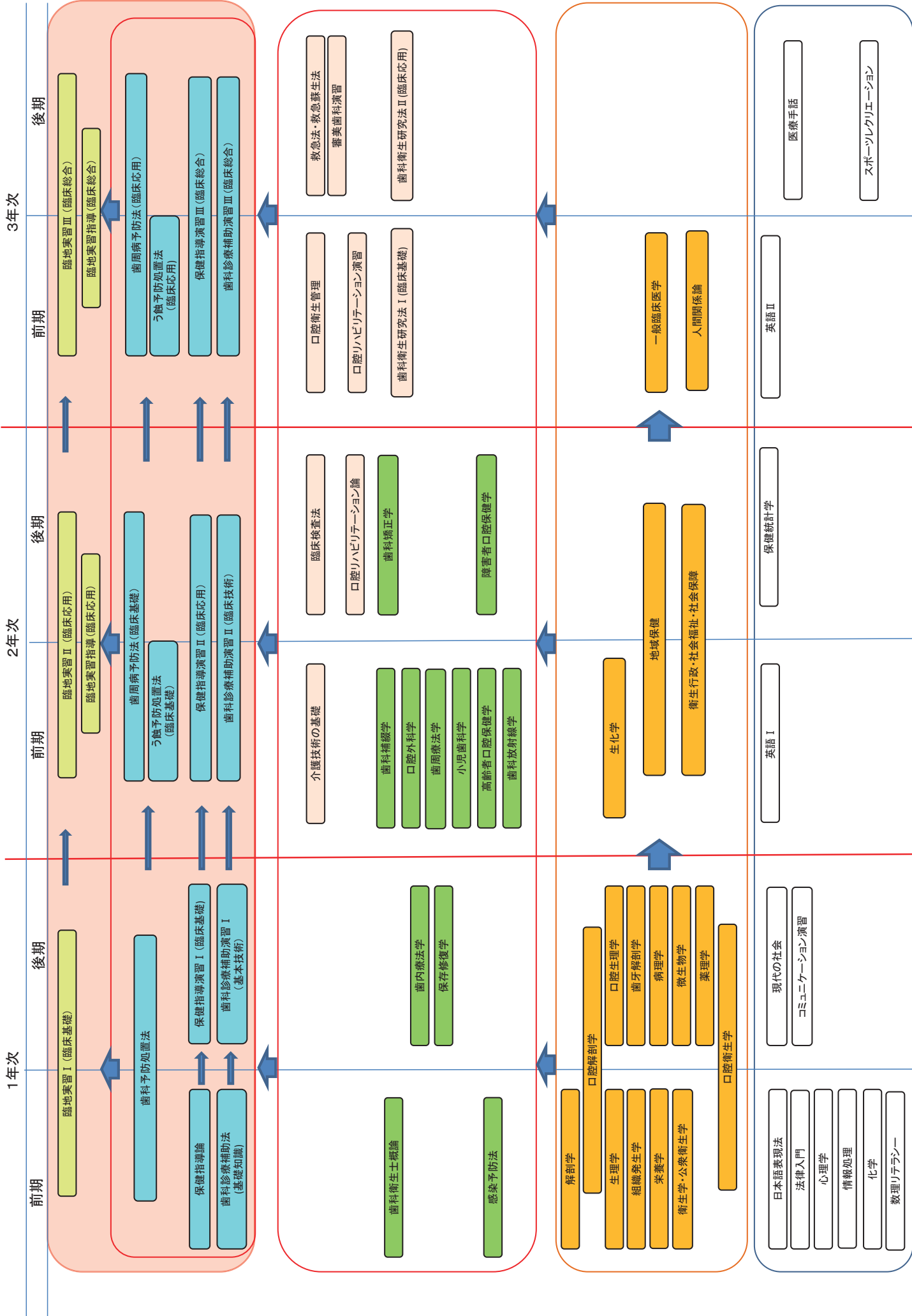
歯科衛生学科 1 年生

(2025年度入学生)

- カリキュラムツリー
- カリキュラムマップ
- 年間予定表
- シラバス

2025年度歯科衛生学科1年生 カリキュラムツリー

- 教養教育分野
- 専門展開科目 (講義)
- 専門展開科目 (演習)
- 専門支持科目
- 専門展開科目 (関連分野) (講義、演習)
- 実習



2025年度歯科衛生学科1年 カリキュラムマップ

学修成果（到達目標）	
1【基礎力】	一般教養並びに各専門分野の基礎的能力 ①全身と口腔の健康を理解し、歯科衛生士として必要な基本的な知識を身につける。 ②口腔疾患の原因、病態、予防方法を理解し、歯科衛生士としての専門性を理解し応用できる能力を身につける。 ③自らの健康管理ができ、社会人として責任を果たすことができる。
2【実践力】	各分野の実際の場面に対応できる力 ①疾病予防のために必要な情報を収集し、問題解決のための基本的な施術や適切な口腔衛生指導ができる。 ②安全で効果的な歯科医療を提供するため、基本的な技術を身につけて実践できる。 ③社会人として、また医療従事者として倫理観をもって行動できる。
3【人間関係力】	専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力 ①社会人としての責任感を自覚し周囲と良好な人間関係を築くことができる。 ②保健・医療・福祉チームの中で果たす役割を理解し、他者と連携しながら歯科衛生士の役割・責任を担うことができる。 ③他者との関わりの中で、自らの課題を見つける客観性と、改善・解決できる柔軟性を身につける。
4【生涯学習力】	生涯にわたって学び、成長できる力 ①学修内容に興味や関心をもち、主体的、意欲的に取り組むことができる。 ②専門職者として歯科医療における問題点をみつけ、自己学修によって解決できる。 ③専門職者として常に謙虚で自己の成長に努めることができる。
5【地域理解力】	地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力 ①地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感を持って積極的に行動できる。 ②地域の文化、人々の生活に興味、関心をもち、地域住民の視点にたちコミュニケーションをとることができる。
学修成果： 1 基礎力 2 実践力 3 人間関係力 4 生涯学習力 5 地域理解力	
学修成果とは、学生がその授業科目で何ができるようになったかを表すものです。 ●は、各授業科目が学修成果の1～5のどれに当てはまるかを表すものです。	

科目区分			授業科目の名称	授業回数	履修年次															単位数						
					1年		学修成果					2年		学修成果					3年			学修成果				
					前	後	1	2	3	4	5	前	後	1	2	3	4	5	前	後	1	2	3	4	5	必
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	15	○		●																		1		
		英語Ⅰ	15							○		●												1		
		英語Ⅱ	10														○		●					1		
		医療手話	10															○		●	●			1		
	人間と社会	法律入門	8	○		●																		1		
		現代の社会	8		○	●																		1		
		コミュニケーション演習	10		○		●	●	●															1		
		心理学	10	○		●		●																	1	
	人間と科学	数理リテラシー	8	○		●																		1		
		保健統計学	8								○	●												1		
		情報処理	15	○		●																		1		
		化学	10	○		●																			1	
		スポーツレクリエーション	10														○		●	●				1		
専門教育分野	専門支持科目	人体の構造と機能	解剖学	15	○		●																	2		
			生理学	15	○		●																	1		
			組織発生学	10	○		●																	1		
			口腔解剖学	20		○	●																	2		
		歯・口腔の構造と機能	口腔生理学	15		○	●																	2		
			歯牙解剖学	10		○	●																	1		
			病理学	15		○	●																	1		
			微生物学	15		○	●																	1		
	疾病の成り立ちと回復	薬理学	15		○	●																	1			
		栄養学	10	○		●																	1			
		生化学	10								○	●											1			
		一般臨床医学	10														○		●				1			
	健康と予防に関わる人間の社会の仕組み	衛生学・公衆衛生学	15	○		●																	1			
		口腔衛生学	30		○	●																	2			
		地域保健	15									○	●										2			
		衛生行政・社会福祉・社会保障	15									○	●										2			
			人間関係論	10													○		●		●			1		
	専門展開科目	歯科衛生士概論	歯科衛生士概論	15	○		●			●														2		
			歯内療法学	10		○	●																	1		
			保存修復学	10		○	●																	1		
			歯周療法学	15								○		●										1		
		臨床歯科医学	歯科補綴学	15								○		●										1		
			口腔外科学	15								○		●										1		
			歯科矯正学	15									○	●										1		
小児歯科学			15								○		●										1			
高齢者口腔保健学			10								○		●										1			
障害者口腔保健学			10									○	●										1			
歯科放射線学			10								○		●										1			
口腔衛生管理			10														○		●				1			
歯科予防処置論		歯科予防処置法	30		○	●																	2			
		う蝕予防処置法（臨床基礎）	10								○		●	●									1			
		歯周病予防法（臨床基礎）	30									○	●	●									2			
		う蝕予防処置法（臨床応用）	10														○			●			1			
歯科保健指導論		歯周病予防法（臨床応用）	20														○			●			2			
		保健指導論	15	○		●																	1			
		保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）	15		○		●	●	●														1			
		保健指導演習Ⅱ（臨床応用）	30								○		●	●									2			
	保健指導演習Ⅲ（臨床総合）	30														○			●	●		2				
	口腔リハビリテーション論	10									○	●										1				
	口腔リハビリテーション演習	10														○			●			1				
	歯科診療補助論	歯科診療補助法（基礎知識）	20	○		●																	2			
歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）		20		○	●	●																2				
歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）		30								○		●	●									2				
歯科診療補助演習Ⅲ（臨床総合）		20														○			●	●		2				
感染予防法		10	○		●	●																1				
臨床検査法		10								○		●	●									1				
救急法・救急蘇生法		15														○		●	●			1				
介護技術の基礎		15								○		●	●									1				
実習	審美歯科演習	10														○		●	●			1				
	臨地実習Ⅰ（臨床基礎）	集中		○	●	●	●															4				
	臨地実習Ⅱ（臨床応用）	集中								○		●	●	●	●							8				
	臨地実習指導（臨床応用）	15								○		●	●	●								1				
	臨地実習Ⅲ（臨床総合）	集中																			8					
	臨地実習指導（臨床総合）	15									○		●	●	●							1				
	特別科目	歯科衛生研究法Ⅰ（臨床基礎）	15														○		●				1			
		歯科衛生研究法Ⅱ（臨床応用）	15															○	●				1			
総計（卒業要件100単位以上）																									93	9

2025年度 歯科衛生学科1年生 年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月					1		2	実習着採寸	3	入学式 保護者会	4	オリエン テーション	5	
	6		7	健康診断	8	オリエン テーション	9		10		11		12	
	13		14		15		16		17		18		19	
	20		21		22		23		24		25		26	
	27		28		29	昭和の日	30		1		2		3	憲法記念日
5月	4	みどりの日	5	こどもの日	6	振替休日	7		8		9	合同交流会	10	
	11		12		13		14		15		16		17	
	18		19		20		21		22		23		24	
	25		26		27		28		29		30		31	
6月	1		2		3		4		5		6		7	
	8		9	歯科医院実習	10	歯科医院実習	11	歯科医院実習	12	実習報告会	13		14	
	15		16		17		18		19		20		21	
	22		23		24		25		26		27		28	
	29		30		1		2		3		4		5	
7月	6		7		8		9		10		11		12	
	13		14		15		16		17		18		19	
	20		21	海の日	22		23		24		25		26	
	27		28		29		30		31		1	定期試験	2	
8月	3		4	定期試験	5	定期試験	6	定期試験	7	定期試験	8	追試験	9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18	夏休み	19	夏休み	20	夏休み	21	夏休み	22	夏休み	23	
	24		25	夏休み	26	夏休み	27	夏休み	28	夏休み	29	夏休み	30	
	31		1	不合格者発表	2	夏休み	3	夏休み	4	再試験	5	再試験	6	
9月	7		8	再試験	9	夏休み	10	夏休み	11	夏休み	12	夏休み	13	
	14		15	敬老の日	16	夏休み	17	夏休み	18	夏休み	19	夏休み	20	

※振替授業日、追試験の日程、再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2025年度 歯科衛生学科1年生 年間予定表

後期

	日		月		火		水		木		金		土	
9月	21		22	後期開始	23	秋分の日	24		25		26		27	
	28		29		30		1		2		3		4	
10月	5		6		7		8		9		10		11	
	12		13	スポーツの日	14		15		16		17		18	
	19		20		21		22		23		24		25	せいよう祭
	26		27		28		29		30		31		1	
11月	2		3	文化の日	4		5		6		7	合同交流会	8	
	9		10		11		12		13		14		15	
	16		17		18		19		20		21		22	
	23	勤労感謝の日	24	振替休日	25		26	上杉山通小学校 実習	27	上杉山通小学校 実習	28		29	
	30		1		2		3		4		5		6	
12月	7		8		9		10		11		12		13	
	14		15		16		17		18		19		20	
	21		22		23		24		25	冬休み	26	冬休み	27	
	28		29	冬休み	30	冬休み	31	冬休み	1	元日	2	冬休み	3	
1月	4		5		6		7		8		9		10	
	11		12	成人の日	13		14		15		16	定期試験	17	
	18		19	定期試験	20	定期試験	21	定期試験	22	定期試験	23	追試験	24	
	25		26	歯科医院実習	27	歯科医院実習	28	歯科医院実習	29	歯科医院実習	30	歯科医院実習	31	
2月	1		2	歯科医院実習	3	歯科医院実習	4	歯科医院実習	5	歯科医院実習	6	歯科医院実習	7	
	8		9	歯科医院実習	10	中間報告会 不合格者発表	11	建国記念日	12	歯科医院実習	13	歯科医院実習	14	
	15		16	歯科医院実習	17	歯科医院実習	18	歯科医院実習	19	歯科医院実習	20	歯科医院実習	21	
	22		23	天皇誕生日	24	歯科医院実習	25	歯科医院実習	26	実習予備日	27	実習予備日	28	実習予備日
3月	1		2	実習報告会	3	実習報告会	4	実習報告会	5	再試験	6	再試験	7	
	8		9	再試験	10	再試験	11	春休み	12	春休み	13	春休み	14	
	15		16	春休み	17	(卒業式)	18	春休み	19	春休み	20	春分の日	21	
	22		23	春休み	24	春休み	25	春休み	26	春休み	27	春休み	28	
	29		30	春休み	31	春休み								

※振替授業日、追試験の日程、再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-01				
	●									
科目名	日本語表現法				単位認定者	徳田 幸雄		評価の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	40 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	書き言葉と話し言葉における日本語運用の基本を学び、論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。まず日本語の特徴的な知識について学び、日本語運用の基本を身に付ける。その上で、書き言葉・話し言葉等の様々な表現行為に触れ、自らも表現し、相手に伝わる表現について実践的理解を深める。具体的な場面での適切な表現方法を実際に考えることで、大学や社会で必要となる日本語表現の様々なスキルを獲得することを目指す。									
到達目標	・日常生活において、適切な言葉で表現・伝達できる力を身につける。 ・日本語の特徴を理解するとともに、正しい敬語表現を身につける。 ・目的に合わせた文章（文書）作成ができるようになる。									
学修者への期待等	日本語を知することは日本文化を知ることでもある。社会人のための教養という面だけではなく、自らの文化を再認識・再評価し、さらには自身のルーツを見つめ直す機会としてもらいたい。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス 世界から見た日本語の特徴					日本語と英語との相違を考えてみよう。(20分程度)				
2	日本語の歴史					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
3	ことばと表現①(熟語、語句)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
4	ことばと表現②(ことわざ、故事成語)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
5	敬語表現①(敬語の基本)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
6	敬語表現②(尊敬語と謙譲語)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
7	話してみよう①(インタビューとショートスピーチ)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
8	話してみよう②(グループディスカッション)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
9	修飾語と被修飾語との関係①(原則論)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
10	修飾語と被修飾語との関係②(練習問題)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
11	句読点の打ち方(原則論)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
12	句読点を打つ練習と文章要約(境界の点)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
13	句読点を打つ練習と文章要約(逆転の点)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
14	意見文の書き方(4STEPS)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
15	意見文の作成と句読点を打つ練習									
教科書	プリントを配布する。									
参考文献	『日本語の作文技術（朝日文庫）』本多勝一著（朝日新聞出版） 『大学生のための日本語表現実践ノート』米田明美他著（風間書房）									
備考	授業内課題については、次回講義でフィードバックを行う。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●					C0-0-HSO-04				
科目名	法律入門				単位 認定者	鈴木 一樹		評価の 方法	試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	16 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	社会生活をしていく上で必要な基本的な法律について学修する。特に日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げて、問題点、解決方法、回避方法など、具体的な事例を通じて理解し身につけていく。									
到達目標	社会問題を考える際の土台となる法律の基本的な用語や概念を理解し、説明できる。身近な法律問題の学習を通じて、自ら問題を解決するための思考方法を養う。									
学修者への 期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思いますので、復習を中心に取り組んで下さい。 法律用語と日常用語の違い、授業内で扱った事例や問題は、重点的に復習すること。その際、結論だけでなく理由も説明できるようにしておくこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	法律の意味と法律を学ぶ意味					法律に関するイメージを自分なりに持つておくこと (30分程度)				
2	憲法（1）基本的人権					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
3	憲法（2）統治機構					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
4	民法（1）総則・物権					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
5	民法（2）債権					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
6	民法（3）親族・相続					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
7	刑法（1）総論					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
8	刑法（2）各論					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
教科書	特に指定しない。必要に応じてレジュメや資料を配布する。									
参考文献	適宜講義内で紹介する。									
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。講義内容は、進度に応じて変更する場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

公認会計士として上場企業などの法定監査、税理士として税務業務に従事。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●					CO-0-HSO-03				
科目名	現代の社会				単位 認定者	吉田 理		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		※筆記試験はマークシート（60%）と レポート（20%）を同時内に実施 ※詳細は備考欄を参照すること。	
						授業時間数	16 時間		受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	現代の日本が世界の中でどのような立場にあるか、初めに日本及び主な国の文化・思想・宗教ならびに近代の歴史を学ぶことから理解をする。そのうえで政治・経済の視点を軸にして現代の日本の様々な問題点について学修し、現代の社会を生きるために不可欠な基本知識を身につけ、社会生活において適切な選択や判断ができることを目指す。									
到達目標	取り上げるテーマは、いづれも社会人として当然備うるべき常識と考えられる事項である。社会生活自体はもちろんのこと就職活動における面接等でそれらについて問われた際に、概略と自身の考えを述べられるようになることを目標とする。									
学修者への期待等	「自立した大人」になるための下地を作ってほしいという観点から、各人の専攻に関わらず社会人として当然知っておくべき事項を取り上げる。一般的な知識を修得し、良き職業人を目指すという意欲をもって受講してほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	「現代の社会」導入(現代世界概観-特に文化と歴史)					私たちを取り巻く現代社会について、その特徴を列挙し考察すること。(30分程度)				
2	現代社会の誕生(特に大衆社会)					前回の講義内容(「現代の社会」導入)を復習し、当日配布する確認テストに備えること。(1時間程度)				
3	現代社会の特質(特に生命科学と情報技術)					前回の講義内容(現代社会の誕生)を復習し、当日配布する確認テストに備えること。(1時間程度)				
4	現代社会と人間の本質(特に自己形成)					前回の講義内容(現代社会の特質)を復習し、当日配布する確認テストに備えること。(1時間程度)				
5	日本国憲法の基本的性格(特に社会権・参政権)					前回の講義内容(現代社会と人間の本質)を復習し、当日配布する確認テストに備えること。(1時間程度)				
6	日本の政治機構と政治参加(特に地方自治と政党政治)					前回の講義内容(日本国憲法の基本的性格)を復習し、当日配布する確認テストに備えること。(1時間程度)				
7	現代の経済社会(特に財政と金融)					前回の講義内容(日本の政治機構と政治参加)を復習し、当日配布する確認テストに備えること。(1時間程度)				
8	少子高齢化と国民の福祉(その原因と対策、社会保障の概要について) 附、レポート作成に当たって					前回の講義内容(現代の経済社会)を復習し、当日配布する確認テストに備えること。(1時間程度)				
教科書	『2025小論文頻出テーマ解説集 現代を知るplus』(第一学習社)									
参考文献	『別冊NHK 100分de名著 読書の学校 特別授業 君たちはどう生きるか』池上彰著(NHK出版(2017)) 各項目について報道している日刊新聞(購読していない場合は各社のweb版でも可。ただし不特定者によるまとめ記事はむしろ不可)									
備考	講義は板書を中心に進めるのでノート(大学ノート推奨)を準備すること。 試験は、同時内にマークシート解答とレポート作成を実施する。レポート作成の要領については講義内で説明するので集中して聞くこと。なお、持込一切不可である。 受講態度は、出席状況のほか、私語・飲食・電子機器操作・居眠りの禁止等を想定している。 また、何らかの事情でオンデマンド講義に切り替わった場合には試験を中止し、レポートのみで評価することもあり得るので心得ておくこと。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング DH-0-HSO-01				
		●	●							
科目名	コミュニケーション演習				単位 認定者	松本 寛子		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	20 時間			
					授業形態	演習	授業回数		10 回	
授業の概要	教養を形成する上で、礼儀・作法をはじめとして型から入ることによって身体感覚として身につけられる修養的教養は重要な意義をもっている。社会人としてビジネスマナーのみならず、医療や介護の現場で必要とされる接遇やマナーを身につけるために、グループワークやロールプレイングなどの演習を中心に学んでいく。									
到達目標	社会人としての一般常識と医療職者としてのマナーを演習を通じて身につけ、さらに患者接遇の基礎知識やマナーについて実践できる能力を修得する。									
学修者への期待等	幅広い年代の患者様との接遇に備え、専門分野のみならず幅広い知識と洞察力を養ってほしい。日頃から適切なマナーを心がけ、コミュニケーション能力向上を目標に授業以外でも常に実践していただきたい。									
回	授業計画					準備学修				
1	コミュニケーションについて理解する 多様性について考える					これから社会に出て仕事をするうえで大切だと思うこと・ 楽しみなこと・心配なことを簡単にまとめてきてください。 (20分程度)				
2	発音・発声 伝わりやすくするための技術 パブリックスピーキングとは					自分の声・話す速度などについて録音し聞き返して客観的に分析してきてください(20分程度)				
3	言葉遣い・敬語について 丁寧語、尊敬語、謙譲語、美化語					敬語についての必要性について考えてきてください。(10分程度)				
4	言葉遣い・敬語について 間違いやすい敬語、クッションことば					前回の講義を踏まえ実践的な接遇のロールプレイングの準備をしてきてください。(15分程度)				
5	電話対応(様々なケースに対応できるよう実践力を高める)					ビジネスの場での電話対応で求められることとはどんなことか考えてきてください。(10分程度)				
6	電話対応(伝言メモなどの作成で応用力を高める)					前回の講義を踏まえ実践的な電話対応のロールプレイングの準備をしてきてください。(15分程度)				
7	社会人としてのマナーを身につける					社会人としてのマナーについてどんなものがあるかを自分なりに知り、またその必要性について考えてきてください。(20分程度)				
8	ビジネス文書(お礼状作成を通じ決まり事を理解する)					身の周りの実際のビジネス文書に触れ、どんなものがあるか、どんな内容か目を通してきてください。(15分程度)				
9	プレゼンテーションのテクニック					説明したり納得してもらうための伝え方の工夫を考えてきてください。(15分程度)				
10	プレゼンテーションスピーチを行い伝える力を養う					テーマ「私のおすすめする物(こと)」で、60秒程度でスピーチできるようまとめて、練習してきてください。(60分程度)				
教科書	配布したプリントでの講義・演習となります									
参考文献	・一般社団法人日本話しことば協会テキスト ・即戦力になる!!ビジネスコミュニケーション第2版 箱田忠昭著 日経BP 社									
備考	授業内課題として小テスト後、授業内で採点・総括します。実践・演習を交えながら一般的なコミュニケーションスキルを身につけ、ビジネスの場においても応用、実践できるようにします。2クラスに分かれて授業を実施します。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-0-HSO-02					
	●		●								
科目名	心理学				単位認定者	真 覚 健		評価の方法	試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	20 %	
						授業時間数	20 時間		受講態度	10 %	
					授業形態	講義	授業回数		10 回		
授業の概要	人間を理解するため、自分をより知るために、心理学という学問を体系的に学ぶ。認知心理学をはじめ、認知発達及び社会発達、パーソナリティー、社会心理学といった主な領域を中心に、心理学全般における理解と基礎的知識の修得を目指す。										
到達目標	1:心理学の基礎的知識について説明できる。 2:心理学的な見方や考え方を理解し、説明できる。 3:社会に対する心理学の役割について説明できる。										
学修者への期待等	資料をあらかじめ配布するので事前に熟読すること。 日常生活で経験する事象と結びつけて理解するよう期待します。										
回	授業計画					準備学修					
1	心理学とは(心理学と自然科学)					心を科学的に扱うための工夫、心理学の対象について調べておくこと(1時間程度)					
2	発達					発達課題について調べておくこと(1時間程度)					
3	感覚・知覚・認知					感覚的順応、恒常性、対比と同化について調べておくこと(1時間程度)					
4	学習					随伴性学習、技能学習について調べておくこと(1時間程度)					
5	記憶					短期記憶・長期記憶の特徴について調べておくこと(1時間程度)					
6	欲求と動機づけ					内発的動機づけ、適応機制について調べておくこと(1時間程度)					
7	パーソナリティ					類型論と特性論について調べておくこと(1時間程度)					
8	感情・情動					基本的感情、表情について調べておくこと(1時間程度)					
9	社会・集団					集団の種類、集団規範について調べておくこと(1時間程度)					
10	日常生活上の問題(外見に関する問題)					ルッキズムについて調べておくこと(1時間程度)					
教科書	特に指定しません。資料は配付します。										
参考文献											
備考	毎回レスポンスシートへの回答を求め、次回の授業でフィードバックを行う。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●					CO-0-HSC-02				
科目名	数理リテラシー				単位 認定者	今村 博之 中島 拓		評価 の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業時間数	16 時間			
						授業回数	8 回			
授業の概要	数学の基礎・基本を身に付け、数式・表・グラフ等の活用を通して数学的処理の“良さ”を知ることにより、統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用能力を身につけます。									
到達目標	本科目では、筋道を立て、客観的に物事を考えることができることを目的とし、日常生活のあらゆる場面で役立つ計算力やデータ、表やグラフなどを読み取ることができる。また、人工知能に触れ、適切な使用法や倫理観を理解できる。									
学修者への期待等	日常でよく使う計算、算数・数学的な考え方とデータについての基本を習得するための科目です。授業前に準備学修を終わらせ、基本的な考え方を習得しておいてください。授業後は1時間程度の復習をし、考え方や処理が不明の箇所がある場合は積極的に質問してください。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	分数や小数の計算・四則計算					(特になし)			今村 博之	
2	割合と百分率(損益算・仕事算・濃度算)					前回範囲の問題を解いておく (概ね1時間)			今村 博之	
3	速さ(速さ・時間・距離、旅人算)					前回範囲の問題を解いておく (概ね1時間)			今村 博之	
4	数的推理①(図形)					前回範囲の問題を解いておく (概ね1時間)			今村 博之	
5	数的推理②(確率)					前回範囲の問題を解いておく (概ね1時間)			今村 博之	
6	統計の基礎①(実数、指数)					前回範囲の問題を解いておく (概ね1時間)			今村 博之	
7	統計の基礎②(総量と構成比、増加率)					前回範囲の問題を解いておく (概ね1時間)			今村 博之	
8	生成AIの利用と倫理					参考文献に記載の事前学習資料を参照し、注意事項に沿って生成AIの利用体験			中島 拓	
教科書	『数的推理[問題編]』、『数的推理[解答編]』（大原出版株式会社、ISBNコードなし）									
参考文献	第8回講義の事前学習資料： https://seiyogakuinac-my.sharepoint.com/:w:/g/personal/admini_seiyogakuin_ac_jp/EYpAtrfYN_9Pm8P0ypvj6vsBcJlVq-2tFJYcyp2zl5908w?e=JxW4xN									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSC-01				
	●									
科目名	情報処理				単位 認定者	氏家 留美子		評価の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
							授業回数		15 回	
授業の概要	現代のコミュニケーションツールとして重要な位置を占めるパソコンを用いて、文書作成やデータ処理など情報伝達・発信方法の基礎を学ぶ。加えて、パソコンをコミュニケーションツール、ビジネスツールとして活用する能力を養う。また、パソコンを使う者のマナー、情報保護の意識等も学修する。									
到達目標	パソコンの基本操作を修得し、Word・Excel・PowerPointの効率的な使用能力を身につける。 ◆Word：書式設定や印刷設定を適切に使える。表・図形・写真を取り入れた表現力のある文書を作成できる。 ◆Excel：書式設定をして表を整えることができる。適切な計算式や関数を使える。グラフを作成できる。 ◆PowerPoint：プレゼンテーションについて理解し、訴求力のあるスライド作成とスライドショー実施ができる。 さまざまなITツールの活用で、情報を整理・評価し、ICTを活用した情報分析が出来るようになる。									
学修者への期待等	基本から応用操作まで、学生が自身のスキルを見つめ直し成長することを期待する。 操作に不慣れな学生は、この機会に基礎を固めること。既にスキルを持つ学生もさらなる向上を目指してほしい。 操作がわからない部分は、演習中に質問して確実に理解を深めること。 教材データを保存するために、USBメモリを授業2回目以降で使用する。授業1回目の時にUSBメモリについては詳しく説明するので、2回目の授業までに各自準備しておくこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	Word（実技）：ビジネス文書の基礎知識（ビジネス文書の構成と作成方法）					【予習について】 マウス操作・入力操作は各自できるようにして授業に臨むこと。特に入力操作が苦手な場合は、タイピングの練習をして技術を向上させること。 (30分程度) 【復習について】 Word・Excelは、はじめは基礎内容から入り、段階的に応用内容に進んでいくため、各回の内容をしっかりと身につけ、次の授業へ臨むこと。 授業内に完成しなかった作成物は、次回までに完成しておくこと。 これまでの経験によって、パソコンスキル（技能）は異なるため、自分の現在のスキルを把握し、学修したパソコン操作が身につけていないと感じる場合は、授業で作成したものを繰り返し操作して復習すること。 (各自のスキルにより30分～1時間程度)				
2	Word（実技）：Wordの基本操作（書式設定・印刷設定） 情報セキュリティ：脅威を与える影響とセキュリティ対策									
3	Word（実技）：情報の整理（表を用いた文書作成）									
4	Word（実技）：いろいろな書式設定の活用方法（段落の網かけ・均等割り付け・ルビ・囲い文字・傍点・段組み・ヘッダーフッター）									
5	Word（実技）：文書の表現力アップ（イラスト・写真・ワードアート・図形描画）									
6	Word（実技）：レポートなどの長文作成をサポートする操作（見出しスタイルの利用・目次作成・検索・置換） 著作権の知識：著作権の概念・著作権侵害・引用のルール									
7	PowerPoint（実技）：プレゼンテーションの構成・箇条書きや表を用いた情報の整理・図形や画像の効果的な利用法・スライドショーの実施・印刷設定									
8	PowerPoint（実技）：アニメーションの設定・図解表現の手法・指示するテーマで、伝わるプレゼンテーションの課題作成									
9	Excel（実技）：Excelの基本操作（四則演算・SUM、AVERAGE関数・書式設定・行列操作・表示形式・印刷設定）									
10	Excel（実技）：数式を効率的かつ正確に作る（相対参照と絶対参照の使い分け）									
11	Excel（実技）：数値を評価するための基本的関数（MAX・MIN・COUNT・COUNTA）									
12	Excel（実技）：データを視覚的に分析・評価（グラフ作成）									
13	Excel（実技）：基準に基づくデータの整理や抽出（データベースのしくみ・並べ替え・フィルター）									
14	Excel（実技）：データを条件付きで処理・集計（IF・COUNTIF・SUMIF関数など） 関数のまとめ①（データの評価・集計するための関数の活用）									
15	Excel（実技）：特定の値を基に検索とデータ取得（VLOOKUP関数など） 関数のまとめ②（データの整理・分析するための関数の活用）									
教科書	『30時間アカデミック Office2021 Windows11対応』 杉本くみ子／大澤栄子 著 実教出版									
参考文献	進行に応じてプリントを配付する。									
備考	「試験」は、Word・Excel・PowerPointの使用方法に関する筆記試験を行う。 「課題」は、指示した作成ファイルをデータ形式で提出する。内容を確認し、以後の授業で講評する。 情報処理室で授業を実施する。パソコンの操作手順を示す際に講師の操作画面を各学生のパソコン画面へ映す授業支援システム(SkyClassesMng)を利用する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング DH-0-HSC-02				
	●									
科目名	化学				単位 認定者	石澤 公明		評価 の方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題(レポート)	10 %
						授業時間数	20 時間		受講態度(毎回の授業内課題を含む)	30 %
					授業形態	講義	授業回数		10 回	
授業の概要	化学とは物質の構造・性質及び物質相互の反応を研究する学問である。化学の基礎的知識や化学物質の性質を理解し、化学が現代の社会や生活において欠かせないことを認識する。さらに、歯科臨床でも役立つ化学の基礎について視覚教材を活用して理解していく。									
到達目標	高校で学ぶ化学を基本としてそれを更に発展させ、歯科衛生士の専門知識を学ぶために必要となる化学の基礎知識を修得する。									
学修者への期待等	講義で指定した教科書の範囲を必ず予習し、出席すること。質問があれば、講義中に発言するか、配付する用紙に記入して下さい。教師との積極的なコミュニケーションを期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業内課題と提出方法について説明及び物質Ⅰ(原子と周期律)				教科書 1章①物質の分類、②物質の構造、③原子の電子配置、④元素の周期律(p2-p14)、7章②ヒトを形づくる元素(p133-134)、予習・復習は概ね1時間					
2	物質Ⅱ(物質質量)				教科書 1章⑤物質質量(p14-p15)、予習・復習は概ね1時間					
3	物質Ⅲ(化学結合)				教科書 1章⑥化学結合(p16-p23)、予習・復習は概ね1時間					
4	気体の性質				教科書 2章気体について知ろう(p26-p40)、予習・復習は概ね1時間					
5	水溶液の性質				教科書 3章①水溶液の濃さの表し方、②希薄水溶液の示す不思議な性質(p42-p58)、7章①水はいったんどこに存在する(p130-p132)予習・復習は概ね1時間					
6	コロイド溶液の性質				教科書 3章③身のまわりにはコロイドがいっぱい(p59-p66)、予習・復習は概ね1時間					
7	酸とアルカリ				教科書 3章④酸とアルカリの水溶液(p67-p77)、予習・復習は概ね1時間					
8	酸化還元反応				教科書 4章酸化とは、還元とは(p80-p86)、予習・復習は概ね1時間					
9	化学反応				教科書 5章化学反応では原子の組換えが起こっている(p88-p96)、予習・復習は概ね1時間					
10	総復習				教科書 1章章末問題(p24)、2章章末問題(p40)、3章章末問題(p77-78)、4章章末問題(p86)、5章章末問題(p96)、予習・復習は概ね2時間					
教科書	『歯科衛生学シリーズ 化学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『コ・メディカル化学』齋藤勝裕・荒井貞夫・久保勘二共著 裳華房									
備考	授業内課題(レポート)は、最初の講義で課題を提示します。紙媒体(A4レポート用紙一枚)で、期日内に提出して下さい。そのフィードバックは、最後の講義で行います。上記レポート課題とは別に、毎回講義で出題する課題及び質問等を配布する用紙に記入し、講義終了時に提出して下さい。その課題解答や質問等のフィードバックは、次回以降の講義中に行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-01				
	●									
科目名	解剖学				単位認定者	小野寺 健		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	解剖学では主に人体の形・構造とその成り立ちを追求する。これは全身の健康や病気を理解する上でその初めとなる重要なステップとなる。本科目では、人体の正常な形・構造を体系的に理解する。また、全身の構造について口腔内の構造との対比の中で理解していく。									
到達目標	解剖学の種類や分類について学び人体の正常な形態と構造について理解する。また、人体を構成する各器官の位置形態および構造を修得し、各系統ごとに整理して理解する。									
学修者への期待等	人体の構造に関する知識は、すべての医学分野の学修において欠く事のできないものといえる。日々の授業の中で十分な理解と共に修得に努めてほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	総論(解剖学の意義・用語) レポートの書き方				教科書1～10ページを読んでおくこと。(概ね20分)					
2	骨格系①(骨の構造、形態、連結、発生)				教科書46～54ページを読んでおくこと。(概ね20分)					
3	骨格系②(各論)				教科書56～63ページを読んでおくこと。(概ね20分)					
4	筋と運動①(筋の形状・分類、構造と機能)				教科書64～70ページを読んでおくこと。(概ね20分)					
5	筋と運動②(頭部、頸部、背部)				教科書70～74ページを読んでおくこと。(概ね20分)					
6	筋と運動③(胸部、腹部、上肢、下肢)				教科書74～80ページを読んでおくこと。(概ね20分) 次回の授業時、より理解を深めるために骨格系・筋系の領域について小テストを行う予定。(事前に概ね2時間の学修が必要)					
7	消化器の構造①(上部消化管)				教科書84～90ページを読んでおくこと。(概ね30分)＋小テスト					
8	消化器の構造②(下部消化管)				教科書91～94ページを読んでおくこと。(概ね20分)					
9	消化器の構造③(肝臓、胆嚢、膵臓)				教科書94～97ページを読んでおくこと。(概ね20分)。より理解を深めるために消化器系に関するレポート課題を出す。(図書室、情報処理室で概ね2時間必要となる課題)。					
10	神経系				教科書179～203ページを読んでおくこと。(概ね30分)					
11	循環系①(心臓、動脈系)				教科書121～143ページを読んでおくこと。(概ね20分)					
12	循環系②(静脈系、リンパ系)				教科書143～154ページを読んでおくこと。(概ね20分)					
13	呼吸器系				教科書213～222ページを読んでおくこと。(概ね20分)					
14	泌尿器系				教科書234～238ページを読んでおくこと。(概ね20分)					
15	生殖器系				教科書259～263ページを読んでおくこと。(概ね20分)					
教科書	『歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	適宜、参考資料を配付する。									
備考	小テスト・レポート課題は回収後、採点し、次回総括する。講義の進行具合によっては、シラバスの授業計画は前後することもある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-02				
	●									
科目名	生理学				単位 認定者	小野寺 健		評価 の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	ヒトの身体は様々な器官や組織から構成されている。これら器官・組織がどのような働きをしているか、また、その働きがどのような仕組みで行われるかを学修するのが生理学である。その仕組みを理解することで、様々な病気の仕組みも理解することが容易になる。									
到達目標	どのようにして生体は一定の状態を保とうとするのか(ホメオスタシス)について、神経系と内分泌系の両面から理解する。									
学修者への期待等	人間の体はさまざまな細胞や臓器からできており、それらが協力して働いている。まずは、全体を大きく把握することからはじめてほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	生理学概論					教科書9～10ページを読んでおくこと。(15分程度)				
2	細胞の構造と基本機能					教科書14～20ページを読んでおくこと。(20分程度)				
3	血液①(成分と機能)					教科書112～117ページを読んでおくこと。(20分程度)				
4	血液②(血液凝固、血液型)					教科書118～122ページ読んでおくこと。(20分程度) 次回の授業時、細胞・血液に関する小テストを行う予定。(2時間程度の事前学修が必要)				
5	循環器系(心臓の働き、心電図、血管の機能)					小テスト(細胞、血液)実施予定。教科書127～139ページを読んでおくこと。(20分程度)				
6	呼吸器系(呼吸運動、肺気量、呼吸の調節)					教科書222～232ページを読んでおくこと。(20分程度)				
7	筋系(筋の収縮と微細構造、筋電図)					教科書65～69、80～83ページを読んでおくこと。(20分程度)				
8	神経系①(基本機能、中枢神経)					教科書183～184、191～193ページを読んでおくこと。(20分程度)				
9	神経系②(末梢神経、自律神経)					教科書204～232ページを読んでおくこと。(20分程度)				
10	感覚系(感覚の性質と種類、体性感覚、感覚情報の伝達)					教科書156～160ページを読んでおくこと。(20分程度) より理解を深めるために神経・感覚器系に関するレポート課題を出す。(図書室、情報処理室で概ね2時間必要となる課題)なお、提出はUNIPAによる電子投稿を予定している。				
11	消化と吸収					教科書97～105ページを読んでおくこと。(20分程度)				
12	排泄(排便・排尿)、体温					教科書106～108、238～243ページを読んでおくこと。(20分程度)				
13	内分泌系①(脳下垂体、甲状腺、上皮小体)					教科書246～251ページを読んでおくこと。(20分程度)				
14	内分泌系②(睪、副腎、精巣、卵巣)					教科書251～256ページを読んでおくこと。(20分程度)				
15	生殖(性周期、受精と妊娠)					教科書259～268ページを読んでおくこと。(20分程度)				
教科書	『歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	適宜、参考資料を配付する。									
備考	小テスト・レポート課題は回収後、採点し、次回総括する。講義の進行具合によっては、シラバスの授業計画は前後することもある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング DH-1-DHB-03				
	●									
科目名	組織発生学				単位 認定者	小野寺 健		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	20 時間		受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業回数		10 回	
授業の概要	人体において基本的な単位とは細胞であり、細胞が集まって組織となり、組織が集まって器官となり、器官が集まって器官系をなす。人体を構成する構造について階層的に学び、構造と機能の関係や各器官の特徴を理解する。さらに、人体が一つの受精卵から組織・器官に分化してゆく発生機序について理解する。									
到達目標	人体を構成する各種細胞、組織における種類と微細構造、細胞の分化・構築・機能を理解する。また、人の発生時の構造について理解する。									
学修者への期待等	肉眼では確認できない細胞・組織の構造について理解できるよう努めてほしい。また、発生過程での受精卵の動態について理解できるよう努めてほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	細胞、組織(上皮組織、支持組織)					教科書①12～30ページを読んでおくこと。(概ね20分)				
2	組織(筋組織、神経組織)、造血器官とリンパ性器官(血液、血管、循環器系、リンパ系)					教科書①64～65、179～182、109～111、149～154ページ読んでおくこと。(概ね20分) 次回授業時、細胞、組織に関する小テストを行う予定。(概ね1時間の事前学修が必要)				
3	口腔組織(エナメル質、象牙質)					小テスト(細胞、組織)実施予定。教科書②218～235ページを読んでおくこと。(概ね20分)				
4	口腔組織(セメント質、歯髄、歯根膜、歯槽骨)					教科書②236～251ページを読んでおくこと。(概ね20分)				
5	発生(染色体、受精と着床、胚葉)					教科書①31～43ページを読んでおくこと。(概ね20分)				
6	皮膚と粘膜					教科書①161～167ページを読んでおくこと。(概ね20分)				
7	呼吸器系、泌尿器系					教科書①213～222、234～238ページを読んでおくこと。(概ね20分)				
8	感覚器系、神経系					教科書①167～178、185～190、196～203ページを読んでおくこと。(概ね20分)				
9	消化器系					教科書①84～97ページを読んでおくこと。(概ね20分)				
10	内分泌系					教科書①246～254ページを読んでおくこと。(概ね20分)				
教科書	①『歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 ②『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	適宜、参考資料を配付する。									
備考	小テストは回収後、採点し、次回総括する。講義の進行具合によっては、シラバスの授業計画は前後することもある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-04				
	●									
科目名	口腔解剖学				単位 認定者	小野寺 健 白石 成		評価 の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題等	10 %
						授業時間数	40 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	20 回			
授業の概要	口腔とは消化管の始まりの部分であり、食物摂取、咀嚼、嚥下などの一連の役割がある。本科目では、口腔疾患に携わる歯科衛生士に必要な、歯・口腔とその周囲組織の形・構造に関する理解を深める。また口腔に関する発生について理解を深める。									
到達目標	歯・口腔とその周囲組織の構造・機能に関する理解を深め、説明できる。									
学修者への期待等	口腔の解剖に関する知識は、臨床を行う上でも不可欠なものとなる。学修量が多いので必ず復習をすること。また、必ず授業に参加すること。定期試験以外にも適宜小テストを行う。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	口腔解剖学総論 頭蓋の骨 ①(頭蓋の骨の全体像・頭蓋の前面)					「Ⅰ編 歯・口腔の構造 1章 ②口腔を構成する骨」のうち、対応する部位を読んで授業に臨む。(概ね20分)			小野寺 健	
2	頭蓋の骨 ②(頭蓋の上面・後面・側面)					「Ⅰ編 歯・口腔の構造 1章 ②口腔を構成する骨」のうち、対応する部位を読んで臨むこと。(概ね20分)			小野寺 健	
3	頭蓋の骨 ③(頭蓋の下面・内面)					「Ⅰ編 歯・口腔の構造 1章 ②口腔を構成する骨」のうち、対応する部位を読んで臨むこと。(概ね20分)			小野寺 健	
4	頭蓋の骨 ④(上顎骨、口蓋骨)					「Ⅰ編 歯・口腔の構造 1章 ②口腔を構成する骨」のうち、対応する部位を読んで臨むこと。(概ね20分)			小野寺 健	
5	頭蓋の骨 ⑤(下顎骨、舌骨)					「Ⅰ編 歯・口腔の構造 1章 ②口腔を構成する骨」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。 <u>次回小テストを行う予定。(概ね2時間準備必要)</u>			小野寺 健	
6	顎関節(顎関節の構造と働き)					「Ⅰ編 歯・口腔の構造 1章 ④顎関節」の部位を読んで授業に臨むこと。(概ね30分)			小野寺 健	
7	口腔の構成①(口唇、頬、歯肉)					「Ⅰ編 歯・口腔の構造 1章 ①口腔とは」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね30分)			小野寺 健	
8	口腔の構成②(口蓋、舌下部、舌、味蕾)					「Ⅰ編 歯・口腔の構造 1章 ①口腔とは」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)			小野寺 健	
9	唾液腺(三大唾液腺、小唾液腺)、咽頭と喉頭の構造					「Ⅰ編 歯・口腔の構造 1章 ⑦唾液腺」、「Ⅲ編 歯・口腔の機能 4章 嚥下と嘔吐」を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)			小野寺 健	
10	口腔、歯胚の発生					Ⅱ編 歯および歯周組織の発生 1章顔面と口腔の発生、Ⅱ編2章歯と歯周組織の発生、を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)			小野寺 健	

回	授業計画	準備学修	担当
11	頭頸部の筋肉について(総論) 頭頸部の筋 ①(顔面筋)	「2章 ③頭頸部の筋と作用」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	白石 成
12	頭頸部の筋 ②(咀嚼筋とその作用、舌骨上筋群、舌骨下筋群とその作用)	「2章 ③頭頸部の筋と作用」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	白石 成
13	口腔付近の動脈 ①(脈管系総論と総頸動脈、外頸動脈の枝・舌動脈と顔面動脈)	「2章 ⑤口腔付近に分布する脈管系」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	白石 成
14	口腔付近の動脈・静脈 ②(顎動脈とその分枝、内頸静脈、下顎後静脈など)	「2章 ⑤口腔付近に分布する脈管系」のうち、動脈系の対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	白石 成
15	頭頸部のリンパ系(頭頸部のリンパ節の分布)	「2章 ⑤口腔付近に分布する脈管系」のうち、リンパ系の部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	白石 成
16	神経学総論	「2章 ⑥神経」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	白石 成
17	頭頸部の神経 ①(脳神経__嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、外転神経)	「2章 ⑥神経」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	白石 成
18	頭頸部の神経 ②(顔面神経、内耳神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経)	「2章 ⑥神経」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	白石 成
19	頭頸部の神経 ③(三叉神経とその分枝)	「2章 ⑥神経」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	白石 成
20	頭頸部の神経 ④(脊髄神経と自律神経系)	「2章 ⑥神経」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	白石 成
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 頭蓋骨の模型・プロジェクターを使用する。プリントを配布する。		
参考文献	適宜紹介する。		
備考	小野寺分、白石分ともに、基本的に対面授業で行う。 小テストは個別に実施し、頭蓋骨を手にして、各部名称、神経・付着筋についての概要が説明できるようにする。 授業内課題については、確認後にフィードバックを行う。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

【白石】歯科医師として、特に、歯の欠損や骨欠損に対する補綴歯科治療、また、摂食嚥下リハビリテーションをサブスペシャリティとしている。両分野とも、筋や神経に対する知識、それらが生成する咀嚼運動や顎運動への理解が重要であり、これらの実務経験を活かした口腔解剖に関する授業を実施する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング DH-1-DHB-05				
	●									
科目名	口腔生理学				単位 認定者	小山 重人		評価の 方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	高齢者・要介護者が抱える諸問題の中でも咀嚼・嚥下・発声の障害は大きな問題となっている。歯・口腔とその周囲組織の機能は、正常な咀嚼・嚥下・発声に重要にかかわっている。本科目では、歯・口腔とその周囲組織の生理機能に関する基礎知識を修得する。									
到達目標	歯・口腔とその周囲組織の生理機能に関する基礎知識を修得する。									
学修者への 期待等	全身の解剖・生理の基本的知識を踏まえた上で、授業に臨むことを期待する。また、教科書などによる予習・復習を行い、授業内容を十分に理解することを期待する。									
回	授業計画				準備学修					
1	歯・口腔、顔面の感覚				[事前]教科書のⅢ編1章「歯・口腔、顔面の感覚」を読んで来ること(30分程度)。					
2	味覚と嗅覚1（味覚）				[事前]教科書のⅢ編2章「味覚」を読んで来ること(30分程度)。					
3	味覚と嗅覚2（嗅覚）				[事前]教科書のⅢ編2章「嗅覚」を読んで来ること(30分程度)。 [事後]次回、1～3回目の講義で学んだ内容について小テストをする予定。教科書、ノート、配布プリントなどで復習をすること(2時間程度)。					
4	咬合と咀嚼・吸啜1（下顎位、下顎の運動）				[事前]教科書のⅢ編3章「下顎位」、「下顎の運動」を読んで来ること(30分程度)。					
5	咬合と咀嚼・吸啜2（顎反射、摂食行動）				[事前]教科書のⅢ編3章「顎反射」、「摂食行動」を読んで来ること(30分程度)。					
6	咬合と咀嚼・吸啜3（咀嚼能力、口腔機能）				[事前]教科書のⅢ編3章「咀嚼能力」を読んで来ること(30分程度)。					
7	咬合と咀嚼・吸啜4（咀嚼能力、吸啜）				[事前]教科書のⅢ編3章「咀嚼能力」、「吸啜」を読んで来ること(30分程度)。 [事後]次回、4～6回目の講義で学んだ内容について小テストをする予定。教科書、ノート、配布プリントなどで復習をすること(2時間程度)。					
8	嚥下と嘔吐1（嚥下とは、咀嚼・嚥下時の筋の働きと食塊の動き）				[事前]教科書のⅢ編4章「嚥下とは」、「咀嚼・嚥下時の筋の働きと食塊の動き」を読んで来ること(30分程度)。					
9	嚥下と嘔吐2（嚥下の神経機構、嚥下の病態）				[事前]教科書のⅢ編4章「嚥下の神経機構」、「嚥下の病態」を読んで来ること(30分程度)。					
10	嚥下と嘔吐3（嚥下と検査）				[事前]教科書のⅢ編4章「嘔吐」を読んで来ること(30分程度)。 [事後]次回、7～9回目の講義で学んだ内容について小テストをする予定。教科書、ノート、配布プリントなどで復習をすること(2時間程度)。					
11	嚥下と嘔吐4（嘔吐）				[事前]教科書のⅢ編4章「嘔吐」を読んで来ること(30分程度)。 [事後]次回、7～9回目の講義で学んだ内容について小テストをする予定。教科書、ノート、配布プリントなどで復習をすること(2時間程度)。					
12	発声・発語1（発声機構の概要 声の生成、構音のメカニズム）				[事前]教科書のⅢ編5章「発声機構の概要」、「声の生成」、「構音のメカニズム」を読んで来ること(30分程度)。					
13	発声・発語2（歯・口腔の病態と構音）				[事前]教科書のⅢ編5章「歯・口腔の病態と構音」を読んで来ること(30分程度)。					
14	唾液1（唾液の分泌機構・性状・成分と機能）				[事前]教科書のⅢ編6章「唾液の分泌機構」「唾液の性状・成分と機能」を読んで来ること(30分程度)。					
15	唾液2（唾液と疾患）				[事前]教科書のⅢ編6章「唾液と疾患」を読んで来ること（30分程度）。 [事後]15回の講義で学んだ内容を、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること(2時間程度)。					
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献										
備考	小テストを採点后、授業内で総括する。講義の進行具合によっては、シラバスの授業計画は前後する事もある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

歯科医師として咬合・咀嚼・嚥下などに問題がある様々な症例を経験してきた。その実務経験を活かし、口腔生理学に関して具体的な臨床に結び付けた授業を展開する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
						DH-1-DHB-06				
	●									
科目名	歯牙解剖学				単位 認定者	小野寺 健 佐々木 聡		評価の方法	小テスト	20 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題 (歯牙鑑別)	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		20 時間	授業内課題 (デッサン)
							授業回数		10 回	
授業の概要	ヒトの歯の形態、歯の発生、歯の組織を理解し、歯そのものの歯冠及び歯根形態を学ぶ。また、歯周組織との関連を理解する。スケッチ描画等を通して乳歯、永久歯の各歯牙の形態、機能の特徴を明確に把握する。									
到達目標	歯科医療に従事する者として、その最も基礎的な知識であるヒトの歯の表示法や記号、歯種鑑別、歯列と咬合との関連性、歯種別の歯の形態そして歯の形態異常を学ぶ。またスケッチ描画を通して歯そのものの歯冠及び歯根形態を学ぶ。									
学修者への期待等	覚えるべき専門用語が多いので、必ず事前に教科書を熟読し、質問事項を用意して授業に挑む。授業後は復習を行うこと。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	歯の概論①(歯の機能、歯の種類と名称、歯式)					予習として、Ⅱ編1章の歯の形態のうち、該当するページの歯の機能、歯の形態、歯の種類と数、歯の表示法についてあらかじめ読んでおくこと。(30分程度)			小野寺 健	
2	歯の概論②(歯の形態、歯の各部名称、根管の形態)					予習として、Ⅱ編1章の歯の形態のうち、該当するページの歯の形態、歯の各部名称、根管の形態についてあらかじめ読んでおくこと。(30分程度)			小野寺 健	
3	永久歯の形態的特徴(中切歯、側切歯、犬歯)					予習として、Ⅱ編1章の歯の形態のうち、該当するページの中切歯、側切歯、犬歯についてあらかじめ読んでおくこと。(30分程度)			小野寺 健	
4	永久歯の形態的特徴(小臼歯、大臼歯)					予習として、Ⅱ編1章の歯の形態のうち、該当するページの小臼歯、大臼歯についてあらかじめ読んでおくこと。(40分程度)			小野寺 健	
5	乳歯の形態的特徴、特色のある歯の形態					予習として、Ⅱ編1章の歯の形態のうち、該当するページの乳歯の形態的特徴、特色のある歯の形態についてあらかじめ読んでおくこと。(40分程度)			小野寺 健	
6	(歯牙デッサン演習)右側上顎中切歯のデッサン					【事前】事前に上顎中切歯の形態的学的特徴を把握してくること。(40分程度)			佐々木 聡	
7	(歯牙デッサン演習)右側上顎犬歯のデッサン					【事前】事前に上顎犬歯の形態的学的特徴を把握してくること。(40分程度)			佐々木 聡	
8	(歯牙デッサン演習)右側上顎第一小臼歯のデッサン					【事前】事前に上顎第一小臼歯の形態的学的特徴を把握してくること。(40分程度)			佐々木 聡	
9	(歯牙デッサン演習)右側上顎第一大臼歯のデッサン					【事前】事前に上顎第一大臼歯の形態的学的特徴を把握してくること。(40分程度)			佐々木 聡	
10	(歯牙デッサン演習)右側下顎第一大臼歯のデッサン					【事前】事前に下顎第一大臼歯の形態的学的特徴を把握してくること。(40分程度)			佐々木 聡	
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	適宜、プリントを配布する。									
備考	1～5回は1クラス(グループワーク)で、6～10回は2クラスに分かれて授業を行う。小テストは小野寺担当分は筆記形式と歯牙鑑別を行う。評価は採点し次回総括する。 授業内課題は歯牙デッサン演習で毎回歯牙スケッチを提出し、それを評価とする。デッサンは評価後に返却してフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-07				
	●									
科目名	病理学				単位認定者	小野寺 健		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	10 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	病理学とは病気になった原因を探り、病気になった患者の身体に生じている変化が、どのようなものであるかを明らかにする学問である。本科目では、病気にはどのような種類があるか、細胞・組織・臓器にどのような病的変化(病理・病変)を生じるかを、肉眼的及び微細構造学的に理解し、個体に現れる症状や徴候についての知識を修得する。とりわけ、顎口腔は、硬・軟両組織を含む多数の組織より構築され、口腔領域に特徴的な病変が多く発生するので、その基本的な知識を修得する。									
到達目標	種々の疾患で生じる臓器、組織、細胞での形態学的な変化を理解する。とりわけ、硬・軟両組織を含む多様な組織より構築されている顎口腔部位について、その特異的な病変を理解する。									
学修者への期待等	病理学とは医学の基礎となる学問である。そのため、解剖学、生理学等の他の基礎医学の基本的知識を踏まえた上で修得に努めてほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	病理学①(病理学とは、病因論(内因と外因)、遺伝性疾患と奇形)					教科書2～13ページまでを読んでおく(1章、2章；20分程度)				
2	病理学②(循環障害)					教科書14～22ページまでを読んでおく(3章；20分程度)				
3	病理学③(代謝障害と退行性病変)					教科書23～33ページまでを読んでおく(4章；20分程度)				
4	病理学④(増殖と修復)					教科書34～41ページまでを読んでおく(5章；20分程度)				
5	病理学⑤(炎症と免疫応答異常)					教科書43～59ページまでを読んでおく(6章；20分程度)				
6	病理学⑥(腫瘍)					教科書60～68ページまでを読んでおく(7章；20分程度) 次回小テストを行う予定(範囲は病理学①～⑥)。				
7	口腔病理学①(歯の発育異常、歯の損傷)					教科書70～87ページまでを読んでおく(口腔病理1、2章；20分程度)+小テスト				
8	口腔病理学②(う蝕、象牙質・歯髄複合体の病態)					教科書88～104ページまでを読んでおく(口腔病理3、4章；20分程度)				
9	口腔病理学③(歯周組織の病態)					教科書105～121ページまでを読んでおく(口腔病理5章；20分程度)				
10	口腔病理学④(口腔粘膜病変)					教科書122～132ページまでを読んでおく(口腔病理6章；20分程度)				
11	口腔病理学⑤(口腔領域の嚢胞と腫瘍)					教科書133～145ページまでを読んでおく(口腔病理7章；20分程度)				
12	口腔病理学⑥(口腔癌)					教科書146～151ページまでを読んでおく(口腔病理8章；20分程度)				
13	口腔病理学⑦(顎骨の病変))					教科書152～159ページまでを読んでおく(口腔病理9章；20分程度)				
14	口腔病理学⑧(唾液腺の病変)					教科書161～167ページまでを読んでおく(口腔病理10章；20分程度)				
15	口腔病理学⑨(口腔領域奇形、加齢変化)					教科書168～179ページまでを読んでおく(口腔病理11、12章；20分程度)				
教科書	『歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1病理学・口腔病理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	適宜、参考資料を配付する。									
備考	小テストは回収後、採点し、次回総括する。授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●					DH-1-DHB-08				
科目名	微生物学				単位 認定者	阿部 昌子		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	10 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	微生物学とは、微生物（細菌、真菌、ウイルスなど）がどのようにして人に感染し、病気（感染症）を起こすのかという「感染症の成り立ち」を明らかにする学問である。 歯科衛生士にとって必要な知識である微生物と免疫について学ぶことを通して、全身の感染症の成り立ちについて理解する。また、口腔に常在する微生物と口腔疾患について学ぶとともに、感染予防についての基礎的な知識を修得する。									
到達目標	種々の微生物の性質を理解し、感染症と感染予防についての基礎的な知識を修得する。									
学修者への期待等	教科書などによる予習・復習を行い、授業内容を十分に理解することを期待する。									
回	授業計画				準備学修					
1	I 編 微生物学 1章 微生物学の概要 2章 感染				[事後]教科書の I 編1章「微生物学の概要」、2章「感染」の講義内容を、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること(40分程度)。					
2	I 編 微生物学 3章 微生物学総論1 細菌の形態、構造				[事後]教科書の I 編3章「細菌の形態、構造」の講義内容を、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること(40分程度)。					
3	I 編 微生物学 3章 微生物学総論2 細菌の増殖、病原因子				[事後]教科書の I 編3章「細菌の増殖、病原因子」の講義内容を、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること(40分程度)。					
4	I 編 微生物学 3章 微生物学総論3 ウイルス、 III編 病原微生物学 1章 その他の細菌（スピロヘータ、マイコプラズマ属、クラミジア属、リケッチア属） 5章 プリオン				[事後]次回、1～4回目の講義で学んだ内容について小テストをする予定。教科書、ノート、配布プリントなどで復習をすること(2時間程度)。					
5	IV編 免疫学 1章 免疫1 免疫の種類、生体のバリア機構、自然免疫				[事後]教科書のIV編1章「免疫の種類、生体のバリア機構、自然免疫」の講義内容を、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること(40分程度)。					
6	IV編 免疫学 1章 免疫2 抗原提示、獲得免疫				[事後]教科書のIV編1章「抗原提示、獲得免疫」の講義内容を、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること(40分程度)。					
7	IV編 免疫学 1章 免疫3 能動免疫と受動免疫、粘膜免疫				[事後]教科書のIV編1章「能動免疫と受動免疫、粘膜免疫」の講義内容を、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること(40分程度)。					
8	IV編 免疫学 2章 アレルギー				[事後]教科書のIV編2章「アレルギー」の講義内容を、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること(40分程度)。					
9	IV編 免疫学 3章 免疫に関する疾患				[事後]次回、5～9回目の講義で学んだ内容について小テストをする予定。教科書、ノート、配布プリントなどで復習をすること(2時間程度)。					
10	II 編 口腔微生物学 1章 口腔環境と常在微生物1 微生物と口腔環境				[事後]教科書の II 編1章「微生物と口腔環境」の講義内容を、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること(40分程度)。					
11	II 編 口腔微生物学 1章 口腔環境と常在微生物2 口腔常在微生物				[事後]教科書の II 編1章「口腔常在微生物」の講義内容を、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること(40分程度)。					
12	II 編 口腔微生物学 2章 バイオフィームとしてのプラーク(歯垢)1 形成機序と成熟				[事後]教科書の II 編2章「形成機序と成熟」の講義内容を、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること(40分程度)。					
13	II 編 口腔微生物学 2章 バイオフィームとしてのプラーク(歯垢)2 バイオフィームとバイオフィーム感染症				[事後]教科書の II 編2章「バイオフィームとバイオフィーム感染症」の講義内容を、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること(40分程度)。					
14	II 編 口腔微生物学 3章 う蝕の細菌学				[事後]教科書の II 編3章「う蝕の細菌学」の講義内容を、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること(40分程度)。					
15	II 編 口腔微生物学 4章 歯周病の細菌学				[事後]15回の講義で学んだ内容を、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること(3時間程度)。					
教科書	『歯科衛生シリーズ 第2版 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学』一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献										
備考	小テストを採点后、授業内で総括する。講義の進行具合によっては、シラバスの授業計画は前後する事もある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-09				
	●									
科目名	薬理学				単位 認定者	磯谷 美重		評価 の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	薬理学の基礎的知識を修得し、生体と薬物との関わりを理解する。総論では、薬物の作用機序、薬物動態、薬効に影響する因子、副作用及び薬物の取り扱い・管理について学ぶ。 各論では、様々な疾患に用いられる代表的な治療薬について作用機序、特徴、副作用について理解する。さらに、歯科疾患に対して臨床上使用される治療薬についても学ぶ。									
到達目標	歯科衛生士として必要な薬理学の基礎的知識を修得し生体と薬物との関わりを理解する。									
学修者への期待等	疾病を有する患者、服薬中の患者および高齢者の歯科受診機会が増大している。全身疾患と薬物治療の知識を広く修得し、将来臨床の場で役立てることを期待する。各回、質問と課題があるので予習復習して講義に臨むこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	総論①(薬理学とは、薬物療法、薬理作用、用量)					教科書Ⅰ編第1章 薬物の作用(p.2-10)を読んでもらうこと(概ね30分)				
2	総論②(薬物動態)					教科書Ⅰ編第2章 薬物動態(p.11-20)を読んでもらうこと(概ね30分)				
3	総論③(薬物の適用方法、血中濃度)					教科書Ⅰ編第3章 薬物の適用方法の種類と特徴(p.22-27)を読んでもらうこと(概ね30分)				
4	総論④(薬理作用に影響を与える因子、薬物の連用・併用、薬物相互作用)					教科書Ⅰ編第4章 薬物の作用に影響を与える要因(p.28-33)を読んでもらうこと(概ね30分)				
5	総論⑤(薬物の副作用、適用する際の注意点、薬物の取り扱い、法規・分類)					教科書Ⅰ編第5章 薬物の副作用、有害作用 6章 医薬品を適用する際の注意、7章 薬物の取り扱い 8章 薬物と法律・薬物と医薬品(p.37-63)を読んでもらうこと(概ね30分)				
6	中枢神経作用薬(全身麻酔薬、催眠薬、抗てんかん薬、鎮痛薬、中枢神経興奮薬)					教科書Ⅱ編第3章 中枢神経系に作用する薬物(p.81-91)を読んでもらうこと(概ね30分)				
7	末梢神経作用薬(自律神経作用薬、筋弛緩薬)					教科書Ⅱ編第2章 末梢神経系に作用する薬物(p.73-79)を読んでもらうこと(概ね30分)				
8	循環・呼吸系作用薬(高血圧症治療薬、心疾患治療薬、気管支喘息治療薬)					教科書Ⅱ編第4章 循環器系に作用する薬物、第6章 呼吸器系に作用する薬物(p.93-107)を読んでもらうこと(概ね30分)				
9	血液作用薬(止血機序、止血薬、抗血栓薬)					教科書Ⅱ編第8章 血液に作用する薬物(p.112-117)を読んでもらうこと(概ね30分)				
10	抗炎症薬(炎症の定義、抗炎症薬の分類)、鎮痛薬					教科書Ⅱ編第12章 炎症と薬、第13章 痛みと薬(p.135-148)を読んでもらうこと(概ね30分)				
11	抗悪性腫瘍薬、免疫作用薬(抗悪性腫瘍薬、抗アレルギー薬、免疫抑制薬)					教科書Ⅱ編第9章 免疫と薬、第10章 悪性腫瘍と薬、第11章 代謝性疾患治療薬(p.118-134)を読んでもらうこと(概ね30分)				
12	局所麻酔薬					教科書Ⅱ編第14章 局所麻酔(p.150-157)を読んでもらうこと(概ね30分)				
13	抗感染症作用薬(感染とは、抗感染症薬)					教科書Ⅱ編第15章 抗感染症薬、第16章(p.159-169)を読んでもらうこと(概ね30分)				
14	消毒薬					教科書Ⅱ編第16章 消毒に使用する薬(p.170-180)を読んでもらうこと(概ね30分)				
15	ビタミン・ホルモン(ビタミン欠乏症、ホルモン製剤、代謝性疾患治療薬)					教科書Ⅱ編第1章 ビタミンとホルモン(p.66-72)(概ね30分)				
教科書	『歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3薬理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『イラストでわかる歯科医学の基礎』淵端孟ほか監修、株式会社永末書店									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

歯学部薬理学講座における基礎研究と実習指導、及び一般歯科と障害者歯科の臨床経験を活かし総合的な歯科薬理学の講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-10				
	●									
科目名	栄養学				単位認定者	藤枝 弥生子		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業態度	30 %
						授業時間数	20 時間			
					授業形態	講義	授業回数		10 回	
授業の概要	栄養学とは、健康な生命活動を維持・増進するために必要な物質を食品から利用する現象を明らかにする学問である。はじめに、栄養素の消化吸収を学び、続いて、各栄養素の必要量や働きを理解する。さらに適切な食生活の必要性和日本人の現状を理解して、健康な生活を送るための基本的な知識を修得する。									
到達目標	(1)栄養学の必要性、栄養素の消化吸収及び働きを理解する。 (2)国民の健康と栄養の実態を把握し、ライフステージ別の特徴と望ましい食生活を理解する。 (3)食品の分類と特性、保健機能食品について理解する。									
学修者への期待等	受講後は復習を行い、不明箇所を確認し理解しておくこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	栄養学と歯科衛生士					教科書第1章「栄養学と歯科衛生士」の項を読んでおくこと。(40分)				
2	栄養素の種類と働き(糖質、脂質、たんぱく質)					教科書第2章「栄養素の種類と働き①-③」の項を読んでおくこと。(40分)				
3	栄養素の種類と働き(ビタミン、ミネラル、食物繊維、水)					教科書第2章「栄養素の種類と働き④-⑦」の項を読んでおくこと。(40分)				
4	栄養素の消化・吸収(消化・吸収と栄養、消化の種類、消化の過程)					教科書第3章「栄養素の消化・吸収」①-③の項を読んでおくこと。(40分)				
5	栄養素の消化・吸収(吸収のメカニズム、栄養素の体内動態、栄養素別の消化・吸収)					教科書第3章「栄養素の消化・吸収」④-⑥の項を読んでおくこと。(40分)				
6	健康と栄養					教科書第4章「健康と栄養」の項を読んでおくこと。(40分)				
7	食事と食品					教科書第5章「食事と食品」の項を読んでおくこと。(40分)				
8	ライフステージと栄養(妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期)					教科書第6章「ライフステージと栄養」①-⑥の項を読んでおくこと。(40分)				
9	ライフステージと栄養(成人期、高齢期)					教科書第6章「ライフステージと栄養」⑦⑧の項を読んでおくこと。(40分)				
10	栄養ケアマネジメント					教科書第7章「栄養ケアマネジメント」の項を読んでおくこと。(40分)				
教科書	歯科衛生学シリーズ人体の構造と機能3『栄養学』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社									
参考文献										
備考	講義の進行状況によりシラバスの授業計画は前後することがある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング DH-1-DHB-13				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
	●									
科目名	衛生学・公衆衛生学				単位 認定者	五十嵐 有香		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	衛生学は主に個人の健康に関わる学問である。一方、公衆衛生学は、不特定多数の公衆の健康に関わる学問である。本科目では、様々な環境要因が、どのように個人や公衆の健康に影響を及ぼすかについて理解するとともに、それらの疾病予防について学ぶ。また、健康障害の原因究明や予防対策に欠かせない疫学に関する基礎を学ぶ。									
到達目標	1. 健康増進、疾病予防の方法を習得し、ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりについて理解できる。 2. わが国の国民衛生の動向について説明できる。 3. 各保健活動の基礎となる衛生法規を理解する。 4. 科学的根拠に基づいた予防のため主要疾患の疫学について説明できる。									
学修者への期待等	板書を中心に授業を進めていく予定ですが、板書をただ書き写すだけでなく、気づいたことはメモをするなど各自で工夫をしてノートをまとめてください。									
回	授業計画				準備学修					
1	総論(1) 健康・公衆衛生の概念				教科書、板書およびノート等で講義内容をまとめ復習しておくこと。(概ね45分)					
2	総論(2) 予防医学の概念 保健統計(1) 保健統計指標				教科書、板書およびノート等で講義内容をまとめ復習しておくこと。(概ね45分)					
3	保健統計(2) 人口静態統計、人口動態統計				教科書、板書およびノート等で講義内容をまとめ復習しておくこと。(概ね45分)					
4	保健統計(3) 生命表、傷病統計				教科書、板書およびノート等で講義内容をまとめ復習しておくこと。(概ね45分)					
5	疫学(1) 疫学の歴史、疫学指標				教科書、板書およびノート等で講義内容をまとめ復習しておくこと。(概ね45分)					
6	疫学(2) 疫学の研究方法、スクリーニング				教科書、板書およびノート等で講義内容をまとめ復習しておくこと。(概ね45分)					
7	主要疾患の疫学(1) 生活習慣病の動向と対策				教科書、板書およびノート等で講義内容をまとめ復習しておくこと。(概ね45分)					
8	主要疾患の疫学(2) 精神疾患の動向と対策				教科書、板書およびノート等で講義内容をまとめ復習しておくこと。(概ね45分)					
9	主要疾患の疫学(3) 感染症の予防と対策				教科書、板書およびノート等で講義内容をまとめ復習しておくこと。(概ね45分)					
10	環境と健康(1) 空気・水、放射線と健康				教科書、板書およびノート等で講義内容をまとめ復習しておくこと。(概ね45分)					
11	環境と健康(2) 地球環境と健康、公害、廃棄物処理				教科書、板書およびノート等で講義内容をまとめ復習しておくこと。(概ね45分)					
12	食品と健康 食中毒、国民健康・栄養調査				教科書、板書およびノート等で講義内容をまとめ復習しておくこと。(概ね45分)					
13	健康に関わる社会制度(1) 地域保健、地域保健活動の進め方				教科書、板書およびノート等で講義内容をまとめ復習しておくこと。(概ね45分)					
14	健康に関わる社会制度(2) 健康増進法、健康日本21、母子保健、学校保健				教科書、板書およびノート等で講義内容をまとめ復習しておくこと。(概ね45分)					
15	健康に関わる社会制度(3) 産業保健、成人保健、高齢者保健				教科書、板書およびノート等で講義内容をまとめ復習しておくこと。(概ね45分)					
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修(医歯薬出版株式会社)									
参考文献	『国民衛生の動向 2024/2025』(厚生労働統計協会)									
備考	板書を中心に進めるため、ノートを準備すること。 講義の進行状況によりシラバスの授業計画は前後することがある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング DH-1-DHB-14				
	●									
科目名	口腔衛生学				単位 認定者	伊藤 恵美		評価 の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題等	10 %
						授業時間数	60 時間		受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業回数		30 回	
授業の概要	口腔の健康に影響を及ぼす種々の要因について基礎的な知識を修得した上で、う蝕や歯周病など様々な口腔疾患の予防法について学修する。さらに、自らの歯と口腔の健康を把握して、歯と口腔の健康づくりについて学ぶ。歯科衛生士として、人々の歯と口腔の健康づくりを支援するための基礎知識と方策について学修する。									
到達目標	口腔の健康に影響を及ぼす種々の要因及び口腔疾患の予防法について理解する。									
学修者への 期待等	教科書などによる予習・復習を行い、授業内容を十分に理解することを望む。									
回	授業計画					準備学修				
1	Ⅱ編1章 ①歯・口腔の健康と予防 グループディスカッション「口腔の健康と予防について」					教科書P92～93を読んでおくこと。「口の健康と予防」について自身の考えをまとめておくこと。（45分程度）				
2	Ⅱ編1章 ②歯・口腔の構造と機能 1. 歯・口腔の構造 1) 歯					教科書P93～95を読んでおくこと。（45分程度）				
3	Ⅱ編1章 ②歯・口腔の構造と機能 1. 歯・口腔の構造 2) 歯周組織～5) 顎関節					教科書P95～96を読んでおくこと。（45分程度）				
4	Ⅱ編1章 ②歯・口腔の構造と機能 1. 歯・口腔の構造 6) 唾液腺					教科書P96～99 を読んでおくこと。（45分程度）				
5	Ⅱ編1章 ②歯・口腔の構造と機能 2. 歯・口腔の発生と成長・発育 1) 歯・口腔の発生～7) 歯・口腔の形成と栄養					教科書P99～103を読んでおくこと。（45分程度）				
6	Ⅱ編1章 ②歯・口腔の構造と機能 まとめ					シラバス1～5回までの復習をしておくこと。（45分程度）				
7	Ⅱ編1章 ②歯・口腔の構造と機能 2. 歯・口腔の発生と成長・発育 8) 歯・口腔の形成異常					教科書P104～105 を読んでおくこと。（45分程度）				
8	Ⅱ編1章 ②歯・口腔の構造と機能 3. 歯・口腔の機能 4. 口腔の健康と全身の健康					教科書P105～110を読んでおくこと。（45分程度）				
9	Ⅱ編1章 ③歯・口腔の付着物・沈着物 1. ペリクル 2. プラーク 1) プラークの構成					教科書P110～112を読んでおくこと。（45分程度）				
10	Ⅱ編1章 ③歯・口腔の付着物・沈着物 2. プラーク 2) プラークの形成機序 3) プラークの病原性					教科書P112～115を読んでおくこと。（45分程度）				
11	Ⅱ編1章 ③歯・口腔の付着物・沈着物 2. マテリアアルバ 4. 歯石 5. 舌苔 6. 外来性色素沈着					教科書P115～117を読んでおくこと。（45分程度）				
12	Ⅱ編1章 まとめ					シラバス7～11回までの復習をしておくこと。（45分程度）				
13	Ⅱ編4章 う蝕の予防 ①う蝕発生と進行のメカニズム ②う蝕の分類と症状					教科書P140～143を読んで来ること。（45分程度）				
14	Ⅱ編4章 う蝕の予防 ③う蝕の発生要因					教科書P143～149を読んでおくこと。（45分程度）				
15	Ⅱ編4章 う蝕の予防 ④う蝕活動性試験 グループワーク					教科書P149～151を読んでおくこと。（45分程度）				

回	授業計画	準備学修
16	Ⅱ編4章 う蝕の予防 ⑤う蝕の予防方法	教科書P152～157を読んでおくこと。(45分程度)
17	Ⅱ編6章 歯周疾患の予防、7章 その他の疾患・異常の予防	教科書P186～197を読んでおくこと。(45分程度)
18	Ⅱ編3章 口腔清掃	教科書P198～211を読んでおくこと。(45分程度)
19	Ⅱ編2章 歯科疾患の疫学	厚生労働省「歯科疾患実態調査」の主な調査事項を調べておくこと。(45分程度)
20	Ⅱ編5章 フッ化物によるう蝕予防1(わが国のフッ化物応用、フッ化物の一般性状・用語、人間生態系におけるフッ化物、フッ化物摂取量とその基準)	教科書P158～161を読んで来ること。(45分程度)
21	Ⅱ編5章 フッ化物によるう蝕予防 ⑤フッ素の代謝	教科書P161～163を読んで来ること。(45分程度)
22	Ⅱ編5章 フッ化物によるう蝕予防 ⑥フッ化物の毒性	教科書P163～168を読んで来ること。(45分程度)
23	Ⅱ編5章 フッ化物によるう蝕予防 グループワーク ⑦フッ化物応用によるう蝕予防方法	教科書168～180を読んでおくこと。(45分程度)
24	Ⅱ編5章 フッ化物によるう蝕予防⑦フッ化物応用によるう蝕予防方法 4. フッ化物配合歯磨剤 5.食品へのフッ化物添加 6.フッ化物サプリメント ⑧フッ化物のう蝕予防メカニズム	教科書P181～185を読んでおくこと。(45分程度)
25	Ⅱ編5章 フッ化物によるう蝕予防 まとめ	シラバス20～24回までの復習をしておくこと。(45分程度)
26	Ⅲ編2章 母子保健(法規、う蝕罹患型)	教科書P250～279を読んでおくこと。(45分程度)
27	Ⅲ編3章 学校保健(学校歯科保健、DMFT指数)	教科書P264～279を読んでおくこと。(45分程度)
28	Ⅲ編4章 成人保健、5章 産業保健 Ⅲ編6章 高齢者保健、7章 精神保健、8章 災害時の歯科保健、9章 国際保健	教科書P280～300を読んでおくこと。(45分程度)
29	「う蝕」についてポスター制作	シラバス13～28回目を復習して、「う蝕」に関わるテーマを決めておくこと。(60分程度)
30	ポスタープレゼンテーション	ポスターを完成させておくこと。(60分)
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社	
参考文献	『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社	
備考	・授業内課題は添削し返却する。 ・授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング DH-2-DHC-01					
	●			●							
科目名	歯科衛生士概論					単位 認定者	大宮 由布子		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科		必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		受講態度	10 %
						授業形態	講義	授業時間数		30 時間	授業内課題
								授業回数		15 回	
授業の概要	歯科衛生士が保健・医療・福祉に関わることの意義を理解し、人々の健康を支援する専門職として倫理的な考え方と科学的な根拠をもって歯科衛生活動を展開するために必要な態度や知識、技術についての全体像を学ぶ。										
到達目標	①保健・医療・福祉に関わる意義を理解する。 ②歯科衛生士法に基づく業務内容を理解し、歯科衛生士に必要な知識、技術、態度を身につける。 ③医療従事者として倫理観に基づいた考えや態度を身につける。 ④専門職として生涯にわたり学修することの意義を理解する。										
学修者への期待等	欠席せず、意欲を持って臨み、目指す職業について理解して欲しい。										
回	授業計画					準備学修					担当
1	歯科臨床概論（歯科医療とは）					歯科診療における人ー歯科診療従事者の種類と役割について調べてくること。（30分程度）					大宮 由布子
2	歯科疾患の概要／歯科診療の流れ					前時の授業内容レジュメを復習し授業に臨むこと。（30分程度）					大宮 由布子
3	伝統的な医の倫理から新しい医の倫理へ ～父権主義での治療から患者の自己決定権の医療へ～					歯科医療倫理1章P1～9を読み授業に臨むこと。（30分程度）					大宮 由布子
4	医療倫理に関する規範とバイオエシックス					歯科医療倫理2章P10～15を読み授業に臨むこと。（30分程度）					大宮 由布子
5	各症例で学ぶバイオエシックスに関わる問題					前時の復習と歯科医療倫理2章P16～30バイオエシックスに関わる問題を読み授業に臨むこと。（40分程度）					大宮 由布子
6	インフォームド・コンセント					歯科医療倫理3章P32～42を読み授業に臨むこと。（30分程度）					大宮 由布子
7	歯科衛生士と倫理綱領					歯科衛生学総論6章P66～76、P99付1、P100付4を読み授業に臨むこと。（30分程度）					大宮 由布子
8	歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動					歯科医療倫理付章P52～72 歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動／その他歯科医療従事者に必要とされることを読み授業に臨むこと。（40分程度）					大宮 由布子
9	歯科衛生学とは 歯科衛生と健康/歯科衛生活動の対象者/歯科衛生士の歴史					歯科衛生学総論 1章P1～7、2章P8～19を読み授業に臨むこと。出身県の歯科医院数および歯科衛生士の就業人数を調べてくること。（30分程度）					大宮 由布子
10	歯科衛生活動のための理論					歯科衛生学総論 3章歯科衛生活動のための理論P20～31を読み授業に臨むこと。（30分程度）					大宮 由布子
11	歯科衛生過程					歯科衛生学総論 4章歯科衛生過程P32～41を読ん授業に臨むこと。（30分程度）					大宮 由布子
12	歯科衛生士法と歯科衛生業務					歯科衛生学総論 5章歯科衛生士法と歯科衛生業務P42～65を読み授業に臨むこと。（30分程度）					大宮 由布子
13	歯科衛生士の活動と組織/海外における歯科衛生士					歯科衛生学総論 7章歯科衛生士の活動と組織P77～92、8章海外における歯科衛生士P93～97を読ん授業に臨むこと。（30分程度）					大宮 由布子 外部講師
14	歯科衛生士の活躍の場（1） ～歯科診療所に勤務する歯科衛生士～					歯科衛生学総論 7章の復習およびP98付1 歯科衛生士と関わる専門職を読み授業に臨むこと。（30分程度）					大宮 由布子 外部講師
15	歯科衛生士の活躍の場（2） ～一般企業に勤務する歯科衛生士～					歯科衛生学総論 7章の復習およびP98付1 歯科衛生士と関わる専門職を読み授業に臨むこと。（30分程度）					大宮 由布子 外部講師
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科医療倫理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社										
参考文献	授業内で適宜紹介する										
備考	シラバス5・8回目 グループワーク レポート、課題等は添削後、授業内で総括する。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

歯科診療所で勤務経験のある教員が、歯科衛生士として保健・医療・福祉において、倫理的考察および科学的根拠をもった活動を展開するために必要な態度や知識・技術の概要を指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHC-02				
	●									
科目名	歯内療法学				単位認定者	莊司 佳奈子 武山 真奈美		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	20 時間			
					授業形態	講義	授業回数		10 回	
授業の概要	歯内療法学とは、歯の硬組織、歯髄腔内、根尖周囲組織の疾病や傷害に対する診断、予防、治療に関する研究を行う臨床歯学の一分野である。本科目では、歯と歯髄の疾患の治療法、最新の機器、材料、薬剤の特徴や使用方法についてその基礎を学ぶ。さらに、歯内療法に関する診療補助の基礎知識を修得する。									
到達目標	歯内療法学の基礎を学び、歯内療法に関する診療補助の能力を修得する。									
学修者への期待等	歯内療法の対象となる患者の訴えの多くは歯の痛みであり、それを理解することが重要である。そのため歯内疾患の症状や治療法の概要をしっかりと把握しておくことが大事である。また歯内療法には多くの治療用器材・器具が必要となり、その名称や形状の特徴を理解することがスムーズな診療補助に繋がるので、しっかりと講義を聴くこと。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	歯内療法の概要(歯の痛みに関する基礎知識と歯内疾患の分類について概要を学ぶ)					教科書Ⅲ編第1章 歯内療法の概要を読み、象牙質知覚過敏症・歯髄疾患・根尖性歯周疾患の原因・症状・処置について理解しましょう。(概ね30分)			莊司佳奈子	
2	歯髄保存療法(歯髄鎮静療法、覆髄法、ラバーダム防湿法について学ぶ)					教科書Ⅲ編第2章 歯髄保存療法を読み、各治療法のイラストをよく見比べておきましょう。(概ね30分)			莊司佳奈子	
3	歯髄除去療法(生活歯髄切断法(生活断髄法)、直接抜髄法(麻酔抜髄法)について学ぶ)					教科書Ⅲ編第3章 歯髄の除去療法を読み、イラストで術式を把握しておきましょう。(概ね30分)			莊司佳奈子	
4	根管治療・根管充填①(根管治療の概念、根管治療の術式について学ぶ)					教科書Ⅲ編第4章 根管治療・根管充填を読み、根管治療の流れについて理解しましょう。(概ね30分)			莊司佳奈子	
5	根管治療・根管充填②(根管長測定、根管の拡大形成、根管の化学的清掃、根管消毒、仮封、根管充填について学ぶ)					教科書Ⅲ編第4章 根管治療・根管充填を読み、リーマー・ファイルのISO規格・側方加圧充填法の術式を覚えましょう。(概ね30分)			莊司佳奈子	
6	外科的歯内療法(外科的歯内療法の種類・術式)について学ぶ)					教科書Ⅲ編第5章 外科的歯内療法を読み、各治療法のイラストをよく見比べておきましょう。(概ね30分)			莊司佳奈子	
7	歯の外傷(歯の外傷の分類と処置、脱離歯の保存法)、歯内療法における安全対策(歯内療法時の偶発事故、対処法と予防法)について学ぶ					教科書Ⅲ編第6章 歯の外傷および第7章 歯内療法における安全対策を読み、完全脱臼した歯の保存法と皮下気腫の原因・対処法について理解しましょう。(概ね30分)			莊司佳奈子	
8	歯内療法治療時の歯科診療補助について①(根管治療)／基礎知識・基礎演習					『歯科診療補助論』Ⅰ編4章②歯内療法時の診療補助P125～128、『歯科機器』4章⑧-歯内療法用機器を読み授業に臨むこと。(概ね30分)			武山真奈美	
9	歯内療法治療時の歯科診療補助について②(根管充填)／基礎知識・基礎演習(ブローチ綿花作製・根管充填材の練和)					『歯科診療補助論』Ⅰ編4章②歯内療法時の診療補助P129～132を読み授業に臨むこと。また、シラバス8回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。(概ね30分)			武山真奈美 西條 佳奈	
10	歯内療法時の歯科診療時補助について③／器材の取り扱い演習／歯内療法処置における患者説明と指導					『保存修復学・歯内療法学』Ⅲ編歯内療法 第8章歯内療法における歯科衛生士の役割を読み授業に臨むこと。また、シラバス8、9回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。(概ね30分)			武山真奈美 西條 佳奈	
教科書	『歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科機器』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献										
備考	レポート課題を出す場合は、採点后、授業にて総括する。授業は対面または遠隔(オンデマンド)で実施する。8～10回は2クラスに分かれて実習室で講義・演習を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHC-03				
	●									
科目名	保存修復学				単位 認定者	八幡 祥生		評価の 方法	試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		10 回	
授業の概要	う蝕などの硬組織疾患によって生じた欠損部の様々な修復法やその修復材料についての基礎知識を修得する。さらに、保存修復における診療補助の基礎知識を修得する。									
到達目標	保存修復学の基礎を学び、保存修復に関する診療補助の能力を修得する。									
学修者への 期待等	講義内容の理解を確実にするため、授業内容の復習を期待する。特に授業で出てくる特殊な単語を理解するように心がけること。									
回	授業計画					準備学修				
1	概論(保存修復学の意味と概要)					教科書 II 編1章①②③をよく読んで授業に臨むこと。授業終了後は、教科書と配布資料で復習すること。(45分程度)				
2	診査診断と前準備					教科書 I 編2章と教科書Ⅱ編1章④をよく読んで授業に臨むこと。授業終了後は、教科書と配布資料で復習すること。(45分程度)				
3	う蝕(う蝕の病態と窩洞形成)					教科書 II 編1章①②をよく読んで授業に臨むこと。授業終了後は、教科書と配布資料で復習すること。(45分程度)				
4	直接修復法①(コンポジットレジン修復)					教科書 II 編2章①をよく読んで授業に臨むこと。授業終了後は、教科書と配布資料で復習すること。(45分程度)				
5	直接修復法②(グラスアイオノマーセメント修復)					教科書 II 編2章②をよく読んで授業に臨むこと。授業終了後は、教科書と配布資料で復習すること。(45分程度)				
6	間接修復法①(メタルインレーおよびアンレー修復)					教科書 II 編3章①-1, 2をよく読んで授業に臨むこと。授業終了後は、教科書と配布資料で復習すること。(45分程度)				
7	間接修復法②(審美的間接修復))					教科書 II 編3章①-3, 4をよく読んで授業に臨むこと。授業終了後は、教科書と配布資料で復習すること。(45分程度)				
8	ベニア修復とホワイトニング、合着材および接着剤					教科書 II 編3章②③をよく読んで授業に臨むこと。授業終了後は、教科書と配布資料で復習すること。(45分程度)				
9	保存修復における歯科衛生士の役割 (保存修復処置に使用する器具・器材)					教科書 II 編4章をよく読んで授業に臨むこと。授業終了後は、教科書と配布資料で復習すること。(45分程度)				
10	演習問題と解説、復習のポイント					プリントを配布するので、授業終了後に復習すること。(20分)				
教科書	『歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-01				
	●									
科目名	歯科予防処置法				単位認定者	武山 真奈美		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題	10 %
						授業時間数	60 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	口腔疾患を予防し、歯と口腔の健康を維持・増進させるためにう蝕と歯周病の原因を理解し、う蝕予防法と歯周病予防法の基本的な知識・技術および態度を修得する。また、健康像と病的変化を把握し、口腔観察の基本を学ぶ。その手技として各検査法、予防的歯石除去法の基礎知識を学び、それに用いる器具・器材の使用法と手技を理解する。									
到達目標	①歯周病予防法の基礎知識を理解し、基礎的な技術を修得する。 ②う蝕の原因とその予防法を理解しその技術を修得する。									
学修者への期待等	1.身だしなみをきちんと整え、教科書等の忘れ物がないように授業に臨むこと。 2.欠席・欠課をしないよう意欲的臨んでほしい。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	歯科予防処置の概要(予防の概念)／口腔の基礎知識				教科書Ⅰ編1章P2～5「歯科予防処置の概要・定義・位置づけ」、⑤-予防の概念、Ⅱ編1章①-口腔・口腔周囲の構造、②-歯周組織を読み授業に臨むこと。(30分程度)				武山 真奈美	
2	口腔内の付着物・沈着物／歯周病の基礎知識				教科書Ⅱ編2章①-口腔内の付着物・沈着物、③-歯周病を読み授業に臨むこと。(45分程度)				武山 真奈美	
3	口腔内の情報収集 基礎演習① エキスプローラーの基本操作／ミラーテクニック／マネキンの取り扱い／術者・患者のポジション				教科書Ⅲ編2章⑥-2.検査項目 6) 歯面の付着物・沈着物P139～140、P142～144のエキスプローラー、Ⅲ編3章①-1.(2)ポジションP187～188、3.ミラーテクニックP220～222を読み授業に臨むこと。また、シラバス2回目の内容を復習しておくこと。(45分程度)				武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子	
4	口腔内の情報収集 基礎演習② エキスプローラーの基本操作 マネキン演習／歯周ポケット検査の基礎知識・基礎演習				教科書Ⅲ編2章⑥-2.検査項目 7) 歯周ポケット 8) 歯の動揺度P144～150を読み授業に臨むこと。また、シラバス2、3回目の内容を復習しておくこと。(45分程度)				武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子	
5	口腔内の情報収集 基礎演習③ エキスプローラー・歯周プローブの基本操作 マネキン演習／相互演習の手順・留意事項説明				シラバス2～4回目の内容を復習しておくこと。(30分程度)				武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子	
6	口腔内の情報収集 相互演習① 患者1人目 ※上下術者交代				シラバス2～5回目の内容を復習をしておくこと。(30分程度)				武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子	
7	口腔内の情報収集 相互演習② 患者2人目 ※上下術者交代								武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子	
8	口腔内の情報収集 相互演習③ 患者3人目 ※上下術者交代								武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子	
9	スケーリングの基礎知識／基礎演習				教科書Ⅲ編3章①-1.手用スケーラーP185～192を読み授業に臨むこと。(45分程度)				武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子	
10	シックル型スケーラーの基本操作 マネキン演習① 部位別操作(上下顎前歯部)				教科書Ⅲ編3章①-1.手用スケーラーP196～197「下顎前歯部・上顎前歯部」を読み授業に臨むこと。また、シラバス9回目の内容を復習をしておくこと。(30分程度)				武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子	
11	シックル型スケーラーの基本操作 マネキン演習② 部位別操作(下顎臼歯部)				教科書Ⅲ編3章①-1.手用スケーラーP198～199「下顎右側臼歯部・下顎左側臼歯部」を読み授業に臨むこと。また、シラバス9回目の内容を復習をしておくこと。(30分程度)				武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子	
12	シックル型スケーラーの基本操作 マネキン演習③ 部位別操作(上顎臼歯部)				教科書Ⅲ編3章①-1.手用スケーラーP200～201「上顎右側臼歯部・上顎左側臼歯部」を読み授業に臨むこと。また、シラバス9回目の内容を復習をしておくこと。(30分程度)				武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子	
13	シックル型スケーラーの基本操作 相互演習① 患者1人目 ※上下術者交代				シラバス9～12回目までの内容を復習をしておくこと。(30分程度)				武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子	
14	シックル型スケーラーの基本操作 相互演習② 患者2人目 ※上下術者交代								武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子	
15	シックル型スケーラーの基本操作 相互演習③ 患者3人目 ※上下術者交代								武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子	

回	授業計画	準備学修	担当
16	歯面研磨(ポリッシング)の基礎知識／マネキン演習	教科書Ⅲ編3章②-1.歯面研磨(ポリッシング)P222～227についてを読み授業に臨むこと。(45分程度)	武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子
17	歯面研磨(ポリッシング)、シッケル型スクレーラーの基本操作、歯周プローブの基本操作 マネキン演習	シラバス3～16回目までの内容を復習をしておくこと。 (30分程度)	武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子
18	口腔内の情報収集(プロービング) 相互演習① 患者1人目 ※上下術者交代	シラバス3～17回目までの内容を復習をしておくこと。 (30分程度)	武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子
19	口腔内の情報収集(プロービング) 相互演習② 患者2人目 ※上下術者交代		武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子
20	口腔内の情報収集(プロービング) 相互演習③ 患者3人目 ※上下術者交代		武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子
21	歯石除去 相互演習① (スクレーリング、歯面研磨) 上下顎前歯部 患者1人目 ※上下術者交代	シラバス3～20回目までの内容を復習をしておくこと。 (30分程度)	武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子
22	歯石除去 相互演習② (スクレーリング、歯面研磨) 上下顎前歯部 患者2人目 ※上下術者交代		武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子
23	歯石除去 相互演習③ (スクレーリング、歯面研磨) 上下顎前歯部 患者3人目 ※上下術者交代		武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子
24	歯石除去 相互演習④ (スクレーリング、歯面研磨) 上下顎臼歯部 患者1人目 ※左右術者交代	シラバス3～23回目までの内容を復習をしておくこと。 (30分程度)	武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子
25	歯石除去 相互演習⑤ (スクレーリング、歯面研磨) 上下顎臼歯部 患者2人目 ※左右術者交代		武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子
26	歯石除去 相互演習⑥ (スクレーリング、歯面研磨) 上下顎臼歯部 患者3人目 ※左右術者交代		武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子
27	パワー(機械的)スクレーラーの基礎知識／マネキン演習	教科書Ⅲ編3章①-2.パワー(機械的)スクレーラーP209～218を読み授業に臨むこと。(45分程度)	武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子
28	パワー(機械的)スクレーラー 相互演習① 相互演習の手順・留意事項説明 患者1人目	シラバス27回目の内容を復習をしておくこと。 (30分程度)	武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子
29	パワー(機械的)スクレーラー 相互実習② 患者2人目		武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子
30	パワー(機械的)スクレーラー 相互実習③ 患者3人目		武山 真奈美 三浦 悦子 矢戸 敦子
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
参考文献	『歯科衛生学シリーズ 歯周病学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
備考	1、2回は合同授業を教室で行う。3回は2クラスに分かれて教室で演習を行う。 4～30回は2クラスに分かれて実習室で講義・演習を行う。28、29回は連続で演習を行う。なお、授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。授業内課題については、提出内容の添削後にフィードバックを行う。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

歯科診療所で勤務経験のある教員が、う蝕および歯周病予防法について基礎知識と技術を指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-06					
	●										
科目名	保健指導論				単位認定者	佐藤 陽子		評価の方法	試験（筆記）	80	%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	10	%
						授業時間数	30 時間		授業内課題	10	%
					授業形態	講義	授業回数		15 回		
授業の概要	歯科衛生士が行う歯科保健指導業務の専門性について理解し、正常な口腔とその機能について学ぶ。また、各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴、そして、望ましい歯科保健行動について理解する。										
到達目標	①歯科保健指導の意義および目的を理解する。 ②個人を対象とした歯科保健指導を実践するための基礎知識と技術を修得する。										
学修者への期待等	欠席や遅刻をせず、準備学修はしっかりと行い、歯科保健指導論の基礎となる部分を身につけられるよう意欲的に学んでください。										
回	授業計画				準備学修				担当		
1	歯科保健指導の概要 健康の概念(グループワーク)				Ⅰ編 総論 1章 歯科保健指導の概要について 教科書P2～P13を読んでください。健康について、自分の考えをまとめておいてください。(概ね30分程度)				佐藤 陽子 伊藤 明日香		
2	歯科保健指導の概念 健康の考え方(グループ発表)								佐藤 陽子 伊藤 明日香		
3	口腔の基礎知識 口腔の構造と働き				Ⅱ編 1章 口腔の基礎知識 教科書P16～P27を読んでください。 (概ね30分程度)				佐藤 陽子		
4	口腔の構造と働き(自分自身の口腔内観察)								佐藤 陽子		
5	う蝕と歯周病の基礎知識 口腔内の付着物・沈着物について				Ⅱ編 2章 う蝕と歯周病の基礎知識 教科書P28～P43を読んでください。(概ね30分程度)				佐藤 陽子		
6	う蝕と歯周病の基礎知識 う蝕・歯周病のメカニズム								佐藤 陽子		
7	口腔清掃法(歯ブラシの種類、構成、所要条件について)				Ⅲ編 4章 歯科衛生介入としての歯科保健指導 ①口腔衛生管理 3)ブラッシング方法について 教科書P273～P278を読んでください。(概ね30分程度)				佐藤 陽子		
8	口腔清掃法(各種清掃方法) グループワーク								佐藤 陽子		
9	保健行動支援のための基礎知識 行動変容に関連する理論				Ⅱ編 4章 保健行動支援のための基礎知識 教科書P88～P98を読んでください。(概ね30分程度)				佐藤 陽子		
10	歯科衛生ケアプロセス① 歯科衛生ケアプロセスの概念・概要				歯科衛生ケアプロセス実践ガイドPrologueおよびⅠ編歯科衛生ケアプロセスの概要P6～P17を読んでください。(概ね20分程度)				佐藤 陽子		
11	歯科衛生ケアプロセス② アセスメントについて				歯科衛生ケアプロセス実践ガイド1アセスメント 2歯科衛生診断 P20～P41を読んでください。(概ね30分程度)				佐藤 陽子		
12	歯科衛生ケアプロセス③ ケア計画について				歯科衛生ケアプロセス実践ガイド 3計画立案 P42～P55を読んでください。(概ね20分程度)				佐藤 陽子		
13	歯科衛生ケアプロセス④ 実施、評価について				歯科衛生ケアプロセス実践ガイド 4実施 5評価 P56～P65を読んでください。(概ね30分程度)				佐藤 陽子		
14	口腔清掃指数(PCR、OHI、OHI-S、PII、PHP)				Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータについて教科書P158～P162を読んでください。(概ね30分程度)				佐藤 陽子		
15	口腔清掃指数(オレリーのPCR判定 自主観察)								佐藤 陽子		
教科書	「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社、 「歯科衛生ケアプロセス 実践ガイド」佐藤 陽子、齋藤淳編著、医歯薬出版株式会社										
参考文献	授業内で適宜紹介する										
備考	シラバス1～14回目は教室で合同講義。シラバス15回目はクラスごと実習室にて演習。レポートおよび課題は添削後、授業内で総括する。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
歯科診療所で勤務経験のある教員が、う蝕および歯周病予防法について基礎知識と技術を指導する。	

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング DH-2-DHP-07				
		●	●							
科目名	保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）				単位 認定者	伊藤明日香 佐藤陽子 大宮由布子		評価 の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期 <th>単位数</th> <td>1 単位</td> <td>受講態度</td> <td>10 %</td>	単位数	1 単位		受講態度	10 %
						授業時間数	30 時間		授業内課題	10 %
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	歯科保健指導において、対象者の健康を保つためのセルフケアに必要な口腔清掃用具の種類と使用目的について学ぶ。また、プラークコントロールを中心とした各種ブラッシング方法を理解し、演習においてその技術を修得する。									
到達目標	歯科保健指導において歯科衛生士が使用するさまざまな口腔清掃用具の使用法を学び、その基本的実技に習熟し、臨床の場に十分対応し得る能力を修得する。									
学修者への 期待等	1.欠席・欠課をしないよう意欲を持って授業に臨んで欲しい。 2.身だしなみをきちんと整え、教科書等忘れ物をしないようにして欲しい。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	口腔清掃自習法（自分自身の口腔内観察）				『歯科予防処置・歯科保健指導論』P278表Ⅲ-4-8を参照し、自分の口腔内の、口腔清掃困難および清掃不良につながる口腔環境を考察し、授業に臨んでください。（20分程度）				伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子	
2	歯ブラシ検討およびブラッシング法演習				『歯科予防処置・歯科保健指導論』P269～1. ブラッシングについて、 『歯科材料』P31～1. 歯ブラシを読んで授業に臨んでください。（20分程度）				伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子	
3	フロッシング検討演習				『歯科予防処置・歯科保健指導論』P278～『歯科材料』P33～デンタルフロスについて事前に読んで授業に臨んでください。（20分程度）				伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子	
4	歯間ブラシ／タフトブラシ検討演習				『歯科予防処置・歯科保健指導論』P280～『歯科材料』P37～の歯間ブラシ、タフトブラシについて事前に読んで授業に臨んでください。（20分程度）				伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子	
5	歯磨剤検討演習 （推奨される効果的なフッ化物配合歯磨剤の使用法）				『歯科予防処置・歯科保健指導論』P272表Ⅲ-4-4を参照し、自分の普段使用している歯磨剤の成分を調べ、授業に臨んでください。（20分程度）				伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子	
6	オレリーのPCRチャート判定検討 相互演習（1）／（演習説明／術者1人目）				『歯科予防処置・歯科保健指導論』P158～⑧分析のためのデータについて事前に読んで授業に臨んでください。（20分程度）				伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子 三浦 悦子	
7	オレリーのPCRチャート判定検討 相互演習（2）／（術者2人目）				シラバス6回目の演習記録および授業資料を読んで授業に臨んでください。（20分程度）				伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子 三浦 悦子	
8	オレリーのPCRチャート判定検討 相互演習（3）／（術者3人目）				シラバス6回目の演習記録および授業資料を読んで授業に臨んでください。（20分程度）				伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子 三浦 悦子	
9	各種手用口腔清掃用具による術者磨き 相互演習（1）／（術者1人目）				シラバス2・3・4回目の演習記録および授業資料を読んで授業に臨んでください。（20分程度）				伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子 三浦 悦子	
10	各種手用口腔清掃用具による術者磨き 相互演習（2）／（術者2人目）				シラバス2・3・4回目の演習記録および授業資料を読んで授業に臨んでください。（20分程度）				伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子 三浦 悦子	
11	各種手用口腔清掃用具による術者磨き 相互演習（3）／（術者3人目）				シラバス2・3・4回目の演習記録および授業資料を読んで授業に臨んでください。（20分程度）				伊藤 明日香 大宮 由布子 佐藤 陽子 三浦 悦子	
12	客観的臨床能力判断 概要説明				シラバス1～11回目で学習した内容を復習し臨んでください。（60分程度）				佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香 三浦 悦子	
13	客観的臨床能力判断 相互演習（1）／（術者1人目）								佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香 三浦 悦子	
14	客観的臨床能力判断 相互演習（2）／（術者2人目）								佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香 三浦 悦子	
15	客観的臨床能力判断 相互演習（3）／（術者3人目）								佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香 三浦 悦子	
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科材料』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社									
参考文献	授業内で適宜紹介する。									
備考	シラバス1～5回目は、7階歯科演習室／シラバス6～11回目は、8階歯科実習室／シラバス12回目は、合同講義（教室）／シラバス13～15回目は、8階歯科実習室									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）										
歯科診療所で勤務経験のある教員が、対象者に合わせた口腔清掃用具の基礎知識と使用法の技術を指導する。										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-12			
	●								

科目名	歯科診療補助法（基礎知識）				単位認定者	花 淵 静 西 條 佳奈		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		受講態度	20 %
						授業形態	講義			

授業の概要	歯科衛生士が行う歯科診療補助業務の法的な変化および業務の専門性について理解する。 また、歯科診療補助のみならず歯科衛生士の活動に関わる医療安全と感染予防の基礎知識を学び実践できる能力を身につける。さらに、歯科衛生士が取り扱う歯科材料、歯科機器の種類、目的、用途ならびに歯科理工学的特性について理解する。									
到達目標	歯科診療補助及び歯科材料に関する知識を学び、その基本的実技を習熟し、臨床の場に十分対応し得る能力を修得する。									
学修者への期待等	1. 欠席・欠課をしないよう意欲を持って授業に臨んで欲しい。 2. 身だしなみをきちんと整え、教科書等忘れ物をしないようにして欲しい。									

回	授業計画			準備学修			担当
1	歯科診療補助の概念／歯科診療室の基礎知識			『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第1章歯科診療補助の概念および第3章歯科診療における基礎知識①-歯科診療室の基礎知識を読み授業に臨むこと。（60分程度）			西 條 佳奈
2	歯科材料/歯科機器の種類と特性			『歯科材料』Ⅶ執筆の序、Ⅰ編第1章歯科材料と歯科衛生士および2章歯科材料の基礎知識『歯科機器』Ⅶ執筆の序、第1章および第2章①-歯科用ユニット、④-滅菌・消毒用機器、第4章④-歯および口腔検査用機器を読み授業に臨むこと。（60分程度）			西 條 佳奈
3	医療従事者としての身だしなみについて 清潔・不潔の概念について			医療従事者としての身だしなみが重要視される理由とは何かを考察すること。清潔・不潔の概念について調べてくること。（40分程度）			西 條 佳奈
4	歯科診療所における患者対応の基本 ／共同動作 基礎演習			『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第4章①-共同動作を読み授業に臨むこと。（60分程度）			花 淵 静 西 條 佳奈 三 浦 悦子 穴 戸 敦子
5	バキューム・スリーウェイシリンジテクニック マネキン演習			『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第4章①-6. バキュームテクニック、7.スリーウェイシリンジテクニックを読み授業に臨むこと。また、シラバス第4回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）			花 淵 静 西 條 佳奈 三 浦 悦子 穴 戸 敦子
6	共同動作（患者誘導～口腔内洗浄） 相互演習（1） （演習手順説明／術者1人目）			『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第3章②-歯科診療所における受診の流れ、第4章③-6. バキュームテクニック、7.スリーウェイシリンジテクニックを読み授業に臨むこと。また、シラバス第4、5回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）			花 淵 静 西 條 佳奈 三 浦 悦子 穴 戸 敦子
7	共同動作（患者誘導～口腔内洗浄） 相互演習（2） （術者2人目、3人目／演習まとめ）						花 淵 静 西 條 佳奈 三 浦 悦子 穴 戸 敦子
8	合着材の基礎知識／基礎演習			『歯科材料』Ⅱ編第4章①-はじめに、②-合着材の種類と用途、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編7章③-合着・接着の補助を読み授業に臨むこと。（60分程度）			西 條 佳奈 三 浦 悦子 穴 戸 敦子
9	合着・接着の補助（各種合着材練和演習）			『歯科診療補助論 第2版Ⅰ編第7章③-合着・接着の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第8回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）			西 條 佳奈 三 浦 悦子 穴 戸 敦子
10	各種印象材の基礎知識			『歯科材料』Ⅱ編第2章印象材を読み授業に臨むこと。（60分程度）			花 淵 静

回	授業計画	準備学修	担当
11	アルジネート印象材の基礎知識／練和演習	『歯科材料』Ⅱ編第2章③-1. アルジネート印象材、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章①-2. アルジネート印象材による概形印象採得を読み授業に臨むこと。また、シラバス第10回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）	花渕 静 三浦 悦子 宍戸 敦子
12	アルジネート印象材による概形印象採得 マネキン演習	『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章①-2. アルジネート印象材による概形印象採得を読み授業に臨むこと。また、シラバス第11回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）	花渕 静 三浦 悦子 宍戸 敦子
13	アルジネート印象材による概形印象採得 相互演習（1） （演習手順説明／術者1人目）	『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章①-2. アルジネート印象材の概形印象採得を読み授業に臨むこと。また、シラバス第11、12回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）	花渕 静 三浦 悦子 宍戸 敦子
14	アルジネート印象材による概形印象採得 相互演習（2） （術者2人目、術者3人目／演習まとめ）		花渕 静 三浦 悦子 宍戸 敦子
15	模型用材料の基礎知識／各種石膏検討演習	『歯科材料』Ⅱ編第3章模型用材料、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編7章②-模型の作製を読み授業に臨むこと。（60分程度）	西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
16	歯科用石膏の取り扱い 基礎演習（1） （演習手順説明／術者1人目）	『歯科材料』Ⅱ編第3章模型用材料、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編7章②-模型の作製を読み授業に臨むこと。また、シラバス第15回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）	西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
17	歯科用石膏の取り扱い 基礎演習（2） （術者2人目／演習まとめ）		西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
18	アルジネート印象材による概形印象採得 石膏模型作製 相互演習（1） （演習手順説明／術者1人目）	『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章①-2. アルジネート印象材の概形印象採得、②-模型の作製、『歯科材料』Ⅱ編第3章模型用材料を読み授業に臨むこと。（40分程度）	西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
19	アルジネート印象材による概形印象採得 石膏模型作製 相互演習（2） （術者2人目）	『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章①-2. アルジネート印象材の概形印象採得、②-模型の作製、『歯科材料』Ⅱ編第3章模型用材料を読み授業に臨むこと。また、シラバス第18回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（30分程度）	西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
20	アルジネート印象材による概形印象採得 石膏模型作製 相互演習（3） （術者3人目／演習まとめ）		西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科材料』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科機器』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
参考文献	授業の中で適宜紹介する。		
備考	1・2・10回目は合同授業。3～7回、11～20回は歯科実習室、8、9回は新演習室にてクラス別に講義・演習を行う。6・7回、13・14回、16・17回、19・20回目は連続で演習を行う。 なお、授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。		

以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

歯科診療所で勤務経験のある教員が、歯科衛生士が取り扱う材料と機器の基礎知識と基本的技術を指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-13				
	●	●								
科目名	歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）				単位認定者	花 渕 静 西 條 佳 奈		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	40 時間			
					授業形態	演習	授業回数		20 回	
授業の概要	「歯科診療補助法（基礎知識）」で学んだ標準予防策（スタンダードプレコーション）の実践方法を修得し、歯科診療で取り扱うさまざまな歯科材料、歯科機器の基礎知識、取り扱い上の留意点を理解した上での顎模型、マネキン演習、相互演習の3段階を経て基本技術を修得する。									
到達目標	歯科診療補助及び歯科材料に関する知識を学び、その基本的実技に習熟し、臨床の場に十分対応し得る能力を修得する。									
学修者への期待等	1.欠席・欠課をしないよう意欲を持って授業に臨んで欲しい。 2.身だしなみをきちんと整え、教科書等忘れ物をしないようにして欲しい。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	歯科用ワックスの基礎知識／基礎演習				『歯科材料』Ⅱ編第8章ワックスを読み授業に臨むこと。（40分程度）				西 條 佳奈 三 浦 悦子 宍 戸 敦子	
2	咬合採得法の基礎知識／基礎演習				『歯科材料』Ⅱ編第8章ワックスを読み授業に臨むこと。また、シラバス第1回目の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）				西 條 佳奈 三 浦 悦子 宍 戸 敦子	
3	仮封材の基礎知識／基礎演習				『歯科材料』Ⅱ編第6章仮封材、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章⑤-仮封・仮着の補助を読み授業に臨むこと。（60分程度）				花 渕 静 三 浦 悦子	
4	各種仮封材の取り扱い マネキン演習 （水硬性仮封材／レジ系仮封材／テンポラリーストッピング）				『歯科材料』Ⅱ編第6章仮封材、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章⑤-仮封・仮着の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第3回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）				花 渕 静 三 浦 悦子	
5	各種仮封材の取り扱い マネキン演習 （セメント系仮封材）				『歯科材料』Ⅱ編第6章仮封材、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章⑤-仮封・仮着の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第3、4回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）				花 渕 静 三 浦 悦子	
6	寒天印象材の基礎知識／基礎演習				『歯科材料』Ⅱ編第2章③-2.寒天印象材、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章①-3.寒天印象採得の補助を読み授業に臨むこと。（60分程度）				西 條 佳奈 三 浦 悦子 宍 戸 敦子	
7	寒天・アルジネート連合印象採得 マネキン演習				『歯科材料』Ⅱ編第2章③-2.寒天印象材、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章①-3.寒天印象採得の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第6回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）				西 條 佳奈 三 浦 悦子 宍 戸 敦子	
8	寒天・アルジネート連合印象採得 相互演習（1）（演習手順説明／術者1人目）				『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章①-3.寒天印象採得の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第6、7回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）				西 條 佳奈 三 浦 悦子 宍 戸 敦子	
9	寒天・アルジネート連合印象採得 相互演習（2）（術者2人目）				『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章①-3.寒天印象採得の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第6～8回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）				西 條 佳奈 三 浦 悦子 宍 戸 敦子	
10	寒天・アルジネート連合印象採得 相互演習（3）（術者3人目／演習まとめ）								西 條 佳奈 三 浦 悦子 宍 戸 敦子	

回	授業計画	準備学修	担当
11	シリコーンゴム印象材の基礎知識／基礎演習	『歯科材料』Ⅱ編第2章③-3.シリコーンゴム印象材、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章①-4.合成ゴム質印象の補助を読み授業に臨むこと。（60分程度）	花渕 静 三浦 悦子
12	シリコーンゴム印象材による精密印象採得マネキン演習	『歯科材料』Ⅱ編第2章③-3.シリコーンゴム印象材、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章①-4.合成ゴム質印象の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第11回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）	花渕 静 三浦 悦子
13	シリコーンゴム印象材による精密印象採得相互演習（1） （演習手順説明／術者1人目）	『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章①-4.合成ゴム質印象の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第11、12回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）	花渕 静 三浦 悦子
14	シリコーンゴム印象材による精密印象採得相互演習（2） （術者2人目、3人目／演習まとめ）		花渕 静 三浦 悦子
15	暫間修復材の基礎知識／基礎演習	『歯科材料』Ⅱ編第7章暫間修復材と仮着用セメントを読み授業に臨むこと。（40分程度）	花渕 静 三浦 悦子
16	口腔内写真撮影の基礎知識／基礎演習	『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第3章⑤-2.口腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』Ⅲ編第2章⑧-2.写真・画像を読み授業に臨むこと。（40分程度）	西條 佳奈 三浦 悦子 穴戸 敦子
17	暫間修復物（既製冠/印象法）作製演習／口腔内写真撮影（5枚法）相互演習（1） （演習手順説明／術者1人目）	『歯科材料』Ⅱ編第7章暫間修復材と仮着用セメント、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第3章⑤-2.口腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』Ⅲ編第2章⑧-2.写真・画像を読み授業に臨むこと。また、シラバス第15、16回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（30分程度）	花渕 静 西條 佳奈 三浦 悦子 穴戸 敦子
18	暫間修復物（既製冠/印象法）作製演習／口腔内写真撮影（5枚法）相互演習（2） （術者2人目）		花渕 静 西條 佳奈 三浦 悦子 穴戸 敦子
19	暫間修復物（既製冠/印象法）作製演習／口腔内写真撮影（5枚法）相互演習（3） （術者3人目）	『歯科材料』Ⅱ編第7章暫間修復材と仮着用セメント、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第3章⑤-2.口腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』Ⅲ編第2章⑧-2.写真・画像を読み授業に臨むこと。また、シラバス第15～18回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（30分程度）	花渕 静 西條 佳奈 三浦 悦子 穴戸 敦子
20	暫間修復物（既製冠/印象法）作製演習／口腔内写真撮影（5枚法）相互演習（4） （演習まとめ）		花渕 静 西條 佳奈 三浦 悦子 穴戸 敦子
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科材料』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科機器』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
参考文献	授業の中で適宜紹介する。		
備考	すべてクラス別での演習とし、8階実習室を使用する。9・10回、13・14回、17・18回、19・20回は連続しての演習となる。 尚、授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。		

以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

歯科診療所で勤務経験のある教員が、歯科診療で取り扱う材料と機器について臨床の場で対応できる技術を指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-16				
	●	●								
科目名	感染予防法				単位 認定者	花 淵 静		評価 の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	歯科医療行為の多くは外科的な治療と位置づけられ、歯科医療従事者の感染リスクは低くない。加えて医療の高度化に伴う易感染性宿主の増加や進行ないし再興感染症の拡大等から、歯科医療の現場でも十分な感染予防対策をとる必要に迫られている。感染が起こる原因の理解と感染予防対策の具体的方法について学び、臨床の場で実践できる能力を修得する。									
到達目標	感染症に関わる予防法について理解し、臨床の場で実践できる能力を修得する。									
学修者への期待等	感染に対する理解は、自分自身を感染から守るだけでなく、病院あるいは診療所において、患者に感染を生じさせないことにつながっている。したがって、臨床の現場で、どこに感染の危険性が潜んでいるのか、常に感染対策に関するリスク管理が必要である。欠席しないこと。授業中は私語を慎むこと。									
回	授業計画			準備学修					担当	
1	感染予防対策の基本的事項			Ⅰ 患者主体の感染予防対策・Ⅱ 感染予防対策の基本(教科書P2～17)を読み授業に臨んでください。(30分程度)					花 淵 静	
2	歯科医療における滅菌・消毒・洗浄			Ⅲ 歯科医療における滅菌・消毒・洗浄(教科書P18～P37)を読み授業に臨んでください。(30分程度)					花 淵 静	
3	歯科医院における感染予防対策			Ⅳ 歯科医院における感染予防対策(教科書P38～P50)を読み授業に臨んでください。(30分程度)					花 淵 静	
4	歯科医院における感染予防対策の実際／感染性廃棄物の取り扱い			Ⅴ－①② 歯科医院における感染予防対策の実際(教科書P52～P82)、Ⅴ－④ 感染性廃棄物の分別・保管・運搬処理(教科書P105～107) 授業に臨んでください。(40分程度)					花 淵 静	
5	手指衛生、個人防護具(PPE)			シラバス4回目の授業内容を復習し、実践的に演習に取り組めるように準備しておいてください。(30分程度)					花 淵 静 西 條 佳奈	
6	手指衛生の実践 個人防護具(PPE) 着脱演習								花 淵 静 西 條 佳奈	
7	歯科医療従事者の健康管理			教科書P108 表1医療従事者の免疫を参照し自分のワクチン接種状況を調べておいてください。(30分程度)					花 淵 静	
8	歯科医療従事者のリスクマネジメント			Ⅵ 歯科医療従事者の感染予防対策(教科書P108～121)を読み授業に臨んでください。(30分程度)					花 淵 静	
9	医療安全			歯科診療補助論教科書「Ⅰ 編 2章 医療安全と感染予防」を読み授業に臨んでください。(30分程度)					花 淵 静	
10	歯科医療におけるKYT訓練 グループワーク			今までの授業の復習をして来てください。また、臨床実習先での感染対策に関する自分が感じた疑問点などまとめてきてください。(30分程度)					花 淵 静	
教科書	『歯科医療における国際標準 感染予防対策テキスト』 ICHG研究会編、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献										
備考	1・2・3・4・7・8・9回は、2クラス合同講義 5・6回は連続で2クラスに分かれて8階実習室で授業を行う。 10回は2クラスに分かれて7階歯科演習室で授業を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-CLT-01					
	●	●	●								
科目名	臨地実習Ⅰ（臨床基礎）				単位 認定者	伊藤恵美 佐藤陽子 大宮由布子 花淵静 武山真奈美 西條佳奈 伊藤明日香		評価の方法	実習状況	100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	4 単位				
						授業時間数	180 時間				
				授業形態	実習	授業回数	集中				
授業の概要	本科目は、医療機関で行う臨床実習と、教育機関で行う臨地実習からなる。前期に行う医療機関での見学実習では、歯科診療の業務内容、及び歯科医療チームの一員としての歯科衛生士の役割を理解し、歯科衛生士としての心構えを身につける。後期に行う臨床実習では、学内で既修の知識、技術、態度を具体的、かつ、実際に理解し、歯科衛生士としての役割を把握する。また、教育機関で行う臨地実習を通して、ライフステージに合わせた歯科保健指導について学ぶ。歯科衛生士として基本的な知識、技能及び態度を身につけ、今後の学修目標を明確にする。										
学修者への期待等	1) 臨床現場における歯科衛生士の業務を見学することで将来の自分の歯科衛生士像をイメージしてください。 2) 学内で学んだ知識、技術を具体的かつ実践的に実施してください。										
授業計画											
1. 実習期間 1) 歯科診療所見学実習:6月(2日間) 2) 歯科診療所臨床実習:1月～2月(20日間) 3) 小学校実習:1日間 2. 実習の目標 医療人としての人間性や倫理観、コミュニケーション能力を習得するために、現場における歯科衛生士の役割を理解し、口腔保健を担う専門職としての知識・技術・態度を身につける。 1) 歯科診療所見学実習 (1) 歯科診療所における歯科診療の流れを理解する。 (2) 歯科診療所における歯科衛生士の仕事内容を理解する。 2) 歯科診療所臨床実習 (1) 歯科診療の流れを理解し、それに必要な診療介助の方法を理解する。 (2) 歯科衛生士が歯科診療所で行う歯科診療補助、歯科予防処置歯科保健指導の内容を理解する。 (3) 1年次に学内で学んだ知識、技術を臨床現場で実施することにより自己の学修成果を確認する。 3) 集団歯科保健指導実習(小学校) 小学校における健康教育を実施するにあたり、歯科保健指導の具体的な方法を学ぶ。 (1) 対象学年に合わせた歯科保健指導計画の立案ができる。 (2) 指導計画に添って教材・教具を活用し指導ができる。 (3) 対象学年の児童に対してわかりやすい言葉、にこやかな表情で話を展開できる。 (4) 歯科保健指導において、動画教材を用いた指導方法を実践できる。 3. 実習計画 1) 歯科診療所見学実習 実習項目) ・診療室内の環境整備 ・患者誘導 ・各症例の見学(患者来院～治療終了後まで) 2) 歯科診療所臨床実習 実習項目) ・診療室内の環境整備 ・患者誘導 ・使用器具・器材・材料の準備・後片付け ・診療介助(バキューム／ライティング／器具・器材の受け渡し) ・各種検査記録(歯式、歯周検査、O'Leary) ・印象採得介助(印象材練和) ・各種セメントの取り扱い 3) 集団歯科保健指導実習(小学校) 実習項目) ・集団歯科保健指導における各学年に合わせた歯科保健指導案の作成 ・各学年に合わせた歯科保健指導の実施											
教科書	1年次で、専門展開科目で使用する各教科書										
参考文献	特になし										
備考	実習終了後に、実習報告会を実施する。この報告会で実習の振り返りを行い、実習評価について総括する。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

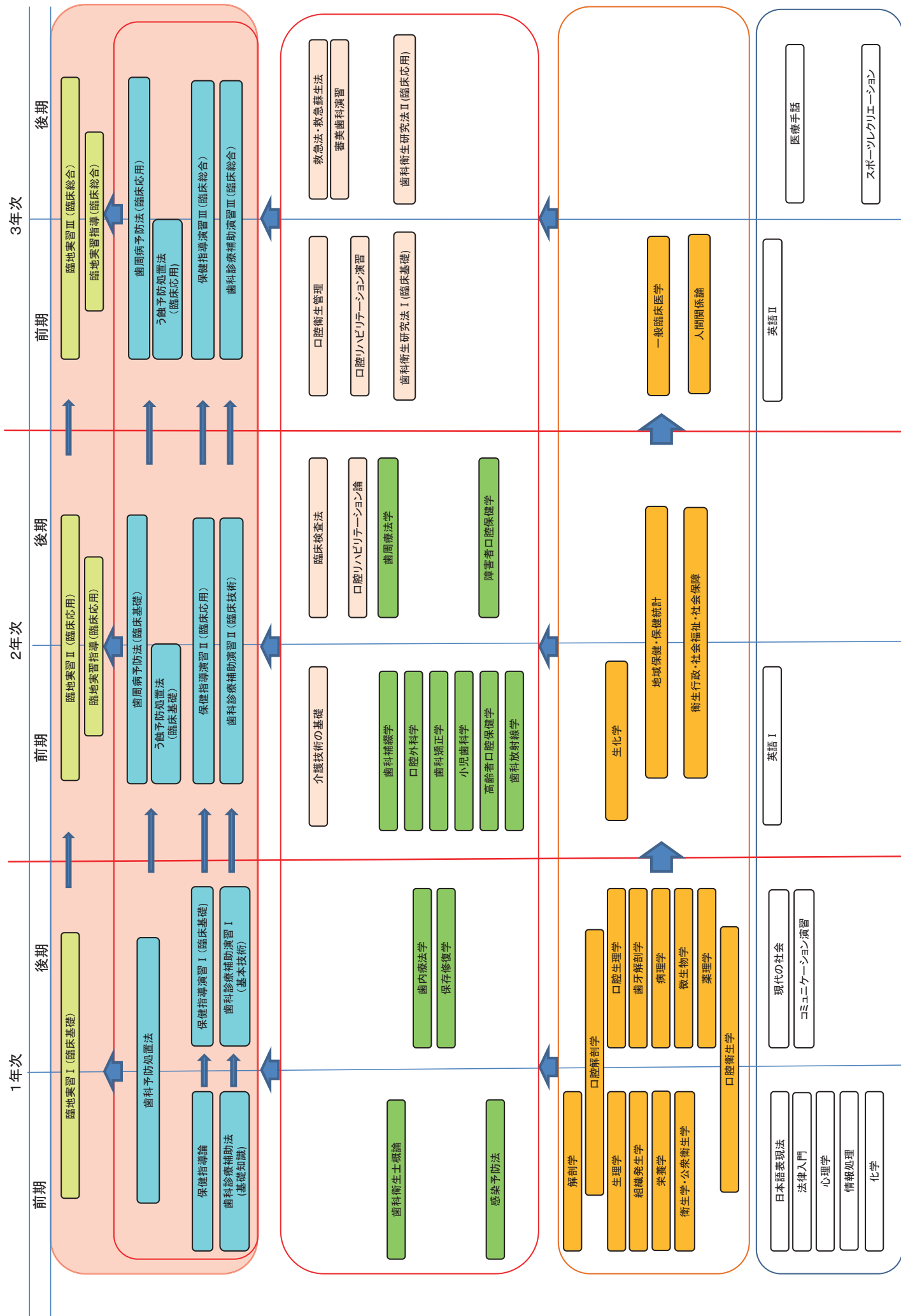
歯科衛生学科 2年生

(2024年度入学生)

- カリキュラムツリー
- カリキュラムマップ
- 年間予定表
- シラバス

2025年度歯科衛生学科2年生 カリキュラムツリー

- 教養教育分野
- 専門展開科目 (講義、演習)
- 専門展開科目 (講義)
- 専門展開科目 (演習)
- 専門支持科目
- 実習



2025年度歯科衛生学科2年 カリキュラムマップ

学修成果（到達目標）

1【基礎力】：一般教養並びに各専門分野の基礎的能力

①全身と口腔の健康を理解し、歯科衛生士として必要な基本的な知識を身につける。

②口腔疾患の原因、病態、予防方法を理解し、歯科衛生士としての専門性を理解し応用できる能力を身につける。

③自らの健康管理ができ、社会人として責任を果たすことができる。

2【実践力】：各分野の実際の場面に对应できる力

①疾病予防のために必要な情報を収集し、問題解決のための基本的な施術や適切な口腔衛生指導ができる。

②安全で効果的な歯科医療を提供するため、基本的な技術を身につけ実践できる。

③社会人として、また医療従事者として倫理観をもって行動できる。

3【人間関係力】：専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力

①社会人としての責任感を自覚し周囲と良好な人間関係を築くことができる。

②保健・医療・福祉チームの中で果たす役割を理解し、他者と連携しながら歯科衛生士の役割・責任を担うことができる。

③他者との関わりの中で、自らの課題を見つける客観性と、改善・解決できる柔軟性を身につける。

4【生涯学習力】：生涯にわたって学び、成長できる力

①学修内容に興味や関心をもち、主体的、意欲的に取り組むことができる。

②専門職者として歯科医療における問題点をみつけ、自己学修によって解決できる。

③専門職者として常に謙虚で自己の成長に努めることができる。

5【地域理解力】：地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力

①地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感を持って積極的に行動できる。

②地域の文化、人々の生活に興味、関心をもち、地域住民の視点にたちコミュニケーションをとることができる。

学修成果：1基礎力2実践力3人間関係力4生涯学習力5地域理解力

学修成果とは、学生がその授業科目で何ができるようになったかを表すものです。

●は、各授業科目が学修成果の1～5のどれに当てはまるかを表すものです。

科目区分			授業 回数	履修年次																				単位数		
				1年		学修成果					2年		学修成果					3年		学修成果						
				前	後	1	2	3	4	5	前	後	1	2	3	4	5	前	後	1	2	3	4	5	必	選
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	15	○		●																		1		
		英語Ⅰ	15							○		●												1		
		英語Ⅱ	10														○		●					1		
		医療手話	10															○		●	●			1		
	人間と社会	法律入門	15	○		●														●	●				2	
		現代の社会	15		○	●																		2		
		コミュニケーション演習	10		○			●	●															1		
		心理学	10	○		●			●																1	
	人間と科学	情報処理	15	○		●																		1		
		化学	10	○		●																		1		
		スポーツレクリエーション	10															○		●	●				1	
	専門支持科目	人体の構造と機能	解剖学	15	○		●																		2	
生理学			15			●																		1		
組織発生学			10	○		●																		1		
歯・口腔の構造と機能		口腔解剖学	20		○	●																		2		
		口腔生理学	15		○	●																		2		
		歯牙解剖学	10		○	●																		1		
疾病の成り立ちと回復		病理学	15		○	●																		1		
		微生物学	15		○	●																		1		
		薬理学	15		○	●																		1		
		栄養学	10	○		●																		1		
		生化学	10							○		●												1		
健康と予防に関わる人間の社会の仕組み		一般臨床医学	10															○		●				1		
	衛生学・公衆衛生学	15	○		●																		1			
	口腔衛生学	30		○	●																		2			
	地域保健・保健統計	20								○		●											2			
	衛生行政・社会福祉・社会保障	20								○		●											2			
人間関係論	10															○		●		●			1			
専門展開科目	臨床歯科医学	歯科衛生士概論	15	○		●			●															2		
		歯内療法学	10		○	●																		1		
		保存修復学	10		○	●																		1		
		歯周療法学	15								○		●											1		
		歯科補綴学	15								○		●											1		
		口腔外科学	15								○		●											1		
		歯科矯正学	15								○		●											1		
		小児歯科学	15								○		●											1		
		高齢者口腔保健学	10								○		●											1		
		障害者口腔保健学	10								○		●											1		
		歯科放射線学	15								○		●											1		
		口腔衛生管理	10															○		●				1		
	歯科予防処置論	歯科予防処置法	30		○	●																		2		
		う蝕予防処置法（臨床基礎）	10								○		●	●										1		
		歯周病予防法（臨床基礎）	30								○		●	●										2		
		う蝕予防処置法（臨床応用）	10															○			●			1		
		歯周病予防法（臨床応用）	20																○		●			2		
	歯科保健指導論	保健指導論	15	○		●																		1		
		保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）	15		○		●		●	●														1		
		保健指導演習Ⅱ（臨床応用）	30								○			●	●									2		
		保健指導演習Ⅲ（臨床総合）	30															○			●	●		2		
		口腔リハビリテーション論	10								○		●											1		
		口腔リハビリテーション演習	10															○			●			1		
	歯科診療補助論	歯科診療補助法（基礎知識）	20	○		●																		2		
		歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）	20		○	●		●																2		
		歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）	30								○			●	●									2		
		歯科診療補助演習Ⅲ（臨床総合）	20															○			●	●		2		
		感染予防法	10	○		●		●																1		
		臨床検査法	10									○		●	●									1		
		救急法・救急蘇生法	15															○		●	●			1		
	実習	介護技術の基礎	15								○		●	●										1		
		審美歯科演習	10															○		●	●			1		
臨地実習Ⅰ（臨床基礎）		集中		○		●	●	●															4			
臨地実習Ⅱ（臨床応用）		集中								○			●	●	●	●							8			
臨地実習指導（臨床応用）		15								○			●	●	●								1			
臨地実習Ⅲ（臨床総合）		集中																					8			
臨地実習指導（臨床総合）		15															○			●	●	●	1			
特別科目	歯科衛生研究法Ⅰ（臨床基礎）	15															○		●				1			
	歯科衛生研究法Ⅱ（臨床応用）	15																○		●			1			
総計（卒業要件100単位以上）																								93	9	

2025年度 歯科衛生学科2年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土
4月			1	オリエンテーション	3	校内模擬試験	5
	6	7 健康診断	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29 昭和の日	30	1	2	3 憲法記念日
5月	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7	8	9 合同交流会	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
6月	1	2	3 相互台小学校実習	4	5 通町小学校実習	6	7
	8	9	10 相互台小学校実習	11	12	13	14
	15	16 歯科医院実習	17 歯科医院実習	18 歯科医院実習	19 歯科医院実習	20 歯科医院実習	21
	22	23 歯科医院実習	24 歯科医院実習	25 歯科医院実習	26 歯科医院実習	27 歯科医院実習	28
	29	30 歯科医院実習	1 歯科医院実習	2 歯科医院実習	3 歯科医院実習	4 歯科医院実習	5
7月	6	7 実習予備日	8 実習予備日	9 実習報告会	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21 海の日	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	1	2
8月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21 定期試験	22 定期試験	23
	24	25 定期試験	26 定期試験	27 追試験	28 夏休み/臨地実習	29 夏休み/臨地実習	30
	31	1 夏休み/臨地実習	2 夏休み/臨地実習	3 夏休み/臨地実習	4 夏休み/臨地実習	5 不合格者発表	6
9月	7	8 夏休み/臨地実習	9 夏休み/臨地実習	10 再試験	11 再試験	12 再試験	13
	14	15 敬老の日	16 夏休み/臨地実習	17 夏休み/臨地実習	18 夏休み/臨地実習	19 夏休み/臨地実習	20
	21	22 夏休み/臨地実習	23 秋分の日	24 夏休み/臨地実習	25 夏休み/臨地実習	26 夏休み/臨地実習	27

※振替授業日、追試験の日程、再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2025年度 歯科衛生学科2年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土
9月	28	29 後期開始	30	1	2	3	4
10月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13 スポーツの日	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25 せいよう祭
	26	27	28	29	30	31	1
11月	2	3 文化の日	4	5	6	7 合同交流会	8
	9	10	11 大学病院実習 歯科医院実習	12 大学病院実習 歯科医院実習	13 大学病院実習 歯科医院実習	14 大学病院実習 歯科医院実習	15
	16	17 大学病院実習 歯科医院実習	18 大学病院実習 歯科医院実習	19 大学病院実習 歯科医院実習	20 大学病院実習 歯科医院実習	21 大学病院実習 歯科医院実習	22
	23 勤労感謝の日	24 振替休日	25 大学病院実習 歯科医院実習	26 大学病院実習 歯科医院実習	27 大学病院実習 歯科医院実習	28 実習報告会 歯科医院実習	29
	30	1 歯科医院実習	2 歯科医院実習	3 歯科医院実習 実習予備日	4 歯科医院実習 実習予備日	5 歯科医院実習 実習報告会	6
12月	7	8 歯科医院実習 大学病院実習	9 歯科医院実習 大学病院実習	10 歯科医院実習 大学病院実習	11 歯科医院実習 大学病院実習	12 歯科医院実習 大学病院実習	13
	14	15 歯科医院実習 大学病院実習	16 歯科医院実習 大学病院実習	17 歯科医院実習 大学病院実習	18 歯科医院実習 大学病院実習	19 歯科医院実習 大学病院実習	20
	21	22 実習予備日 大学病院実習	23 実習予備日 大学病院実習	24 実習報告会	25 冬休み	26 冬休み	27
	28	29 冬休み	30 冬休み	31 冬休み	1 元日	2 冬休み	3
1月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12 成人の日	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
2月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11 建国記念日	12	13	14
	15	16 定期試験	17 定期試験	18 定期試験	19 定期試験	20 模擬試験	21
	22	23 天皇誕生日	24 追試験	25 春休み	26 春休み	27 春休み	28
3月	1	2 不合格者発表	3 春休み	4 春休み	5 再試験	6 再試験	7
	8	9 再試験	10 春休み	11 春休み	12 春休み	13 春休み	14
	15	16 春休み	17 (卒業式)	18 春休み	19 春休み	20 春分の日	21
	22	23 春休み	24 春休み	25 春休み	26 春休み	27 春休み	28
	29	30 春休み	31 春休み				

※振替授業日、追試験の日程、再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-02				
	●									
科目名	英語 I				単位 認定者	近江 貞子		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	日常生活や専攻分野の仕事・職場で頻繁に用いられる基本表現を「話し」・「聞く」ことができる力を養い、基礎的な英語コミュニケーション能力を修得する。									
到達目標	学生は当該専門職として必要となる基礎的な英会話と一般的なトピックについて英会話ができるようになる。									
学修者への期待等	英語コミュニケーションは受け身の学修姿勢では成立しないため、履修生の積極的な参加を期待する。ノート、辞書を必ず持参すること（辞書がない学生は英和辞書のアプリをダウンロードしておくこと。）授業では音読を始め、ペアワークで英語を話す時間を設けるが大きな声で発音するようにお願いしたい。									
回	授業計画					準備学修				
1	1:初診患者対応のための会話練習、解説 /Getting Acquainted-会話練習					単語の予習、復習と発音練習、その他指定された課題を行うこと。 (1時間程度)				
2	2:問診票記入について患者に説明するための会話練習					単語の予習、復習と発音練習、その他指定された課題を行うこと。 (1時間程度)				
3	3:アポイントメントの取り方のための会話練習、解説					単語の予習、復習と発音練習、その他指定された課題を行うこと。 (1時間程度)				
4	4:様々な治療について説明するための会話練習					単語の予習、復習と発音練習、その他指定された課題を行うこと。 (1時間程度)				
5	5:患者の既往歴について尋ねるための会話練習					単語の予習、復習と発音練習、その他指定された課題を行うこと。 (1時間程度)				
6	6:患者の症状を尋ねるための会話練習、解説					単語の予習、復習と発音練習、その他指定された課題を行うこと。 (1時間程度)				
7	7:患者にどのような治療、処置を行うかを説明するための会話練習					単語の予習、復習と発音練習、その他指定された課題を行うこと。 (1時間程度)				
8	8:患者に対してすべきこと、してはいけないことをアドバイスするための会話練習、解説					単語の予習、復習と発音練習、その他指定された課題を行うこと。 (1時間程度)				
9	9:患者への歯ブラシ指導のための会話練習、解説					単語の予習、復習と発音練習、その他指定された課題を行うこと。 (1時間程度)				
10	10:患者からの質問対応や質問を患者に行うための会話練習、解説					単語の予習、復習と発音練習、その他指定された課題を行うこと。 (1時間程度)				
11	既習箇所の復習					単語の予習、復習と発音練習、その他指定された課題を行うこと。 (1時間程度)				
12	11:抜歯する患者へアドバイスするための会話練習、解説					単語の予習、復習と発音練習、その他指定された課題を行うこと。 (1時間程度)				
13	12.患者に薬について説明し、薬局への指示を与えるための会話練習					単語の予習、復習と発音練習、その他指定された課題を行うこと。 (1時間程度)				
14	13.支払先、治療費、歯科用製品の価格の説明のための会話練習					単語の予習、復習と発音練習、その他指定された課題を行うこと。 (1時間程度)				
15	14. 歯科衛生士の仕事に必要なもの、歯科衛生士の典型的な一日についての会話練習 / 試験について					試験のために準備をし、疑問点は質問すること。(学修時間は各自に任せる)				
教科書	『2週間で英語耳 歯科衛生士のためのListening Skills CD付』C.S.Langham・田嶋倫雄著、医歯薬出版株式会社									
参考文献										
備考	各ユニットごとに重要な表現が出てくるのでその都度暗記をし、ペアワークで確認し合う。授業の進行状況によってシラバスを変更することもある。合同または2クラスに分かれて授業を実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-11				
	●									
科目名	生化学				単位認定者	阿部 昌子		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	10 %
				授業形態	講義	授業時間数	20 時間		受講態度	20 %
						授業回数	10 回			
授業の概要	生命現象を、生体構成成分や栄養素が体内で変化する様子やエネルギーが作られる過程、すなわち、化学反応として捉え、これらを生化学的に理解する。また、口腔に特徴的な歯、歯周組織、唾液、プラーク（歯垢）の構成成分やそこで生じる疾患（う蝕や歯周病）について生化学的な側面から学ぶ。									
到達目標	生命現象を生化学的に理解する。また、栄養素と直接関係する口腔疾患について理解を深める。									
学修者への期待等	教科書などによる予習・復習を行い、授業内容を十分理解することを期待する。									
回	授業計画					準備学修				
1	「一般生化学」 生体の構成要素（細胞の役割、生体構成成分と栄養素）					[事後]Ⅰ編1章「細胞の役割、生体構成成分と栄養素」について、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（40分程度）。				
2	糖質と脂質の代謝（糖質の代謝とエネルギーの生成、脂質の代謝とエネルギーの生成）					[事後]Ⅰ編3章「糖質の代謝とエネルギーの生成、脂質の代謝とエネルギーの生成」について、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（40分程度）。				
3	タンパク質とアミノ酸の代謝（タンパク質の加水分解、アミノ酸の加水分解、タンパク質の合成）					[事後]次回、1～3回目の講義で学んだ内容について小テストをする予定。教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（2時間程度）。				
4	「口腔生化学」 歯と歯周組織の生化学1（歯と歯周組織、結合組織）					[事後]Ⅱ編1章「歯と歯周組織」、2章「結合組織」について、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（40分程度）。				
5	歯と歯周組織の生化学2（歯の組成、歯の無機成分、歯の有機成分）					[事後]Ⅱ編1章「歯の組成、歯の無機成分、歯の有機成分」について、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（40分程度）。				
6	硬組織の生化学（石灰化の仕組み、骨の生成と吸収）					[事後]Ⅱ編2章「石灰化の仕組み、骨の生成と吸収」について、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（40分程度）。				
7	唾液の生化学（唾液の組成と機能）					[事後]Ⅱ編3章「唾液の組成と機能」について、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（40分程度）。				
8	プラークの生化学1（プラークの生物活性）					[事後]Ⅱ編4章「プラークの生物活性」について、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（40分程度）。				
9	プラークの生化学2（プラークによるう蝕発症機構）					[事後]Ⅱ編4章「プラークによるう蝕発症機構」について、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（40分程度）。				
10	プラークの生化学3（プラークによる歯周疾患発症機構）					[事後]10回の講義で学んだ内容を、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること（2時間程度）。				
教科書	『歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝』 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献										
備考	小テストを採点后、授業内で総括する。講義の進行具合によっては、シラバスの授業計画の順番は前後する事もある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-15					
	●										
科目名	地域保健・保健統計					単位 認定者	小野寺健 大森俊也 石河理紗		評価の 方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	受講態度		10 %	
						授業時間数	40 時間	授業内課題 （小テスト等）		10 %	
				授業形態	講義	授業回数	20 回				
授業の概要	人々の健康に関わる地域の役割を学び、地域保健を担う組織の仕組みと特徴を理解する。また、集団を対象とした疾病予防と健康増進に関わる地域保健活動において歯科衛生士の役割を理解する。 保健統計では、歯科臨床や保健情報のデータから、統計学的な解析を行う方法を身につける。										
到達目標	・地域の人々の歯と口腔の健康づくりを支援するための基礎と方策について理解する。 ・一人ひとりの生活行動が身近な地域福祉活動に結びつくものであること、また、一人ひとりが社会資源として地域福祉のネットワークに参画する必要性について理解する。 ・保健統計とは、健康増進、疾病予防、医療等人の健康に関する統計のことを指す。本科目では、保健統計の種類と意義を学修し、わが国の保健統計の変遷及び現状等について理解を深める。さらに医療の現場で得られる様々なデータは、そのままでは理解することが難しい場合も多い。そうしたデータを視覚的、数量的にまとめ、有用な情報を抽出するための方法を理解する。										
学修者への期待等	地域福祉について、口腔の健康に及ぼす要因も含めて理解する。基本的な統計学的手法について理解する。授業終了後に重要項目をまとめた小テストを実施するので、その内容については次回までに復習することが望ましい。										
回	授業計画					準備学修			担当		
1	地域保健・公衆衛生① 生活と健康、地域社会と保健対策の基本的な考え方を学び、時代の変化に伴う地域保健活動の変化から、今日の現状を概説する。					予習として教科書のⅢ編1章①～④を読んで授業に臨むこと。（20分程度）			石河 理紗		
2	地域保健・公衆衛生② 健康づくり対策と地域歯科保健について説明する。					前回の復習として講義資料を再読しておくこと。予習として教科書のⅢ編1章⑤～を読んで授業に臨むこと。（20分程度）			石河 理紗		
3	母子保健 母子健康手帳に記載された口腔関連質問項目や妊産婦への歯科保健指導の要点について学ぶ。また1歳6カ月児、3歳児健康診断の目的、う蝕罹患型の分類、歯科保健指導の要点等を学習する。					前回の復習として講義資料を再読しておくこと。予習として教科書のⅢ編2章を読んで授業に臨むこと。（20分程度）			石河 理紗		
4	学校保健 学校保健の対象者とその意義、関係職員について学ぶ。また保健教育と保健管理の概要を理解する。学校歯科健康診断について診査の項目や記載事項、事後措置を学ぶ。					前回の復習として講義資料を再読しておくこと。予習として教科書のⅢ編3章を読んで授業に臨むこと。（20分程度）			石河 理紗		
5	成人保健・高齢者保健 成人保健として生活習慣病のリスクファクターと成人期の口腔保健管理について学ぶ。また、高齢者保健として高齢者の保健対策や介護保険、地域支援事業について理解する。					前回の復習として講義資料を再読しておくこと。予習として教科書のⅢ編4章、6章を読んで授業に臨むこと。（20分程度）			石河 理紗		
6	産業保健 産業保健の目的、関連法規について学び、職業性疾患の要因と歯科を含む特殊健康診断について理解する。また安全衛生管理について学習する。					前回の復習として講義資料を再読しておくこと。予習として教科書のⅢ編5章を読んで授業に臨むこと。（20分程度）			石河 理紗		
7	精神保健 精神保健の定義、意義を学び、精神保健福祉行政や精神医療の現状と課題について理解する。また精神障害者の社会復帰と歯科保健の問題を考える。					前回の復習として講義資料を再読しておくこと。予習として教科書のⅢ編7章を読んで授業に臨むこと。（20分程度）			石河 理紗		
8	災害時歯科保健、国際保健 日常的災害対策や災害時の保健医療について学び、災害時の歯科保健、歯科の役割について理解する。また世界的な健康水準や保健医療水準、国際協力に関わる機関やその活動について学ぶ。					前回の復習として講義資料を再読しておくこと。予習として教科書のⅢ編8～9章を読んで授業に臨むこと。（20分程度）			石河 理紗		
9	まとめ これまでの授業内容について総括する					これまでの講義内容のうち、自分で理解不十分と思う部分について、教科書や講義資料を確認の上で授業に臨むこと。（20分程度）			石河 理紗		

回	授業計画	準備学修	担当
10	「地域福祉」の理解 ① 少子高齢多死社会という人口の動態、基礎的財政収支、国債累積残高の現状や社会保障給付の受益と負担を知り、公助・共助・自助や「互助」という福祉コミュニティの形成及び地域福祉の必然性と主体について気づく。	スライド資料をもとに授業を進める。 テキストは、体系的に構成、説明されており容易に読解できるので、初回講義までに地域福祉のイメージを描けるよう、テキストの目次項目にある用語について反復して目を通しておくこと。(20分程度)	大森 俊也
11	「地域福祉」の理解 ② 地域保健、地域医療の構想と超高齢における介護社会を連携する地域包括ケアのイメージをとらえ、選別主義から普遍主義にシフトした社会福祉からWell-beingの福祉社会への転換を推進する社会福祉法の目的、地域福祉の構成要素について理解を深める。	テキストの地域福祉の理念、理論、構成要素P18～27、地域福祉の主体・担い手P90～91を熟読しておくこと。(20分程度)	大森 俊也
12	「地域福祉」の理解 ③ 地域福祉の理念について学ぶ。ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、アドボカシー、ボランティア、協働・パートナーシップ、エンパワメント等を理解し、誰一人取り残すことのない社会の創造に向けて、地域で支え合う担い手としての役割、住民主体の考え方を深める。	テキスト、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、アドボカシー、ボランティアコーディネーター、ソーシャルサポートネットワーク、パートナーシップの項目について通読しておくこと。(30分程度)	大森 俊也
13	「地域福祉」の理解 ④ 地域で起こっている様々な課題の中から児童虐待と危機介入を取り上げ、地域と児童相談所の役割を知る。	テキストP124～P129の子どもと地域福祉を熟読しておくこと。(30分程度)	大森 俊也
14	「地域福祉」の理解 ⑤ 地域福祉の推進主体としての民生・児童委員の活動と子供の貧困について学ぶ。	前4回の講義をもとに、地域福祉の必要性について脈絡を整理して、講義に臨むこと。 テキストP100～P103、P124～P131を通読しておくこと。(30分程度)	大森 俊也
15	「地域福祉」の理解 ⑥ 地域福祉計画の実際として仙台市地域福祉計画、地域福祉活動計画から地域福祉のアプローチ、地区社協活動とともに福祉教育の必要性に気づく。	テキスト地域福祉政策P142～P151を熟読して講義に臨み、これまで学んだ地域福祉の課題を他人事でなく自分事だったらどうする？どうしたい？どうしてほしい？学びからの気づきや疑問点を整理して臨むこと。(30分程度)	大森 俊也
16	保健情報と保健統計、国家統計調査	『保健情報統計学』の1～17ページを読んで授業に臨むこと。(20分程度)	小野寺 健
17	保健情報と疫学(総論、方法論)、歯科疾患の指数(数量化と指数、様々な歯科保健指標)	『保健情報統計学』の18～70ページ(とりわけ、18～33ページ)を読んで授業に臨むこと。(20分程度)	小野寺 健
18	保健情報の分析手順(保健情報の収集、調査、母集団と標本抽出)	『保健情報統計学』の73～88ページを読んで授業に臨むこと。(20分程度)	小野寺 健
19	保健統計の方法(データの特性、記述統計、推定と信頼区間、保健情報の多変量解析)	『保健情報統計学』の89～113ページを読んで授業に臨むこと。(概ね20分程度)。次回授業時、保健統計に関する小テストを行う予定。(1時間程度の事前学修が必要)	小野寺 健
20	保健情報の分析演習(解析と検定の演習)	『保健情報統計学』の114～136ページを読んで授業に臨むこと。(20分程度)+小テスト	小野寺 健
教科書	『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『よくわかる地域福祉 第5版』上野谷加代子・松端克文・山縣文治編、ミネルヴァ書房 『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
参考文献			
備考	対面またはオンデマンド授業で実施する。小テスト課題は回収後、採点し、次回総括する。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-16				
	●									
科目名	衛生行政・社会福祉・社会保障				単位 認定者	園部 英俊		評価 の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	40 時間			
				授業形態	講義	授業回数	20 回			
授業の概要	保健、医療、福祉の制度と医事法制を学び、衛生行政の仕組みや保健医療、さらに福祉関係の法規について理解する。また、社会福祉や社会保険制度における医療保障の諸対応について理解する。									
到達目標	今日の保健医療、社会保険、社会保険そして社会福祉に関する行政は、社会保障制度にもとづいて行われている。社会保障制度の沿革・体系を知り、私たちの生活とのつながりについて理解する。また、歯科衛生士が仕事を行ううえで必要な歯科衛生士法をはじめ関連する法律について熟知するとともに、法にもとづいて業務ができ、社会人としての責務をしっかりと果たすことができるように関連する法律や諸制度の内容などについて理解する。									
学修者への期待等	欠席をせず、意欲的に臨むこと。新聞やテレビなどで報じられる社会保障関係のニュースに関心を持ってほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	わが国の医療制度と歯科衛生士① 医療法					教科書1章①②③までを熟読しておく(45分程度)				
2	わが国の医療制度と歯科衛生士② 歯科医師法(医師法)					教科書1章④を熟読しておく(45分程度)				
3	わが国の医療制度と歯科衛生士③ 歯科衛生士法(1)					教科書1章⑤を熟読しておく(45分程度)				
4	わが国の医療制度と歯科衛生士④ 歯科衛生士法(2)、歯科技工士法					教科書1章⑤⑥を熟読しておく(45分程度)				
5	医療関係職種① 歯科医療とかかわる医療関係者、保健師助産師看護師法					教科書2章①②を熟読しておく(45分程度)				
6	医療関係職種② 臨床検査技師に関する法律、診療放射線技師法、言語聴覚士法、薬剤師法、その他の関係職種に係る法律					教科書2章③④⑤⑥⑦を熟読しておく(45分程度)				
7	その他の関係法規① 地域包括ケアシステム、地域保健に関する法律					教科書3章①,②1.2.を熟読しておく(45分程度)				
8	その他の関係法規② 母子保健法、学校保健安全法					教科書3章②3. 4.を熟読しておく(45分程度)				
9	その他の関係法規③ 労働安全法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、歯科保健の推進に関する法律					教科書3章②5. 6.③を熟読しておく(45分程度)				
10	その他の関係法規④ 薬事に関する法律					教科書3章④を熟読しておく(45分程度)				
11	その他の関係法規⑤ その他の衛生法規					教科書3章⑤を熟読しておく(45分程度)				
12	社会保障① 社会保障とは					教科書4章①を熟読しておく(45分程度)				
13	社会保障② 1.医療保険					教科書4章②1.を熟読しておく(45分程度)				
14	社会保障③ 2.介護保険					教科書4章②2.を熟読しておく(45分程度)				
15	社会保障④ 3.年金保険、4.労働法規と労働保険					教科書4章②3.,4.を熟読しておく(45分程度)				

回	授業計画	準備学修
16	社会福祉① 社会福祉行政、生活保護と法規	教科書4章③1.,2.を熟読しておく(45分程度)
17	社会福祉② 児童と家庭の福祉制度と法律	教科書4章③3.を熟読しておく(45分程度)
18	社会福祉③ 障害者の福祉制度と法律、高齢者の福祉制度と法律	教科書4章③4.5.を熟読しておく(45分程度)
19	医療の動向① 国民の健康状態と受療状況、医療施設	教科書5章①②③を熟読しておく(45分程度)
20	医療の動向② 国民医療費	教科書5章④を熟読しておく(45分程度)
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社	
参考文献	『公衆衛生がみえる2024-2025』MEDIC MEDIA 『図説 国民衛生の動向2024/2025』、『国民の福祉と介護の動向2024/2025』 厚生労働統計協会	
備考	進捗状況により順番が前後される場合がある。また、関連する内容について教科書以外の講義も適宜行う。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

歯科医師でありかつ仙台市役所本庁及び区役所保健所・保健福祉センターにて保健・医療・福祉行政に22年間従事した経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHC-04				
	●									
科目名	歯周療法学				単位認定者	梶川 哲宏		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	歯周疾患が全身状態に影響することが明らかとなり、超高齢社会を迎え、歯周疾患の治療と予防のニーズはますます高まっている。歯科衛生士として治療と予防に積極的に参加介入するために、歯周疾患と歯周療法に関する基礎知識及び診療補助を行うために必要な基礎知識を修得する。									
到達目標	歯周疾患の分類及びプラークを主とする歯周疾患の原因について理解する。次に歯周疾患の診査法を学び、プラーク付着状態の診査、歯周ポケット測定、歯の動揺度の測定、X線写真読影、その他の診査を理解する。さらに歯周治療の流れ、歯周基本治療および歯周外科治療について内容を理解するとともに、歯科衛生士の果たす役割についても理解する。									
学修者への期待等	事前にテキストを熟読してくること。									
回	授業計画					準備学修				
1	歯周疾患の基礎知識Ⅰ 歯周病の概要を学ぶ。					教科書基礎編第1章「歯周病を理解するために」、臨床編第7章1.「歯周病の予防」を予習して来ること。(30分程度)				
2	歯周疾患の基礎知識Ⅱ 歯周組織の構造と機能を学ぶ。					教科書基礎編第2章「歯周組織の解剖・組織」、基礎編第3章「歯周組織の生理」を予習して来ること。(30分程度)				
3	歯周疾患の基礎知識Ⅲ 歯肉炎と歯周炎・その他の歯周疾患を理解する。					教科書基礎編第4章「歯周病の病理」、臨床編第4章「歯周病の分類と臨床的特徴ならびに対応」を予習して来ること。(30分程度)				
4	歯周疾患の基礎知識Ⅳ 歯周疾患の原因を学ぶ。					教科書臨床編第2章「歯周病のリスクファクター」を予習して来ること。(30分程度)				
5	歯周治療の実際Ⅰ 歯周治療の進め方と歯周疾患の診査(一般診査、歯周組織破壊の程度の診査、原因となる因子の診査)を学ぶ。					教科書臨床編第6章「歯周病の診察、検査、診断(疫学的指数の項目以外)」を予習して来て下さい。第6回も同内容をさらに学びます。(30分程度)				
6	歯周治療の実際Ⅱ 歯周疾患の診査(咬合の診査、画像診断、その他の診査)を学ぶ。					第5回に引き続き、教科書臨床編第6章「歯周病の診察、検査、診断(疫学的指数の項目以外)」を予習して来て下さい。(30分程度)				
7	歯周治療の実際Ⅳ 歯周基本治療とは何か? 目的と効果、基本治療の内容と実際について学ぶ。					教科書臨床編第8章「歯周基本治療②プラークコントロール」を予習して来て下さい。(30分程度)				
8	歯周治療の実際Ⅴ スケーリング・ルートプレーニングについて学ぶ。					教科書臨床編第8章「歯周基本治療③スケーリング・ルートプレーニング ⑤暫間固定 ⑥当面の咬合確保 ⑦咬合調整 ⑨習癖の改善」を予習して来て下さい。(30分程度)				
9	歯周治療の実際Ⅵ 歯周外科① 歯周外科治療の目的、分類について学ぶ。					教科書臨床編第10章「歯周外科治療 1. 総論 2. 各論 ②組織付着療法 ④切除療法」を予習して来て下さい。(30分程度)				
10	歯周治療の実際Ⅵ 歯周外科② 主な歯周外科手術の適応・術式について学ぶ。					教科書臨床編第10章「歯周外科治療 2. 各論 ③歯周組織再生療法」を予習して来て下さい。(30分程度)				
11	歯周治療の実際Ⅵ 歯周外科③ 歯周外科治療における準備、介助について学ぶ。					教科書臨床編第10章「歯周外科治療 2. 各論 ①歯周外科治療器具 ⑤歯周形成手術」を予習して来て下さい。(30分程度)				
12	歯周治療の実際Ⅵ 歯周外科④ 根分岐部病変、歯周―歯肉病変について学ぶ。					教科書臨床編第11章「根分岐部病変の処置」、臨床編第4章⑤「歯周―歯肉病変」を予習して来て下さい。(30分程度)				
13	歯周治療の実際Ⅶ 歯周治療としての口腔機能回復治療について学ぶ。					教科書臨床編第12章「口腔機能回復治療」、臨床編第13章「インプラント治療と周囲疾患」を予習して来て下さい。(30分程度)				
14	歯周治療の実際Ⅷ メンテナンスの重要性、時期、内容について学ぶ。					教科書臨床編第16章「メンテナンスとSPT」を予習して来て下さい。(30分程度)				
15	疫学とペリオドンタルメディシンについて学ぶ。					教科書臨床編第6章「疫学的指数」、臨床編第5章「ペリオドンタルメディシン」を予習して来て下さい。(30分程度)				
教科書	『歯科衛生士講座 歯周病学』沼部幸博・齋藤淳・梅田誠編集主幹 株式会社永末書店									
参考文献	『歯科衛生学シリーズ 歯周病学』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社									
備考	講義の出席率が評価に反映される。 授業は対面または遠隔(オンデマンド)の場合もある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

歯科医師として特に歯周病に着目し、様々な症例を経験してきた。その実務経験を活かし、歯周療法学に関する具体的な授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHC-05				
	●									
科目名	歯科補綴学				単位認定者	依田 信裕		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	歯科補綴治療とは、歯の欠損やそれに伴う周囲組織の変化を、人工材料で修復して、形態・諸機能を回復させ、さらに歯の喪失などにより二次的に生じる障害を予防するものである。本科目では、歯科補綴学の概要を理解する上で必要な基礎的事項を理解し、次いで種々の歯科補綴物についての理解を深める。									
到達目標	歯科補綴学、補綴歯科診療に際して歯科衛生士に求められる必要最少限の知識を修得する。									
学修者への期待等	超高齢社会の現在、歯の喪失による咀嚼障害についての認識が高まり、特に有床義歯などの歯科補綴治療に対する関心が高まっている。歯科衛生士にはこれらのニーズに応じた歯科補綴治療を行う上での適切な知識が必要とされる。そのために、教科書等による予習・復習を十分に行うことを望む。									
回	授業計画					準備学習				
1	歯科補綴学概論：意義と目的（歯科補綴治療とはどんな事をするのか、歯科治療全体における歯科補綴治療の役割。（歯科治療と医科治療の違い、歯科治療と社会生活とのかかわり））					予習として教科書の序章「咀嚼障害・咬合異常に対する歯科補綴」、および1章「歯科補綴の概要」を読んでおいて下さい。（1時間程度）				
2	歯科補綴治療の基礎事項：歯列弓の形態とその対合関係：歯列弓、咬合彎曲、咬合平面、対合関係、歯科補綴治療で重要な基準平面					歯科補綴治療の最も基礎知識を学びます。覚えることが多いので、予習・復習して十分理解して下さい。（1時間程度）				
3	補綴歯科治療における検査・診断：医療面接と診察、画像検査、咬合と顎口腔機能の検査					歯科補綴によりどのように機能が回復しうるかは、なぜ補綴治療が必要なのか患者さんに説明する上で重要な事項ですので十分理解してください。（1時間程度）				
4	クラウン・ブリッジ①：クラウン治療の概要、ブリッジ治療の概要、CAD/CAMクラウン治療概要					クラウン・ブリッジは日常臨床において頻度の高い重要な治療の一つです。ここでは基本知識を中心に予習しましょう。（1時間程度）				
5	クラウン・ブリッジ②：クラウン・ブリッジ治療の流れと診療の補助					クラウン・ブリッジ治療の流れ、各治療段階において準備する器材を覚えることは歯科衛生士業務として重要です。（1時間程度）				
6	クラウン・ブリッジ③：クラウン・ブリッジ治療の流れと診療の補助、クラウン・ブリッジ治療に伴うトラブルとその対応					クラウン・ブリッジ治療の流れと診療の補助、クラウン・ブリッジ治療に伴うトラブルとその対応は臨床において重要です。教科書の該当箇所を予習してください。（1時間程度）				
7	全部床義歯①：全部床義歯治療の概要、全部床義歯治療の流れと診療の補助					全部床義歯は、歯科補綴学において「咬合」を学ぶ上で大切な事項が多く存在します。まずは基本知識・治療の流れについて予習しましょう。（1時間程度）				
8	全部床義歯②：全部床義歯の装着、患者への説明と指導、全部床義歯治療に伴うトラブルとその対応					全部床義歯装着後はしっかりとメンテナンスすることが重要です。患者への説明と指導、全部床義歯治療に伴うトラブルとその対応について予習してください。（1時間程度）				
9	部分床義歯①：部分床義歯治療の概要、部分床義歯治療の流れと診療の補助					部分床義歯治療は、適用範囲が広く、高頻度治療です。治療の流れは複雑ですので十分に教科書を予習してください。（1時間程度）				
10	部分床義歯②：部分床義歯の装着、患者への説明と指導、部分床義歯治療に伴うトラブルとその対応					部分床義歯装着後もメンテナンスが重要です。また、治療後のトラブルとその対応も複雑ですので、しっかりと予習してください。（1時間程度）				
11	インプラント①：インプラント治療の概要、インプラント治療の流れと診療の補助					インプラント治療は補綴治療の一選択肢として確立された方法です。その概要や治療の流れについて教科書をしっかりと予習してください。（1時間程度）				
12	インプラント②：インプラント治療の流れと診療の補助、上下無歯顎症例に対するインプラント治療、インプラント治療に伴うトラブルとその対応					インプラント治療は様々な欠損形態に応用可能です。また、高額治療でもあるので、治療後のトラブル対応は他の治療に比較して重要度が高いです。良く予習しましょう。（1時間程度）				
13	インプラント③：インプラントのメンテナンス、天然歯との相違、使用すべき器財、症例供覧					インプラント治療後のメンテナンスは歯科衛生士として重要な業務の一つです。生物学的な基礎知識をしっかりと予習してください。（1時間程度）				
14	特殊な口腔内装置を用いる治療：顎顔面補綴治療、構音・嚥下機能の補助治療、顎関節と歯ぎしりの治療、スポーツ外傷の予防、睡眠時無呼吸症候群の歯科治療					これまで学んだ補綴装置以外にも、多くの補綴装置が存在します。ここでは様々な補綴装置の基礎を学びますので、教科書の該当箇所を事前に予習して下さい。（1時間程度）				
15	器材の管理：感染予防策、滅菌、消毒、洗浄、保管 歯科補綴学のまとめ：国家試験問題の傾向と対策					感染予防対策は全ての診療の基本ですので、復習し十分に理解してください。また、国家試験の動向を踏まえ、歯科補綴をまとめます。				
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献										
備考	講義は対面授業にて行う。状況により遠隔授業（録画またはZOOM等使用）の可能性もある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

歯科医師として様々な症例を経験してきた。その実務経験を活かし、補綴歯科治療全般に関わる知識や技術に関して、実臨床に則した具体的な授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHC-06				
	●									
科目名	口腔外科学				単位 認定者	岩永賢二郎 千葉高大 花渕静		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	口腔・顎顔面領域における各種疾患及び口腔に関連した全身疾患について、基本的な知識を学修し、患者の全身状態を考慮した歯科治療を介助する上で必要な知識を理解する。また、口腔外科学診療に際して求められる知識の修得を目標とする。									
到達目標	口腔外科学の診療補助の能力を修得する。ただし各項目については、診察補助の範囲を考慮する。									
学修者への期待等	あらかじめ教科書を熟読し、質問事項を用意して授業に臨む。私語、居眠りを慎む、疑問点は積極的に質問する。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	Ⅰ編 1章 口腔外科の概要					【事前】教科書の「Ⅰ編 1章 口腔外科の概要」を通読しておくこと(約30分)			岩永 賢二郎	
2	Ⅰ編 2章 先天異常と発育異常／口腔外科手術の実際					【事前】教科書の「Ⅰ編 2章 先天異常と発育異常」を通読しておくこと(約30分)			岩永 賢二郎	
3	Ⅰ編 3章 損傷					【事前】教科書の「Ⅰ編 3章 損傷」を通読しておくこと(約30分)			岩永 賢二郎	
4	Ⅰ編 4章 口腔粘膜疾患					【事前】教科書の「Ⅰ編 4章 口腔粘膜疾患」を通読しておくこと(約30分)			千葉 高大	
5	Ⅰ編 5章 炎症					【事前】教科書の「Ⅰ編 5章 炎症」を通読しておくこと(約30分)			千葉 高大	
6	Ⅰ編 6章 嚢胞／口腔外科手術(嚢胞摘出術・嚢胞開窓術)の実際					【事前】教科書の「Ⅰ編 6章 嚢胞」を通読しておくこと(約30分)			岩永 賢二郎	
7	Ⅰ編 7章 腫瘍および腫瘍類似疾患／8章 顎関節疾患 口腔外科手術の実際					【事前】教科書の「Ⅰ編 7章腫瘍および腫瘍類似疾患／8章顎関節疾患」を通読しておくこと(約40分)			岩永 賢二郎	
8	Ⅰ編 9章 唾液腺疾患／口腔外科手術((唾石摘出術など)の実際					【事前】教科書の「Ⅰ編 9章 唾液腺疾患」を通読しておくこと(約40分)			千葉 高大	
9	Ⅰ編 10章 神経系疾患／11章 血液疾患					【事前】教科書の「Ⅰ編10章 神経系疾患 11章血液疾患」を通読しておくこと(約40分)			千葉 高大	
10	Ⅲ編 2章 局所麻酔／4章 全身麻酔／5章 緊急時の対応					【事前】教科書の「Ⅱ編1章～2章歯科治療における歯科麻酔と患者管理、2章局所麻酔、4章全身麻酔」を通読しておくこと(約40分)			岩永 賢二郎	
11	Ⅳ編 歯科衛生士が担う周術期の口腔機能管理					【事前】教科書の「Ⅳ編1章 周術期における口腔健康管理／2章周術期における口腔健康管理の実際」を通読しておくこと(約40分)			千葉 高大	
12	Ⅰ編 12章口腔心身症／Ⅲ編 3章 精神鎮静法					【事前】教科書の「Ⅰ編 12章 口腔心身症／Ⅲ編 3章 精神鎮静法」を通読しておくこと(約40分)			花渕 静	
13	Ⅱ編 5章 口腔外科手術の準備					【事前】教科書の「Ⅱ編3章口腔外科手術の準備／ 歯科機器教科書 ⑬口腔外科用機器」を通読しておくこと(約40分)			花渕 静	
14	口腔外科器材の取り扱い(抜歯器材の選択、浸潤麻酔器材の取り扱い、縫合器材の取り扱い)演習①					【事前】歯科機器教科書の「4章 口腔外科用機器」／口腔外科教科書「Ⅲ編2章 局所麻酔」を通読しておくこと(約40分)			花渕 静	
15	口腔外科器材の取り扱い(抜歯器材の選択、浸潤麻酔器材の取り扱い、縫合器材の取り扱い)演習②								花渕 静	
教科書	『歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学』／『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論』／『歯科衛生学シリーズ 歯科機器』／『歯科衛生学シリーズ 歯科材料』 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献										
備考	シラバス1回～13回合同授業、シラバス14・15回続けてクラス別演習									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

【岩永】口腔外科専門医として10年以上、様々な口腔外科症例を経験してきた。また東北大学病院や、仙台オープン病院では多職種や、歯科衛生士と連携して様々な周術期患者症例を経験してきた。その実務経験を活かし、口腔外科学の様々な疾患、診断、治療方法、歯科衛生士の役割等に関して具体的な授業を展開する。

【千葉】歯科医師として10年以上臨床に携わり、これまで病院歯科口腔外科や大学病院の口腔外科、さらには一般開業歯科医院や病院歯科にて様々な症例を経験してきた。その今までの実務経験を活かし、口腔外科全般や周術期等口腔機能管理に関して具体的な症例を提示しながら授業をすすめていく。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHC-07				
	●									
科目名	歯科矯正学				単位 認定者	木村 祥也		評価の 方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	頭部・顎・顔面部の成長発育とそれに伴って生じる歯列の変化を知り、その発育を阻害する因子を早期に取り除くことが不正咬合の予防につながることを理解する。不正咬合と実際の矯正治療の関連づけができるように基礎的な知識を修得することを目的とするとともに、歯科矯正学の基礎を学び、歯科矯正に関する診療補助の方法を学ぶ。									
到達目標	歯科矯正学の基礎を学び、歯科矯正に関する診療補助の能力を修得する。									
学修者への期待等	事前に教科書の該当箇所を読んでおき、授業の理解を深めることが望ましい。授業中に生じた疑問点等は質問するなど、学修への積極的な取り組みを期待する。									
回	授業計画				準備学修					
1	矯正歯科学概論 矯正歯科学とは何か？ 矯正治療の歴史と必要性について				教科書 I 編1章矯正歯科治療の概要を各自読んで授業に臨んでください。(30分程度)					
2	成長・発育 頭部・顎・顔面および歯・歯列の成長発育について				教科書 I 編2章成長発育を各自読んで授業に臨んでください。(30分程度)					
3	咬合① 正常咬合と不正咬合、不正咬合の種類について				教科書 I 編3章正常咬合と不正咬合、不正咬合の種類を各自読んで授業に臨んでください。(30分程度)					
4	咬合② 不正咬合の原因と予防法について				教科書 I 編3章不正咬合の原因と予防法を各自読んで授業に臨んでください。(30分程度)					
5	矯正歯科診断① 矯正歯科診断に必要な検査				教科書 I 編4章矯正歯科診断を各自読んで授業に臨んでください。(30分程度)					
6	矯正歯科診断② 症例分析-非抜歯治療と抜歯治療				教科書 I 編4章症例分析-非抜歯治療と抜歯治療を各自読んで授業に臨んでください。(30分程度)					
7	矯正歯科治療と“力”-矯正力・顎整形力・保定矯正力の種類と歯の移動様式について				教科書 I 編5章矯正歯科治療と“力”-矯正力・顎整形力・保定を各自読んで授業に臨んでください。(30分程度)					
8	矯正装置① 矯正装置の種類と用途について（可撤式矯正装置と固定式矯正装置）				教科書 I 編6章可撤式矯正装置と固定式矯正装置を各自読んで授業に臨んでください。(30分程度)					
9	矯正装置② 矯正装置の種類と用途について（機能的矯正装置～保定装置）				教科書 I 編6章機能的矯正装置～保定装置を各自読んで授業に臨んでください。(30分程度)					
10	歯科矯正治療の実際① 上下顎の前後、垂直的不調和と小児～成人の矯正歯科治療				教科書 II 編上下顎の前後、垂直的不調和と小児～成人の矯正歯科治療を各自読んで授業に臨んでください。(30分程度)					
11	歯科矯正治療の実際② 口腔顎顔面の形成異常と歯の埋伏、歯数の異常				教科書 II 編口腔顎顔面の形成異常と歯の埋伏、歯数の異常を各自読んで授業に臨んでください。(30分程度)					
12	歯科矯正臨床における歯科衛生士の役割① 歯科矯正臨床における歯科衛生士の業務				教科書 III編1章歯科矯正臨床における歯科衛生士の業務、2章矯正歯科診療時の業務を各自読んで授業に臨んでください。(30分程度)					
13	歯科矯正臨床における歯科衛生士の役割② 口腔保健管理と口腔筋機能療法				教科書 III編3章口腔保健管理と口腔筋機能療法を各自読んで授業に臨んでください。(30分程度)					
14	復習① 衛生士国家試験問題を参考にした授業内容の復習(成長発育、不正咬合の種類、矯正力)				授業後、よく復習してください。					
15	復習② 衛生士国家試験問題を参考にした授業内容の復習(矯正装置、器具と材料)				授業後、よく復習してください。					
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献										
備考	模範解答の配布、正解率の低い問題の説明を配布。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHC-08				
	●									
科目名	小児歯科学				単位認定者	丸谷 由里子		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	口腔疾患の発病、進行時期として重要な小児期における歯科衛生士の役割を理解するとともに、臨床の場で対応できるような能力の基礎を総合的に学ぶ。小児の心身の発達に伴う基本的知識や、小児の歯科疾患、予防法、診療補助等についての知識を習得する。									
到達目標	口腔疾患の発病、進行時期として重要な小児期における歯科衛生士としての役割を理解する。 小児期の歯科医療について総合的に学ぶ。									
学修者への期待等	講義前後の該当箇所について、教科書による予習復習を行うこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	小児歯科概論 小児歯科診療と歯科衛生士の役割について					教科書Ⅰ編1章小児歯科学概論、Ⅱ編3章小児歯科における診療体系①②を予習(30分程度)				
2	心身の発育Ⅰ 発達の概念と分類、発育の評価、生理的年齢、器官の発育、精神的発達					教科書Ⅰ編2章心身の発育を予習(30分程度)				
3	心身の発育Ⅱ 小児の生理的特徴 顔面頭蓋の発育 顔面頭蓋の発育、顎の発育とその評価					教科書Ⅰ編3章小児の生理的特徴、4章顔面頭蓋の発育を予習(30分程度)				
4	歯の発育とその異常					教科書Ⅰ編5章歯の発育とその異常を予習(30分程度)				
5	歯列・咬合の発育と異常					教科書Ⅰ編6章歯列・咬合の発育と異常を予習(30分程度)				
6	小児の歯科疾患 う蝕					教科書Ⅰ編7章①小児にみられるう蝕を予習(30分程度)				
7	小児の歯科疾患 歯周疾患、口腔軟組織の異常					教科書Ⅰ編7章②小児にみられる歯周疾患、③小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患を予習(30分程度)				
8	小児期の特徴と歯科の問題点					教科書Ⅰ編8章小児虐待、Ⅱ編1章小児期の特徴と歯科的問題点を予習(30分程度)				
9	小児歯科診療体系					教科書Ⅱ編3章小児歯科における診療体系③④、7章歯科診療室と器材の管理(30分程度)				
10	患児の対応法Ⅰ 年齢別の小児の行動とその対応、不協力的小児の対応法					教科書Ⅱ編2章小児歯科における患者との対応法を予習(30分程度)				
11	患児の対応法Ⅱ 障害児の歯科治療					教科書Ⅱ編4章障害児の歯科治療を予習(概ね30分程度)				
12	う蝕予防					教科書Ⅱ編5章う蝕予防、6章小児の口腔健康管理を予習(30分程度)				
13	診療補助 歯冠修復					教科書Ⅱ編3章⑤⑥小児の麻酔、歯冠修復を予習(30分程度)				
14	診療補助 乳歯歯内療法					教科書Ⅱ編3章⑦小児の歯内療法を予習(30分程度)				
15	診療補助 外傷、抜歯、咬合誘導、リコールについて					教科書Ⅱ編3章⑧小児の外科的処置 ⑨外傷 ⑩咬合誘導を予習(30分程度)				
教科書	『歯科衛生学シリーズ 小児歯科学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHC-09				
	●									
科目名	高齢者口腔保健学				単位認定者	猪狩 洋平		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	高齢者は、顎口腔機能はもとより身体的機能も低下していることが多く、全身疾患を有し、身体状況に個人差が大きいなどの特徴を有するため、それを踏まえた対応が必要となる。本科目では、高齢者について理解し、高齢者における口腔保健の基礎を学ぶ。									
到達目標	高齢者の特性や社会的背景について理解し、高齢者に対して適切な口腔保健指導、歯科診療補助を行う際に必要な知識を修得する。									
学修者への期待等	授業計画に相当する教科書の単元を熟読し、授業に挑むこと。 配布資料と教科書の内容をよく理解すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	高齢者をとりまく社会と環境①高齢社会と健康②高齢者にかかわる法制度 高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴					予習として、教科書のⅠ編 高齢者をとりまく社会と環境を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）				
2	加齢による身体的・精神的変化と疾患①加齢に伴う身体的機能の変化②高齢者の精神・心理的变化 高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患（主たる死因となる疾患）					予習として、教科書のⅡ編 加齢による身体的・精神的変化と疾患を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）				
3	加齢による身体的・精神的変化と疾患③高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患（高齢者に特有な口腔の疾患）					前回までの復習をして授業に臨むこと。（1時間程度）				
4	高齢者の状態の把握①高齢者の生活機能の評価 高齢者歯科と臨床検査②高齢者の栄養状態、高齢者の薬剤服用					予習として、教科書のⅢ編 高齢者の状態の把握を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）				
5	口腔のケア①高齢者に対する口腔のケア、有病高齢者への口腔のケア					予習として、教科書のⅣ編 口腔のケアを読んで授業に臨むこと。（1時間程度）				
6	口腔のケア②要介護高齢者への口腔のケア					前回までの復習をして授業に臨むこと。（1時間程度）				
7	摂食・嚥下リハビリテーション①高齢者のリハビリテーションの概要、摂食・嚥下の評価と対応 ②誤嚥性肺炎予防のための訓練					予習として、教科書のⅤ編 嚥下・摂食リハビリテーションを読んで授業に臨むこと。（1時間程度）				
8	摂食・嚥下リハビリテーション③在宅訪問歯科診療における摂食・嚥下リハビリテーション、介護施設における摂食・嚥下リハビリテーション					前回までの復習をして授業に臨むこと。（1時間程度）				
9	高齢者に関わる医療と介護①在宅訪問診療の概要、歯科衛生士が関わる公的介護保険の概要 ②かかりつけ歯科の役割、訪問看護と歯科の役割					予習として、教科書のⅥ編 高齢者に関わる医療と介護を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）				
10	高齢者歯科における歯科衛生過程 歯科衛生過程の概要					予習として、教科書のⅦ編 高齢者歯科における歯科衛生過程を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）				
教科書	『歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献										
備考	準備学修課題についてはプリントを使用し、授業内で解説する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

大学病院高齢者歯科系の医局に所属する歯科医師として、様々な症例を経験してきた。その実務経験を活かし、高齢者に対する歯科医療および高齢者を取り巻く環境に関して具体的な授業を展開する。

						科目ナンバリング				
						DH-2-DHC-10				
学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力					
	●									
科目名	障害者口腔保健学				単位 認定者	星 久美		評価の方法	試験（筆記）	90 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業時間数	20 時間			
						授業回数	10 回			
授業の概要	身体的、知的あるいは精神的な障害のある人を対象とした口腔保健管理のあり方を学ぶ。障害者の歯科治療では治療や指導及び患者管理に特別の配慮を必要とする。その際に必要な身体的、知的及び精神的特徴と特有の口腔機能障害について学ぶ。そして社会の一員である障害者の生活を知り、障害者の歯科医療について総合的に学修する。									
到達目標	①障害児・者の身体的、知的および精神の特徴と歯科の特徴を理解し、歯科保健医療の留意点を説明できる。 ②障害児・者の摂食・嚥下障害とリハビリテーションについて説明できる。									
学修者への期待等	各専門分野で学んだ知識を展開していく科目であるため、各回の授業内容に関連する既習他科目の学修項目を復習した上で授業を受講することを望む。									
回	授業計画					準備学修				
1	障害の概念及び地域における障害者歯科					教科書 第1章 障害の概念、第7章 地域における障害者歯科を事前に自学自習すること。（1時間程度）				
2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患Ⅰ 精神発達・心理的発達と行動障害・運動障害（神経・筋系疾患）					教科書 第2章 歯科医療で特別な支援が必要な疾患を事前に自学自習すること。（1時間程度）				
3	歯科医療で特別な支援が必要な疾患Ⅱ 感覚障害・音声言語障害・精神および行動の障害					前回までの復習をして授業に臨むこと。（1時間程度）				
4	歯科医療で特別な支援が必要な疾患Ⅲ 脳神経障害・口腔内に特徴のある疾患					前回までの復習をして授業に臨むこと。（1時間程度）				
5	障害者の歯科医療と行動調整 コミュニケーションの方法及び行動療法（行動変容法）					教科書 第3章 障害者の歯科医療と行動調整を事前に自学自習すること。（2時間程度）				
6	障害者の歯科医療と行動調整 コミュニケーションの方法及び行動療法（行動変容法） 体動のコントロール					前回までの復習をして授業に臨むこと。（1時間程度）				
7	障害者の歯科医療と行動調整 薬物的行動調整 障害者歯科における歯科衛生過程 リスク評価と安全管理					前回の復習及び教科書 第5章 リスク評価と安全管理を事前に自学自習すること。（1時間程度）				
8	健康支援と口腔衛生管理 介助者が行う口腔のケアへの支援、専門的口腔ケア 特別な配慮が必要な患者への口腔衛生管理					教科書 第4章 健康支援と口腔衛生管理、第8章 障害歯科における歯科衛生過程を事前に自学自習すること。（1時間程度）				
9	障害児・者の摂食・嚥下リハビリテーション 摂食・嚥下障害と口腔管理、栄養管理、評価法					教科書 第6章 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割を事前に自学自習すること。（1時間程度）				
10	障害児・者の摂食・嚥下リハビリテーション 摂食機能療法、小児期の摂食・嚥下障害への対処法					前回までの復習をして授業に臨むこと。（1時間程度）				
教科書	『最新 歯科衛生士教本 障害者歯科 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 第2版』日本障害者歯科学会編、医歯薬出版株式会社 『小児の摂食嚥下リハビリテーション 第2版』田角勝・向井美恵編著、医歯薬出版株式会社									
備考	授業は対面または遠隔（オンデマンド）で実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

障がい者歯科治療に従事し、歯科医師として様々な症例を経験してきた。その実務経験を活かし、障害者口腔保健学に関して具体的な授業を展開する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング DH-2-DHC-11				
	●									
科目名	歯科放射線学				単位 認定者	飯久保 正弘		評価 の方法	試験（筆記）	90 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	10 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	エックス線の性質を理解し、歯科医療における正しいエックス線の利用法と歯科衛生士が果たす役割を認識する。エックス線診断の基本を学び、基本的な病態診断の技術を習得するとともに、放射線の生理学的影響やエックス線の性質、撮影法について、理解を深める。									
到達目標	エックス線の性質を理解し、歯科医療における正しいエックス線の利用法と歯科衛生士が果たすべき役割を認識する。エックス線診断の基本を理解し、基本的な病態診断の技術を修得する。									
学修者への 期待等	欠席せずに意欲を持って臨み、予習・復習をしっかりと行ってほしい。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	エックス線の基礎知識（講義）身近な放射線、放射線の種類、エックス線の発生、エックス線の性質					予習として「放射線」という言葉の意味を調べておく(30分程度)。			飯久保正弘	
2	歯科用エックス線の装置と写真（講義）歯科用エックス線装置の基本構造と特殊性、エックス線写真の成立、写真処理					前回の内容を復習して授業に臨むこと(30分程度)			飯久保正弘	
3	放射線防護（講義）放射線被曝、放射線の生体に対する作用、組織の放射線感受性、放射線障害					予習として放射線が人体に与える影響を調べておく(30分程度)。			飯久保正弘	
4	歯科用エックス線撮影法(1)（講義）口内撮影法、歯科衛生士の役割					前回の内容を復習して授業に臨むこと(30分程度)			飯久保正弘	
5	エックス線写真の読み方（講義）口内法正常像、口内法病態像					前回の内容を復習して授業に臨むこと(30分程度)			飯久保正弘	
6	歯科用エックス線撮影法(2)（講義）口外法、パノラマ撮影法、歯科衛生士の役割					前回の内容を復習して授業に臨むこと(30分程度)			飯久保正弘	
7	エックス線写真の読み方（講義）パノラマ写真正常像、パノラマ写真病態像					前回の内容を復習して授業に臨むこと(30分程度)			飯久保正弘	
8	歯科用X線撮影法（講義・演習）口内法（上顎前歯）					予習としてインスタントフィルムの現像方法を調べておく(30分程度)			小野寺 健 西條 佳奈 伊藤明日香	
9	歯科用X線撮影法（講義・演習）口内法（上顎臼歯）					予習として自動現像機の使用方を調べておく(30分程度)			小野寺 健 西條 佳奈 伊藤明日香	
10	歯科用X線撮影法（講義・演習）口内法（下顎臼歯）					4～7回までの復習をして授業に臨むこと(30分程度)			小野寺 健 西條 佳奈 伊藤明日香	
11	歯科用X線撮影法（講義・演習）口翼法パノラマ					4～7回までの復習をして授業に臨むこと(30分程度)			小野寺 健 西條 佳奈 伊藤明日香	
12	歯科用X線撮影法（講義・演習）咬合法					4～7回までの復習をして授業に臨むこと(30分程度)			小野寺 健 西條 佳奈 伊藤明日香	
13	歯科用X線撮影法（講義・演習）パノラマ					4～7回までの復習をして授業に臨むこと(30分程度)			小野寺 健 西條 佳奈 伊藤明日香	
14	写真読影と放射線治療（講義）自分の写真を見てみよう 口腔領域の放射線治療法と放射線治療患者の口腔ケア					予習として自分の写真をよく見ておく(30分程度)。			飯久保正弘	
15	最新の画像診断（講義）CT、MRI、超音波 など								飯久保正弘	
教科書	『歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学 第3版』飯久保正弘ほか著、株式会社学建書院									
参考文献										
備考	8～13回は2クラスに分かれて実習室で授業を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング DH-2-DHP-02				
	●	●								
科目名	う蝕予防処置法（臨床基礎）				単位 認定者	鷲尾 純平 伊藤 恵美		評価 の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	演習	授業回数	10 回			
授業の概要	「歯科予防処置法」で学んだ知識や技術を踏まえ、専門教育分野と関連付けながら、う蝕の原因および食品とう蝕の誘発性を理解し、う蝕の予防法の基礎知識を修得する。また、う蝕予防処置業務における、フッ化物応用法、う蝕活動性試験等の目的を理解し、患者説明ができるようにする。									
到達目標	う蝕がどのようにできるのかを理解する。それらの基礎知識を踏まえて、様々なう蝕予防方法について理解し、個々人でできるもの、集団で行うものなど、う蝕予防に関する全体像を、技術とともに習熟する。									
学修者への期待等	①演習では身だしなみを整え、意欲的にのぞむこと。 ②提出物は、期日を守って提出すること。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	う蝕の基礎知識（う蝕はどのようにできるのか？）（合同講義）				テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。（30分程度）				鷲尾 純平	
2	う蝕の基礎知識（う蝕を予防するには？）（合同講義）				テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。（30分程度）				鷲尾 純平	
3	う蝕活動性試験（各種検査方法/具備すべき要件など）（合同講義）				テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。（30分程度）				鷲尾 純平	
4	う蝕活動性試験 演習①（クラス別演習）グループワーク				前回までの講義をよく復習したうえで、演習に臨むこと。（30分程度）				伊藤 恵美 武山 真奈美	
5	う蝕活動性試験 演習②（データの解釈）（クラス別演習）グループワーク				前回までの講義をよく復習したうえで、演習に臨むこと。（30分程度）				伊藤 恵美 武山 真奈美	
6	フッ化物（フッ化物とは？効果や使用方法など）（合同講義）				テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。（30分程度）				鷲尾 純平	
7	フッ化物（中毒など・洗口液の調整方法）（合同講義）				テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。（30分程度）				鷲尾 純平	
8	代用糖（代用糖とは？）（合同講義）				テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。（30分程度）				鷲尾 純平	
9	代用糖の効果（クラス別演習）グループワーク				前回までの講義をよく復習したうえで、演習に臨むこと。（30分程度）				鷲尾 純平 伊藤 恵美 武山 真奈美	
10	地域歯科保健とう蝕予防（合同講義）				テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。（30分程度）				鷲尾 純平	
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
備考	4・5回、9回は2クラスに分かれて演習を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

【鷺尾】歯科医師としての臨床経験、大学における教育経験を十分に有しており、その実務経験を活かし、う蝕予防及びその処置に関して具体的な授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-03				
	●	●								
科目名	歯周病予防法（臨床基礎）				単位 認定者	伊藤 恵美		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2 年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	「歯科予防処置法」で修得した知識と技術をもとに、歯周組織の健康像と病的変化を把握し、歯周病予防法の専門的な知識と技術および態度を修得する。その手技として各検査法、予防的歯石除去法、歯面研磨・歯面清掃の技術について、安全で適切な操作技術を模型上および相互実習で修得する。									
到達目標	歯周病予防法の基礎知識を理解し、基礎的な技術を修得する。									
学修者への期待等	1.身だしなみをきちんと整え、教科書等の忘れ物がないように授業に臨むこと。 2.欠席・欠課をしないよう意欲的に臨んでほしい。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	歯周治療における歯科衛生士の役割(歯周治療の流れ、PTC・PMTCの目的と実際)について相互実習説明(シラバス2～4回演習)				教本歯科予防処置論・歯科保健指導論P228「2. PTC、PMTC」について読んでおくこと。(45分程度)				伊藤 恵美	
2	歯周組織検査 歯石除去 相互演習(患者①) クラス別演習(ブローピング、PTC、染め出し、再PTC) グループワーク				前回の授業の復習をして臨むこと。1年次の「歯科予防処置法」の実習記録を読んで復習をしておくこと。(60分程度)				伊藤 恵美 武山真奈美 矢戸 敦子 北村 麻衣	
3	歯周組織検査 歯石除去 相互演習(患者②) クラス別演習(ブローピング、PTC、染め出し、再PTC) グループワーク								伊藤 恵美 武山真奈美 矢戸 敦子 北村 麻衣	
4	歯周組織検査 歯石除去 相互演習(患者③) クラス別演習(ブローピング、PTC、染め出し、再PTC) グループワーク								伊藤 恵美 武山真奈美 矢戸 敦子 北村 麻衣	
5	シックルタイプスケーラーの基本操作 マネキン演習 歯周組織検査、エキスポローリング、SC 相互実習説明(シラバス6～11回目) クラス別演習				1年次の「歯科予防処置法」のスケーリング実習記録をよく読んで復習をしておくこと。教本歯科予防処置論・歯科保健指導論Ⅲ編「1. 手用スケーラー」を読んでおくこと。(60分程度)				伊藤 恵美 武山真奈美 矢戸 敦子 北村 麻衣	
6	シックルタイプスケーラーの基本操作 相互演習1(前歯①)上下術者交代 クラス別演習(歯周組織検査、エキスポローリング、SC、歯面研磨) グループワーク				前回までの授業内容を復習しておくこと。感染対策について確認をしておくこと。(60分程度)				伊藤 恵美 武山真奈美 矢戸 敦子 北村 麻衣	
7	シックルタイプスケーラーの基本操作 相互演習1(前歯②)上下術者交代 クラス別演習(歯周組織検査、エキスポローリング、SC、歯面研磨) グループワーク								伊藤 恵美 武山真奈美 矢戸 敦子 北村 麻衣	
8	シックルタイプスケーラーの基本操作 相互演習1(前歯③)上下術者交代 クラス別演習(歯周組織検査、エキスポローリング、SC、歯面研磨) グループワーク								伊藤 恵美 武山真奈美 矢戸 敦子 北村 麻衣	
9	シックルタイプスケーラーの基本操作 相互演習1(左右臼歯6・7①)上下術者交代 クラス別演習(歯周組織検査、エキスポローリング、SC、歯面研磨) グループワーク								伊藤 恵美 武山真奈美 矢戸 敦子 北村 麻衣	
10	シックルタイプスケーラーの基本操作 相互演習1(左右臼歯6・7②)上下術者交代 クラス別演習(歯周組織検査、エキスポローリング、SC、歯面研磨) グループワーク								伊藤 恵美 武山真奈美 矢戸 敦子 北村 麻衣	
11	シックルタイプスケーラーの基本操作 相互演習1(左右臼歯6・7③)上下術者交代 クラス別演習(歯周組織検査、エキスポローリング、SC、歯面研磨) グループワーク								伊藤 恵美 武山真奈美 矢戸 敦子 北村 麻衣	
12	パワースケーラー(エアスケーラー)、歯面清掃器について クラス別演習				教本歯科予防処置論・歯科保健指導論Ⅲ編3章「エアスケーラー」を読んで、操作方法について復習をしておくこと。 教本歯科予防処置論・歯科保健指導論Ⅲ編3章「3. 歯面清掃器」についてよく読んでおくこと。(60分程度)				伊藤 恵美 武山真奈美 矢戸 敦子 北村 麻衣	
13	パワースケーラー(エアスケーラー)、歯面清掃器の基本操作について クラス別演習								伊藤 恵美 武山真奈美 矢戸 敦子 北村 麻衣	
14	パワースケーラー(エアスケーラーと超音波スケーラーの比較)、歯面清掃器の基本操作について クラス別演習								伊藤 恵美 武山真奈美 矢戸 敦子 北村 麻衣	
15	グレーシータイプキュレットの基本操作 講義 クラス別演習				教本歯科予防処置論・歯科保健指導論Ⅲ編3章「2. 手用スケーラー」3) スケーラーの種類と操作方法(2)キュレット型スケーラー」をよく読んでおくこと。(45分程度)				伊藤 恵美 武山真奈美 矢戸 敦子 北村 麻衣	

回	授業計画	準備学修	担当
16	グレーシータイプキュレットの基本操作 マネキン実習 (前歯)クラス別演習	シラバス15回の授業の実習記録をよく読んでおくこと。 教本歯科予防処置論・歯科保健指導論Ⅲ編3章「2. 手用ス ケーラー4) 部位別操作法」をよく読んでおくこと。(60分程度)	伊藤 恵美 武山真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
17	グレーシータイプキュレットの基本操作 マネキン実習 (下顎臼歯)クラス別演習		伊藤 恵美 武山真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
18	グレーシータイプキュレットの基本操作 マネキン実習 (上顎臼歯)クラス別演習		伊藤 恵美 武山真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
19	グレーシータイプキュレットの基本操作 マネキン実習 (全顎)クラス別演習 次回相互実習説明		伊藤 恵美 武山真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
20	グレーシータイプキュレットの基本操作 (相互演習① ②・マネキン実習③、相互演習②③・マネキン実習 ①) クラス別演習 グループワーク	前回の授業の復習をして臨むこと。(45分程度)	伊藤 恵美 武山真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
21	グレーシータイプキュレットの基本操作 (相互演習① ③、マネキン実習②、マネキン実習①②③) クラス別 演習 グループワーク 次回相互実習説明		伊藤 恵美 武山真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
22	グレーシータイプキュレットの基本操作 相互実習(前 歯)患者1人目 術者1班 上下術者交代 クラス別演 習 グループワーク	シラバス2～21回までの実習記録を振り返って実習に臨むこ と。(45分程度)	伊藤 恵美 武山真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
23	グレーシータイプキュレットの基本操作 相互実習(前 歯)患者2人目 術者2班 上下術者交代 クラス別演 習 グループワーク		伊藤 恵美 武山真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
24	グレーシータイプキュレットの基本操作 相互実習(前 歯)患者3人目 術者3班 上下術者交代 クラス別演 習 グループワーク		伊藤 恵美 武山真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
25	グレーシータイプキュレットの基本操作 相互実習(左 側臼歯)患者1人目 術者1班 上下術者交代 クラス 別演習 グループワーク		伊藤 恵美 武山真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
26	グレーシータイプキュレットの基本操作 相互実習(左 側臼歯)患者2人目 術者2班 上下術者交代 クラス 別演習 グループワーク		伊藤 恵美 武山真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
27	グレーシータイプキュレットの基本操作 相互実習(左 側臼歯)患者3人目 術者3班 上下術者交代 クラス 別演習 グループワーク		伊藤 恵美 武山真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
28	グレーシータイプキュレットの基本操作 相互実習(右 側臼歯)患者1人目 上下術者交代 クラス別演習 グループワーク		伊藤 恵美 武山真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
29	グレーシータイプキュレットの基本操作 相互実習(右 側臼歯)患者2人目 術者2班 上下術者交代 クラス 別演習 グループワーク		伊藤 恵美 武山真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
30	グレーシータイプキュレットの基本操作 相互実習(右 側臼歯)患者3人目 術者3班 上下術者交代 クラス 別演習 グループワーク		伊藤 恵美 武山真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
参考文献	『歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
備考	シラバス1回目は合同、2～30回目はクラス別で授業を行う。2～30回目は8階演習室。 授業の冒頭で目標を示し授業の最後にまとめを行う。実習レポート・課題は提出期限厳守。添削後、返却する。 授業の進捗状況により順番が前後することがある。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

歯科診療所で勤務経験のある教員が、歯周病予防法の専門的知識と技術を指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-08					
		●	●								
科目名	保健指導演習Ⅱ（臨床応用）				単位認定者	佐藤陽子 大宮由布子 伊藤明日香		評価の方法	試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	10 %	
						授業時間数	60 時間		授業内課題	10 %	
				授業形態	演習	授業回数	30 回				
授業の概要	各ライフステージにおけるプロフェッショナルケアの目標を理解し、臨床例をととして、対象者の問題解決に向けて対応できる能力を身につける。										
到達目標	歯科保健指導において歯科衛生士が使用するさまざまな口腔清掃用具の使用法を学ぶと共に基本的実技に習熟し、臨床の場に十分対応し得る能力を修得する。各ライフステージ別の口腔の問題点、生活背景を理解し、歯科衛生過程における指導計画の考察力を身につける										
学修者への期待等	1.欠席・欠課をしないよう意欲を持って授業に臨んで欲しい。 2.身だしなみをきちんと整え、教科書等忘れ物しないようにして欲しい。										
回	授業計画				準備学修				担当		
1	歯科衛生介入のための歯科保健指導				1年次に学修した内容を復習して授業に臨むこと。(30分程度)				佐藤 陽子		
2	ライフステージにおける歯科衛生介入 ④-1学齢期				Ⅳ編 対象別の歯科衛生介入 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入④学齢期P338～を読んでおくこと。(30分程度)				伊藤 明日香 佐藤 陽子		
3	ライフステージにおける歯科衛生介入 ⑤青年期 ⑥成人期				Ⅳ編 対象別の歯科衛生介入 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入⑤青年期P345～、⑥成人期P350～を読んでおくこと。(40分程度)				伊藤 明日香 佐藤 陽子		
4	ライフステージにおける歯科衛生介入 学童期・青年期・成人期 症例検討				前時の内容を復習すること。(30分程度)				佐藤 陽子 伊藤 明日香		
5	ライフステージにおける歯科衛生介入 ①-2妊産婦期 症例検討				Ⅳ編 対象別の歯科衛生介入 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入①妊産婦期P312～を読んでおくこと。(30分程度)				佐藤 陽子		
6	ライフステージにおける歯科衛生介入 ②-2新生児期・乳児期 症例検討				Ⅳ編 対象別の歯科衛生介入 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入 ②乳児期P320～を読んでおくこと。(30分程度)				佐藤 陽子		
7	ライフステージにおける歯科衛生介入 ③-1幼児期				Ⅳ編 対象別の歯科衛生介入 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入③幼児期P330～を読んでおくこと。(30分程度)				佐藤 陽子		
8	ライフステージにおける歯科衛生介入 ③-2幼児期 症例検討				前時の内容を復習すること。(30分程度)				佐藤 陽子		
9	口腔清掃補助用具検討実習Ⅰ (歯ブラシ、歯間ブラシの選択)				Ⅲ編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導P268～P280①口腔衛生管理に関わる指導を復習すること。(30分程度)				佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香		
10	口腔清掃補助用具検討実習Ⅱ (事例検討、口腔清掃用具の選択、TBI)				事前に配布された口腔清掃用具の特徴、使用感をまとめること。(60分程度)				佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香		
11	口腔衛生指導演習Ⅰ（PCR、100％術者磨き） 相互演習(1)/(術者1人目)				前時および1年次に学修した内容を復習し授業に臨むこと。(30分程度)				大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子		
12	口腔衛生指導演習Ⅰ（PCR、100％術者磨き） 相互演習(2)/(術者2人目)								大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子		
13	口腔衛生指導演習Ⅰ（PCR、100％術者磨き） 相互演習(3)/(術者3人目)								大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子		
14	口腔清掃補助用具検討実習Ⅲ (音波ブラシについて)				Ⅲ編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導P268～P280①口腔衛生管理に関わる指導を復習すること。(30分程度)				大宮 由布子 伊藤 明日香		
15	洗口液・洗口剤について				「歯科予防処置・歯科保健指導論」第Ⅲ編4章①口腔衛生管理に関わる指導 3. 洗口液・洗口剤を読んでおくこと。(20分程度)				大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香		

回	授業計画	準備学修	担当
16	洗口液・洗口剤 検討実習	「歯科予防処置・歯科保健指導論」第Ⅲ編4章①口腔衛生管理に関わる指導 3. 洗口液・洗口剤を読んでおくこと。(20分程度)	大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香
17	ライフステージにおける歯科衛生介入 ⑦老年期 ⑧要介護者	Ⅳ編 対象別の歯科衛生介入 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入⑦老年期P360～、2章配慮を要する者への歯科衛生介入①要介護高齢者P375～読んでおくこと。(40分程度)	佐藤 陽子
18	ライフステージにおける歯科衛生介入 老年期・要介護高齢者 症例検討	前時の内容を復習すること。(30分程度)	佐藤 陽子
19	ライフステージにおける歯科衛生介入 ⑨障害児者 症例検討	Ⅳ編 対象別の歯科衛生介入 2章配慮を要する者への歯科衛生介入②障害児者P382～を読んでおくこと。(30分程度)	佐藤 陽子
20	小集団歯科保健指導法(発声・話法)検討演習① (プレゼンテーション演習)	シラバス6回目にプリントを配布しますので、発声・話法練習し授業に臨むこと。(40分程度)	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香
21	小集団歯科保健指導法(発声・話法)検討演習② (プレゼンテーション演習)		佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香
22	歯科衛生過程演習Ⅰ 客観的臨床能力 講義	1年次および2年次で学習した内容を復習し、授業に臨むこと。(60分程度)	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香
23	歯科衛生過程演習Ⅰ 客観的臨床能力判断① 相互演習(4)/(術者1人目)		大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子
24	歯科衛生過程演習Ⅰ 客観的臨床能力判断② 相互演習(5)/(術者2人目)		大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子
25	歯科衛生過程演習Ⅰ 客観的臨床能力判断③ 相互演習(6)/(術者3人目)		大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子
26	口腔衛生指導演習Ⅱ TBI事例演習 相互演習(7)/(術者1人目)	2年次に学修した内容を復習して授業に臨むこと。(40分程度)	大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子
27	口腔衛生指導演習Ⅱ TBI事例演習 相互演習(8)/(術者2人目)		大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子
28	口腔衛生指導演習Ⅱ TBI事例演習 相互演習(9)/(術者3人目)		大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子
29	口腔衛生指導法 プレゼンテーション演習(3)/Aグループ	前時実習内容をまとめプレゼンテーションに臨むこと。(60分程度)	大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子
30	口腔衛生指導法 プレゼンテーション演習(4)/Bグループ		大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生ケアプロセス実践ガイド』佐藤陽子 齋藤淳編著 医歯薬出版株式会社		
参考文献	授業内で適宜紹介する。		
備考	シラバス1～8、17～19、22回目は合同講義(教室)、シラバス20、21、29、30回目はクラス別でプレゼンテーション演習(地下ラウンジまたは教室4ヶ所)シラバス9、10、14～16回目はクラス別で講義・演習(7階演習室)、11～13、23～28回目はクラス別で講義・演習(8階歯科実習室)を行う。レポートおよび課題は添削後、授業内で総括する。		
※以下は該当者のみ記載する。			
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)			
歯科診療所で勤務経験のある教員が、各ライフステージにおけるプロフェッショナルケアの目的と使用器具の基本技術を指導する。			

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング DH-2-DHP-10				
	●									
科目名	口腔リハビリテーション論				単位 認定者	佐藤 陽子 中川 大介		評価 の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	20 時間			
					授業形態	講義	授業回数		10 回	
授業の概要	摂食・嚥下のしくみとそれにかかわる障害についての歯科衛生士の役割を理解する。口腔の問題・障害を克服する口腔リハビリテーションについて学ぶ。									
到達目標	摂食嚥下の正常なしくみと解剖・生理について理解し、摂食嚥下障害の概要を説明できる。摂食嚥下機能に関わる解剖・整理について説明できる。歯科衛生士の行う専門的な口腔ケアの必要性を理解する。									
学修者への期待等	ただ単に聴講するだけでなく、取り組むべき課題を自分自身で見つけ、検討するという姿勢で授業に挑むこと。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	摂食嚥下リハビリテーション 概要発達期の摂食嚥下機能					教科書Chapter4 摂食嚥下機能のメカニズム を読んでおくこと。(20分程度)			佐藤 陽子	
2	摂食嚥下障害の概要					教科書Chapter1を読んでおくこと。(30分程度)			佐藤 陽子	
3	摂食嚥下機能と口腔ケア(摂食嚥下のメカニズム)					教科書Chapter4を読んでおくこと。(30分程度)			佐藤 陽子	
4	摂食嚥下に関わる諸器官の解剖					教科書Chapter4を読んでおくこと。(30分程度)			中川 大介	
5	摂食嚥下のメカニズム(5期モデルとプロセスモデル)					前回の授業内容を復習しておくこと。(30分程度)			中川 大介	
6	摂食嚥下のメカニズム(開口と喉頭挙上を中心に)					前回の授業内容を復習しておくこと。(30分程度)			中川 大介	
7	摂食嚥下のメカニズム(咽頭期を中心に)					前回の授業内容を復習しておくこと。(30分程度)			中川 大介	
8	摂食嚥下の評価と訓練(開口訓練、シャキア訓練等)					前回の授業内容を復習しておくこと。(30分程度)			中川 大介	
9	摂食嚥下障害のアセスメント					教科書Chapter5を読んでおくこと。(30分程度)			佐藤 陽子	
10	摂食嚥下障害の基礎訓練					教科書Chapter11 摂食嚥下訓練を読んでおくこと。(30分程度)			佐藤 陽子	
教科書	『歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版』日本歯科衛生士会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『口から食べる嚥下障害Q&A』藤島一郎著、中央法規出版株式会社									
備考	適宜グループワークを実施する									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
						DH-2-DHP-14				
科目名	歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）				単位 認定者	花渕 静 西條 佳奈		評価の 方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	「歯科診療補助法（基礎知識）」、「歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）」で学んだ基礎知識、基本技術を踏まえ、歯科臨床現場を想定し各々の処置や治療に必要な歯科器材を的確に準備し、それらの取り扱いを安全に行うことができる実践的な臨床技術を修得する。また、来院時および診療内容に応じた患者対応について、具体的に実践できる能力を身につける。									
到達目標	・臨床の場に対応できる基本技術から応用技術までを修得する。 ・各治療内容における必要器材セッティングの基礎的知識及び技術を学ぶ。									
学修者への 期待等	欠席せずに意欲を持って臨み、予習・復習をしっかりと行ってほしい。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	ラバーダム防湿の基礎知識／基礎演習				『歯科診療補助論』Ⅰ編第3章⑦-ラバーダム防湿、『歯科機器』4章⑧-1.ラバーダム防湿用の器材を読み授業に臨むこと。（40分程度）				西條 佳奈 三浦 悦子	
2	ラバーダム防湿 マネキン演習				『歯科診療補助論』Ⅰ編第3章⑦-ラバーダム防湿、『歯科機器』4章⑧-1.ラバーダム防湿用の器材を読み授業に臨むこと。また、シラバス1回目の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）				西條 佳奈 三浦 悦子	
3	ラバーダム防湿 相互演習（1） （演習手順説明／術者1人目）				『歯科診療補助論』Ⅰ編第3章⑦-ラバーダム防湿、『歯科機器』4章⑧-1.ラバーダム防湿用の器材を読み授業に臨むこと。また、シラバス1、2回目の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）				西條 佳奈 三浦 悦子	
4	ラバーダム防湿 相互演習（2） （術者2人目、3人目／演習まとめ）				『歯科診療補助論』Ⅰ編第3章⑦-ラバーダム防湿、『歯科機器』4章⑧-1.ラバーダム防湿用の器材を読み授業に臨むこと。また、シラバス1、2回目の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）				西條 佳奈 三浦 悦子	
5	歯肉圧排の基礎知識／基礎演習				『歯科診療補助論』Ⅰ編第3章⑧-歯肉圧排、『歯科材料』Ⅱ編11章②-1.歯肉圧排糸を読み授業に臨むこと。（40分程度）				西條 佳奈 三浦 悦子	
6	直接法修復（コンポジットレジン／グラスアイオノマー修復）基礎知識 マネキン演習（1）				『保存修復学・歯内療法学』Ⅱ編第2章直接法修復を読み授業に臨むこと。（40分程度）				西條 佳奈 三浦 悦子	
7	直接法修復（コンポジットレジン／グラスアイオノマー修復）基礎知識 マネキン演習（2）								西條 佳奈 三浦 悦子	
8	アルジネート印象材各種練和法 基礎演習				『歯科診療補助論』Ⅰ編第5章①-2. アルジネート印象材による概形印象、『歯科機器』第4章⑩-印象採得用機器を読み授業に臨むこと。（40分程度）				花渕 静 三浦 悦子	
9	各種練和法による概形印象採得 相互演習（1） （演習手順説明／術者1人目）				『歯科診療補助論』Ⅰ編第5章①-2. アルジネート印象材による概形印象、『歯科機器』第4章⑩-印象採得用機器を読み授業に臨むこと。また、シラバス第8回目の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）				花渕 静 三浦 悦子	
10	各種練和法による概形印象採得 相互演習（2） （術者2人目、3人目／演習まとめ）								花渕 静 三浦 悦子	
11	保険医療制度の概要について				保険医療制度について調べてくること。（40分程度）				伊藤 明日香	
12	歯科診療録について（用語および保険解説）				シラバス11回目の授業資料を読み授業に臨むこと。（30分程度）				伊藤 明日香	
13	歯周外科治療について／各種歯周パック材料の取り扱いについて				『歯周病学』Ⅱ編－4章歯周外科治療、Ⅲ編第1章⑤-3. 歯周パックの取り扱いについて読み授業に臨むこと。（30分程度）				西條 佳奈 三浦 悦子	
14	各症例別患者介助および特殊歯科器材の 取り扱い演習（1） （演習手順説明／術者1人目）				『歯科診療補助論』Ⅰ編3章②-2.特別な配慮が必要な患者対応、『歯科機器』第4章⑮-小児歯科用機器、『小児歯科学』Ⅱ編2章-小児歯科における患者との対応法を読み授業に臨むこと。（40分程度）				西條 佳奈 三浦 悦子	
15	各症例別患者介助および特殊歯科器材の 取り扱い演習（2） （術者2人目、3人目／演習まとめ）								西條 佳奈 三浦 悦子	

回	授業計画	準備学修	担当
16	医療面接と各種検査の実践 相互演習(1)	『歯科機器』第4章検査・診断・治療用機器、『保存修復学・歯内療法学』Ⅰ編2章歯および歯周組織の検査を読み授業に臨むこと(40分程度)	西條 佳奈 三浦 悦子
17	医療面接と各種検査の実践 相互演習(2)		西條 佳奈 三浦 悦子
18	訪問歯科診療時の診療補助について 基礎知識	『歯科診療補助論』Ⅱ編3章歯科訪問診療における対応を読み授業に臨むこと。(40分程度)	西條 佳奈 伊藤 明日香
19	訪問歯科診療時の診療補助について 症例検討 グループワーク	『歯科診療補助論』Ⅱ編3章歯科訪問診療における対応を読み授業に臨むこと。またシラバス第18回目の授業資料および実習記録を確認しておくこと。(40分程度)	西條 佳奈 伊藤 明日香
20	間接法修復(インレー修復)の基礎知識 マネキン演習	『歯科診療補助論』Ⅰ編5章③合着・接着の補助、Ⅰ編4章①-2.2)間接修復、『保存修復学』Ⅱ編4章間接修復法、『歯科機器』4章⑥切削用機器を読み授業に臨むこと。(40分程度)	西條 佳奈 三浦 悦子
21	各種セメント余剰部除去法 相互実習(1) (演習手順説明／術者1人目)	『歯科診療補助論』Ⅰ編5章③合着・接着の補助、『歯科材料』Ⅱ編4章合着材・接着材を読み授業に臨むこと。(40分程度)	西條 佳奈 三浦 悦子
22	各種セメント余剰部除去法 相互実習(2) (術者2人目、3人目／演習まとめ)	『歯科診療補助論』Ⅰ編5章③合着・接着の補助、『歯科材料』Ⅱ編4章合着材・接着材を読み授業に臨むこと。また、シラバス第21回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。(40分)	西條 佳奈 三浦 悦子
23	診療録ならびに診療報酬明細書の概要について	シラバス11・12回目に配布された授業資料を読み授業に臨むこと(30分程度)	伊藤 明日香
24	診療報酬明細書の記入方法および計算方法について	シラバス11・12回目に配布された授業資料およびシラバス23回の授業資料を読み授業に臨むこと(30分程度)	伊藤 明日香
25	各症例別診療報酬明細書の記入および計算実践演習(1)	保険点数表を読み事前に点数を把握して演習に臨むこと(30分程度)	伊藤 明日香
26	各症例別診療報酬明細書の記入および計算実践演習(2)	シラバス25回目の授業資料を読み授業に臨むこと(30分程度)	伊藤 明日香
27	暫間修復物(直接法)作製演習 ／口腔内写真撮影 相互演習(1)	2グループ交代で実習するため、該当実習前に各自『歯科材料』Ⅱ編第7章暫間修復材と仮着用セメント、『歯科診療補助論』Ⅰ編3章⑤-2.口腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』Ⅲ編第2章⑧-2.写真・画像を読み授業に臨むこと。(40分程度)	花浏 静 西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
28	暫間修復物(直接法)作製演習 ／口腔内写真撮影 相互演習(2)		花浏 静 西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
29	暫間修復物(直接法)作製実習 ／口腔内写真撮影 相互演習(3)	2グループ交代で実習するため、該当実習前に各自『歯科材料』Ⅱ編第7章暫間修復材と仮着用セメント、『歯科診療補助論』Ⅰ編3章⑤-2.口腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』Ⅲ編第2章⑧-2.写真・画像を読み授業に臨むこと。また、シラバス第27回・28回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。(40分程度)	花浏 静 西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
30	暫間修復物(直接法)作製実習 ／口腔内写真撮影 相互演習(4)		花浏 静 西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科材料』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科機器』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 小児歯科学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生士講座 歯周病学第6版』永末書店		
参考文献	授業の中で適宜紹介する。		
備考	11・12・18・19・23～26回は合同講義。他はすべてクラス別に講義・演習を8階実習室で行う。6・7回、9・10回、14・15回、16・17回、27・28回、29・30回は連続で演習を行う。なお、授業の進捗状況により順番が前後することがある。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

歯科診療所で勤務経験のある教員が、器材の安全な取り扱いと診療に応じた患者対応について指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-17				
	●	●								
科目名	臨床検査法				単位認定者	花 淵 静 伊藤 明日香		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	10 %
						授業時間数	20 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	歯科衛生士が、医療現場において臨床検査の基本的知識と、病気をもつ患者に対応するうえでの必要な基本的な態度と技能を修得する。また、人の病態を臨床検査というエビデンスをもって知り、歯科衛生士としてその臨床データという根拠をもって歯科衛生診断、治療、メンテナンスに関わることの重要性について講義、演習を通して理解する。									
到達目標	臨床検査の基礎知識を学び、各種検査法とその正常値・異常値から患者の身体症状を理解する。									
学修者への期待等	授業は意欲的にのぞみ、提出物は期日を守り提出すること。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	1章 臨床検査とは 臨床検査の概要 臨床検査の種類、臨床検査と歯科衛生士の役割					vii「臨床検査」執筆の序、第1章 臨床検査とはを 読んで授業に臨んでください。（40分程度）			花 淵 静	
2	2章 生体検査 生体検査（生理機能検査）について					第2章生体検査（生理機能検査）を読んで授業に 臨んでください。（40分程度）			伊藤 明日香	
3	生体検査（各種検査：体温、脈拍、血圧、血中酸素飽和度 測定）演習（1） （グループA：体温測定検討演習 グループB：各種血圧測定 グループC：状 況別脈拍・血中酸素飽和度測定）					シラバス2回目の授業資料、授業記録を読み授業 に臨んでください。（30分程度）			伊藤 明日香 花 淵 静	
4	生体検査（各種検査：体温、脈拍、血圧、血中酸素飽和度 測定）演習（2） ①（グループA：状況別脈拍・血中酸素飽和度測定 グループB：体温測定検 討演習 グループC：各種血圧測定） ②（グループA：各種血圧測定 グループB：状況別脈拍・血中酸素飽和度測定 グループC状況別脈拍・血中酸素飽和度測定）					シラバス2回目の授業資料、授業記録を読み授業 に臨んでください。（30分程度）			伊藤 明日香 花 淵 静	
5	【遠隔（オンデマンド）】 3章 血液学的検査／7章 糖尿病の検査／6章 腎機能 の検査					第3章 血液学的検査／7章 糖尿病の検査／6章 腎機能の検査を読んで授業に臨んでください。（4 0分程度）			花 淵 静	
6	検体検査（各種検査：尿検査、自己血糖測定）演習					シラバス5回目の授業資料、授業記録を読み授業 に臨んで下さい。（30分程度）			花 淵 静 伊藤 明日香	
7	【遠隔（オンデマンド）】 4章 感染症の検査／9章 免疫・血清学的検査					第4章 感染症の検査、9章免疫・血清学的検査を 読んで授業に臨んでください。（40分程度）			花 淵 静	
8	12章 口腔領域の臨床検査（1）：口臭検査・味覚検査／カ ンジタ症、シェーグレン症候群の臨床検査 演習					12章 口腔領域の臨床検査を読んで授業に臨ん でください（30分程度）			花 淵 静 伊藤 明日香	
9	12章 口腔領域の臨床検査（2）：口腔機能低下症に関する 検査内容について 演習								伊藤 明日香 花 淵 静	
10	12章 口腔領域の臨床検査（3）：摂食・嚥下スクリーニング 検査内容について 演習								伊藤 明日香 花 淵 静	
教科書	『歯科衛生学シリーズ 臨床検査』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
備考	授業内課題については添削後返却し、授業内で解説する。シラバス1回目は合同講義／シラバス5・7回目は、遠隔（オンデマン ド）による講義／2回目は、合同講義、他、3・4・6・8・9・10回目は、クラス別による講義・演習									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

歯科診療所で勤務経験のある教員が、病気をもつ患者に対する態度と技能および臨床検査の基礎知識を指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-19				
	●	●								
科目名	介護技術の基礎				単位認定者	高橋 彰彦		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	介護福祉における基礎知識を理解し、高齢者の口腔機能の保持増進へ向けて、その支援に役立つ考え方を理解する。また、臨床の場において対応できる基礎的介護技術を習得する。介護の基本的な考え方や理念を理解し、介護の対象者の特徴を理解するとともに生活支援の考え方を学ぶ。また、自立支援を基にした支援技術を体験する。									
到達目標	1.介護福祉における基礎知識を説明できる 2.介護の対象者の特徴を理解し、生活支援の考え方と関連づけて説明できる 3.自立支援を基にした支援技術（衣服の着脱支援、移動の支援、食事支援）が体験できる									
学修者への期待等	・“なぜ”の疑問を持ちながら授業に臨み、介護福祉における基礎知識を理解して、その支援に役立つ考え方を学んでほしい。 ・今後、生活や仕事上で高齢者・障害者と関わる上での基本姿勢を学んでほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	介護の基本となるもの（介護の目的、機能、変遷・介護保険）					【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）				
2	介護の対象の理解（高齢者、要介護者、障害者）					【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）				
3	介護の場の理解（地域包括ケアシステム、施設・在宅）					【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）				
4	介護に必要な視点					【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）				
5	共に働く人々との連携					【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）				
6	利用者の状態に応じた介護（寝たきり）					【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）				
7	利用者の状態に応じた介護（認知症）					【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）				
8	利用者の状態に応じた介護（視覚・聴覚障害）					【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）				
9	利用者の状態に応じた介護（看取り）					【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）				
10	利用者の状態に応じた介護（緊急時）					【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）				
11	生活支援の介護（動作への援助）					【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）				
12	生活支援の介護（食事介助・衣類の着脱）					【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）				
13	【演習】生活支援の介護① 衣服の着脱支援					【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）				
14	【演習】生活支援の介護② 移動の支援（車椅子・歩行介助）					【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）				
15	【演習】生活支援の介護③ 食事支援					【事後】授業内での学びをまとめる（概ね30分）				
教科書	『新版 写真とイラストですぐわかる！ 安全・やさしい介護術』 橋本正明／監 西東社									
参考文献	適宜、参考資料を配布します。									
備考	授業内課題とは、授業での学びをまとめUNIPA等に提出することを指します。授業内課題は、次回の授業でフィードバックします。13～15回目は2クラスに分かれて授業を実施します。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-CLT-02					
		●	●	●	●						
科目名	臨地実習Ⅱ（臨床応用）				単位 認定者	伊藤恵美 佐藤陽子 大宮由布子 花渕静 武山真奈美 西條佳奈 伊藤明日香		評価の方法	実習状況	100	%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	8 単位				
						授業時間数	360 時間				
				授業形態	実習	授業回数	集中				
授業の概要	本科目では、1年次で修得した学修内容を応用し、より高度で実践的な知識・技術を学ぶとともに、地域社会での歯科衛生士の有り様を現場で学ぶ。医療機関での臨床実習では、より高度な知識・技術を修得し、自らの歯科保健業務に活かすことについて学ぶ。教育機関、保育機関、福祉施設において、各ライフステージに合わせた歯科保健指導を行うことができる技術を身につける。										
学修者への期待等	1) 臨床現場における歯科衛生士の業務を実践することで歯科衛生士の役割を理解してください。 2) 修得した学修内容を応用し、実践的な知識、技術などを身につけてください。										
授業計画											
1. 実習期間 1) 歯科診療所臨床実習:6月～7月、11～12月 2) 東北大学病院実習:11～12月 3) 保育園実習、幼稚園実習:8月～9月(3日間) 4) 小学校実習:1日間											
2. 実習の目標 1) 歯科診療所実習 医療人としての人間性や倫理観、コミュニケーション能力を習得するために、現場における歯科衛生士の役割を理解し、口腔保健を担う専門職としての知識・技術・態度を身につける。 (1) 歯科診療の流れを理解し、それに必要な診療介助技術を習得する。 (2) 歯科衛生士が行う歯科予防処置、歯科保健指導の具体的な内容を理解し、自らも実践できる。 修得した学修内容を応用し、実践的な知識、技術などを体得する。 (3) 1年次、2年次に学内で学んだ知識、技術を臨床現場で実践することにより自己の学習成果を確認する。 2) 東北大学病院実習 東北大学病院歯科部門において、医科・歯科連携の下で高度な歯科医療に接し、歯科医療チームの一員としての知識・技術・態度を修得する。 (1) 社会人・医療人としての基本的な態度で行動する。 (2) 各診療科の専門性を理解し、他科との連携について学ぶ。 (3) 各診療科の特徴を理解し、歯科衛生業務における共同動作を学ぶ。 (4) 大学病院における医療安全・感染対策の基本を理解する。 3) 幼稚園・保育園・こども園実習 園児の1日の活動に参加するとともに、園児の発達段階および日常生活行動について理解し、園児とのコミュニケーション能力を身につける。 園児に対する歯科保健指導法を修得する。 (1) 園児の1日の活動の流れを理解する。 (2) 各年齢に合わせて園児とコミュニケーションを取ることができる。 (3) 園児の発達段階による食事内容を理解し、その介助方法を修得する。 (4) 年齢に合わせた歯科保健指導計画案を作成することができる。 (5) 歯科保健指導計画案に沿った教材を作製し、指導することができる。 (6) 各園児に対する個別口腔清掃指導法を修得する。 (7) 園児の集団に対する歯科保健指導法を修得する。 4) 学校歯科健診・集団歯科保健指導実習 学校歯科健康診断における健診の流れおよび歯科衛生士の事後指導について理解を深め、児童に対する歯科健康教育の具体的な方法を学ぶ。 (1) 歯科健康診断の流れを理解し、健診介助ができる。 (2) 健診後の結果に基づき児童に合わせた事後指導ができる。 (3) 対象学年に合わせた歯科保健指導計画の立案ができる。 (4) 指導計画に添って教材・教具を活用し指導ができる。 (5) 対象学年の児童にわかりやすい言葉、にこやかな表情で話を展開できる。 (6) 歯科保健指導において、動画教材を用いた指導方法を実践できる。 5) 社会福祉施設実習 (1) 障害者および高齢者の口腔機能の向上と、QOLの向上に必要な口腔ケアの技能を習得するために、本人および介助者への対応と援助の能力を養う。											

3. 実習計画

1) 歯科診療所臨床実習

実習項目)

- ・診療室内の環境整備
- ・患者誘導
- ・使用器具・器材・材料の準備・後片付け
- ・診療介助(バキューム／ライティング／器具・器材の受け渡し)
- ・各種検査記録(歯式、歯周検査、O'Leary)
- ・印象採得介助および概形印象採得
- ・各種セメントの取り扱い(合着・仮着・仮封)
- ・各種仮封材の取り扱い
- ・口腔内写真撮影補助
- ・スケーリング(シックルタイプ・超音波スケーラー)
- ・PMTCおよびPTC
- ・う蝕予防処置補助(シーラント／フッ化物塗布)
- ・TBIおよび保健指導

2) 東北大学病院実習

実習項目)

- ・手指消毒及び器材器具の消毒・滅菌、管理
- ・術前・術後の患者指導及び対応
- ・患者対応及びコミュニケーション

3) 幼稚園・保育園・こども園実習

実習項目)

- ・園児及び保護者、保育士とのコミュニケーション
- ・園児の発達段階に応じた食事内容、摂食方法の理解と食事介助
- ・各園児に対する昼食後の口腔清掃指導及び介助
- ・集団保健指導における指導教材の作製および活用

4) 学校歯科健診・集団歯科保健指導実習

実習項目)

- ・歯科健康診断時の健診介助と事後指導
- ・集団歯科保健指導における各学年に合わせた歯科保健指導案の作成
- ・各学年に合わせた歯科保健指導の実施

5) 社会福祉施設実習

実習項目)

- ・利用者及び他職種とのコミュニケーション
- ・指導教材の作製及び活用
- ・利用者に対する保健指導の実践

教科書	1、2年次で、専門展開科目で使用する各教科書
参考文献	特になし
備考	実習終了後に、実習報告会を実施する。この報告会で実習の振り返りを行い、実習評価について総括する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-CLT-11				
		●	●	●						
科目名	臨地実習指導（臨床応用）				単位 認定者	大宮 由布子		評価の方法	レポート	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2 年	開講時期	通年 <th>単位数</th> <td>1 単位</td> <td>受講態度</td> <td>20 %</td>	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	臨地実習Ⅱ（臨床応用）の事前・事後指導を行う。事前指導では臨地実習Ⅰ（臨床基礎）を踏まえ、2年生で必要となる実践力、研究力の育成を目指す。事後指導では実習の反省を踏まえ、自己の課題を見出しながら、必要となる事柄の修得のための学びを深める。									
到達目標	臨地実習の目的および各実習施設の特徴や対象者を理解し、それぞれに応じた行動、技術の実践ができる。また、事前課題や実習の反省を踏まえ自己の課題を見出し解決できる能力を身につける。									
学修者への期待等	1年次、2年次の学修成果を発揮するためにも、集団指導においては、各実習施設や対象者を理解し、それぞれに合わせた指導内容の計画と実践ができること。臨床においては、様々な患者様への対応とスタッフとの連携がとれるコミュニケーション能力を身につけること。実習メンバーとのコミュニケーションを円滑にし、事前課題および準備や計画を怠らず、真面目に取り組むこと。									
回	授業計画			準備学修				担当		
1	相互台小学校・通町小学校 学校歯科健診・集団歯科保健指導実習の 目的および概要			歯科衛生学シリーズ『歯科予防処置論・歯科保健指導論』Ⅴ編2章P405表 Ⅴ-2-1「歯・口の健康づくりのねらいと内容例」、P406表Ⅴ-2-2「歯・口の 健康づくりと食育内容」、表Ⅴ-2-3発達段階に即した歯みがき指導の重点 を読んでおくこと。（概ね30分）				伊藤 明日香		
2	相互台小学校・通町小学校 学校歯科健診・集団歯科保健指導実習 指導案作成 グループワーク							伊藤 明日香		
3	歯科診療所実習Ⅰ 目的および概要			各自の実習施設について、特徴および主な診療内容を調べておくこと。 （概ね60分）				大宮 由布子		
4	歯科診療所実習Ⅰ 自己目標							大宮 由布子		
5	歯科診療所実習Ⅰ 報告会			各自、歯科診療所実習Ⅰの振り返りを行い発表の準備をしておくこと。 （60分程度）				大宮由布子/武山真奈美 西條佳奈/伊藤明日香		
6										
7	保育園実習の目的および概要			歯科衛生学シリーズ『歯科予防処置論・歯科保健指導論』Ⅴ編2章P405表 Ⅴ-2-1「歯・口の健康づくりのねらいと内容例」、P406表Ⅴ-2-2「歯・口の 健康づくりと食育内容」、表Ⅴ-2-3発達段階に即した歯みがき指導の重点 を読んでおくこと。（30分程度）				花淵 静		
8	保育園実習 対象者の理解 保育士の立場から			前時の実習指導内容を復習しておくこと。（60分程度）				鈴木 享之		
9	保育園実習 報告会 グループワーク			グループ発表の準備をしておくこと。（60分程度）				花淵静/大宮由布子 武山真奈美/西條佳奈 伊藤明日香		
10										
11	東北大学病院歯科部門臨床実習の 目的および概要			東北大学病院歯科部門について概要および各診療科の特徴を調べてお くこと。（60分程度）				伊藤 恵美		
12	歯科診療所実習Ⅱの目的および概要			歯科診療所実習Ⅱについて、各自の臨床実習施設の特徴および主な診 療内容を調べ、自己目標を立てておくこと。（60分程度）				大宮 由布子		
13	東北大学病院歯科部門臨床実習および歯 科医院実習Ⅱの自己目標			東北大学病院歯科部門について、特徴および主な診療内容を調べ、自 己目標を立てておくこと。（60分程度）				大宮 由布子		
14	東北大学病院歯科部門臨床実習 報告会			各自、実習の振り返りを行い発表の準備をしておくこと。（60分程度）				伊藤恵美/大宮由布子 武山真奈美/西條佳奈 伊藤明日香		
15	歯科診療所実習Ⅱ 報告会									
教科書	専門展開科目で使用する教科書									
参考文献	授業内で適宜紹介する。									
備考	授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。 シラバス1・2回、5・6回、9・10回、14・15回は連続の授業とする。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）										

歯科衛生学科 3年生

(2023年度入学生)

- カリキュラムツリー
- カリキュラムマップ
- 年間予定表
- シラバス

	教養教育分野		専門支持科目		専門展開科目(講義)		専門展開科目(演習)
	専門展開科目(関連分野)(講義、演習)				実習		



2025年度歯科衛生学科3年 カリキュラムマップ

学修成果（到達目標）

- 【基礎力】：一般教養並びに各専門分野の基礎的能力
 - ①全身と口腔の健康を理解し、歯科衛生士として必要な基本的な知識を身につける。
 - ②口腔疾患の原因、病態、予防方法を理解し、歯科衛生士としての専門性を理解し応用できる能力を身につける。
 - ③自らの健康管理ができ、社会人として責任を果たすことができる。
- 【実践力】：各分野の実際の場面に对应できる力
 - ①疾病予防のために必要な情報を収集し、問題解決のための基本的な施術や適切な口腔衛生指導ができる。
 - ②安全で効果的な歯科医療を提供するため、基本的な技術を身につけて実践できる。
 - ③社会人として、また医療従事者として倫理観をもって行動できる。
- 【人間関係力】：専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力
 - ①社会人としての責任感を自覚し周囲と良好な人間関係を築くことができる。
 - ②保健・医療・福祉チームの中で果たす役割を理解し、他者と連携しながら歯科衛生士の役割・責任を担うことができる。
 - ③他者との関わりの中で、自らの課題を見つける客観性と、改善・解決できる柔軟性を身につける。
- 【生涯学習力】：生涯にわたって学び、成長できる力
 - ①学修内容に興味や関心をもち、主体的、意欲的に取り組むことができる。
 - ②専門職者として歯科医療における問題点をみつけ、自己学習によって解決できる。
 - ③専門職者として常に謙虚で自己の成長に努めることができる。
- 【地域理解力】：地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力
 - ①地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感を持って積極的に行動できる。
 - ②地域の文化、人々の生活に興味、関心をもち、地域住民の視点にたちコミュニケーションをとることができる。

学修成果：1 基礎力 2 実践力 3 人間関係力 4 生涯学習力 5 地域理解力

学修成果とは、学生がその授業科目で何ができるようになったかを表すものです。
●は、各授業科目が学修成果の1～5のどれに当てはまるかを表すものです。

科目区分		授業科目の名称	授業回数	履修年次																				単位数		
				1年		学修成果					2年		学修成果					3年		学修成果					必	選
				前	後	1	2	3	4	5	前	後	1	2	3	4	5	前	後	1	2	3	4	5		
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	15	○		●																		1		
		英語Ⅰ	15							○		●												1		
		英語Ⅱ	10														○		●					1		
		医療手話	10															○		●	●			1		
	人間と社会	法律入門	15	○		●																		2		
		現代の社会	15		○	●																		2		
		コミュニケーション演習	10		○		●	●																1	1	
		心理学	10	○		●		●																		
	人間と科学	情報処理	15	○		●																		1		
		化学	10	○		●																			1	
		スポーツレクリエーション	10															○		●	●				1	
専門教育分野	人体の構造と機能	解剖学	15	○		●																		2		
		生理学	15	○		●																		1		
		組織発生学	10	○		●																		1		
	歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学	20		○	●																		2		
		口腔生理学	15		○	●																		2		
		歯牙解剖学	10		○	●																		1		
	疾病の成り立ちと回復	病理学	15		○	●																		1		
		微生物学	15		○	●																		1		
		薬理学	15		○	●																		1		
		栄養学	10	○		●																		1		
	健康と予防に関わる人間の社会の仕組み	生化学	10									●												1		
		一般臨床医学	10															○		●				1		
		衛生学・公衆衛生学	15	○		●																		1		
		口腔衛生学	30		○	●																		2		
	臨床歯科医学	地域保健・保健統計	20								○		●											2		
		衛生行政・社会福祉・社会保障	20								○		●											2		
		人間関係論	10															○		●		●			1	
		歯科衛生士概論	15	○		●			●															2		
		歯内療法学	10		○	●																		1		
		保存修復学	10		○	●																		1		
		歯周療法学	15									○		●										1		
		歯科補綴学	15									○		●										1		
		口腔外科学	15									○		●										1		
		歯科矯正学	15									○		●										1		
		小児歯科学	15									○		●										1		
		高齢者口腔保健学	10									○		●										1		
		障害者口腔保健学	10										○		●									1		
		歯科放射線学	15									○		●										1		
		口腔衛生管理	10															○		●					1	
		歯科予防処置論	歯科予防処置法	30		○	●																		2	
う蝕予防処置法（臨床基礎）	10										○		●	●									1			
歯周病予防法（臨床基礎）	30										○		●	●									2			
う蝕予防処置法（臨床応用）	10																○			●			1			
歯周病予防法（臨床応用）	20																○			●			2			
歯科保健指導論	保健指導論	15	○		●																		1			
	保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）	15		○		●	●	●															1			
	保健指導演習Ⅱ（臨床応用）	30								○			●	●									2			
	保健指導演習Ⅲ（臨床総合）	30															○			●	●		2			
	口腔リハビリテーション論	10									○		●										1			
	口腔リハビリテーション演習	10															○			●				1		
歯科診療補助論	歯科診療補助法（基礎知識）	20	○		●																		2			
	歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）	20		○	●	●																	2			
	歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）	30								○			●	●									2			
	歯科診療補助演習Ⅲ（臨床総合）	20															○			●	●		2			
	感染予防法	10	○		●	●																	1			
	臨床検査法	10									○		●	●									1			
	救急法・救急蘇生法	15															○		●	●			1			
	介護技術の基礎	15									○		●	●									1			
実習	審美歯科演習	10															○		●	●				1		
	臨床実習Ⅰ（臨床基礎）	集中		○	●	●	●																4			
	臨床実習Ⅱ（臨床応用）	集中								○			●	●	●	●							8			
	臨床実習指導（臨床応用）	15											●	●	●								1			
	臨床実習Ⅲ（臨床総合）	集中															○			●	●	●	8			
	臨床実習指導（臨床総合）	15															○			●	●	●	1			
特別科目	歯科衛生研究法Ⅰ（臨床基礎）	15															○		●				1			
	歯科衛生研究法Ⅱ（臨床応用）	15																○		●			1			
		総計（卒業要件100単位以上）																							93	1

総計（卒業要件100単位以上）

93 9

2025年度 歯科衛生学科3年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土
4月			1	オリエンテーション	3	4 校内模擬試験	5
	6	7 健康診断	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29 昭和の日	30	1	2	3 憲法記念日
5月	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7	8 模擬試験	9 合同交流会	10
	11	12	13 歯科医院実習	14 歯科医院実習	15 歯科医院実習	16 歯科医院実習	17
	18	19 歯科医院実習	20 歯科医院実習	21 歯科医院実習	22 歯科医院実習	23 歯科医院実習	24
	25	26 歯科医院実習	27 歯科医院実習	28 歯科医院実習	29 歯科医院実習	30 歯科医院実習	31
6月	1	2 歯科医院実習	3 歯科医院実習	4 実習予備日	5 実習予備日	6 実習予備日	7
	8	9 実習報告会	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	1	2	3	4	5 保護者会
7月	6	7	8	9	10	11 歯科医院実習	12
	13	14 歯科医院実習	15 歯科医院実習	16 歯科医院実習	17 歯科医院実習	18 歯科医院実習	19
	20	21 海の日	22 歯科医院実習	23 歯科医院実習	24 歯科医院実習	25 歯科医院実習	26
	27	28 歯科医院実習	29 歯科医院実習	30 歯科医院実習	31 歯科医院実習	1 歯科医院実習	2
8月	3	4 歯科医院実習	5 歯科医院実習	6 実習予備日	7 実習予備日	8 実習報告会	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18 定期試験	19 定期試験	20 定期試験	21 模擬試験	22 追試験	23
	24	25 夏休み	26 夏休み	27 夏休み	28 夏休み	29 夏休み	30
	31	1 夏休み	2 夏休み	3 夏休み	4 夏休み	5 夏休み	6
9月	7	8 不合格者発表	9 夏休み	10 夏休み	11 再試験	12 再試験	13
	14	15 敬老の日	16	17 歯科医院実習	18 歯科医院実習	19 歯科医院実習	20
	21	22 後期開始 歯科医院実習	23 秋分の日	24 歯科医院実習	25 歯科医院実習	26 歯科医院実習	27

※振替授業日、追試験の日程、再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2025年度 歯科衛生学科3年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土
9月	28	29 歯科医院実習	30 歯科医院実習	1 歯科医院実習	2 歯科医院実習	3 歯科医院実習	4
10月	5	6 歯科医院実習	7 歯科医院実習	8 歯科医院実習	9 歯科医院実習	10 実習予備日	11
	12	13 スポーツの日	14 実習予備日	15 実習予備日	16 実習報告会	17	18
	19	20	21	22	23	24	25 せいよう祭
	26	27	28	29	30	31	1
11月	2	3 文化の日	4	5	6	7 合同交流会	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23 勤労感謝の日	24 振替休日	25	26 上杉山通小学校実習	27 上杉山通小学校実習	28	29
	30	1	2	3	4	5	6
12月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24 模擬試験	25 冬休み	26 冬休み	27
	28	29 冬休み	30 冬休み	31 冬休み	1 元日	2 冬休み	3
1月	4	5 定期試験	6 定期試験	7 定期試験	8 模擬試験	9 追試験	10
	11	12 成人の日	13 国家試験対策	14 国家試験対策	15 国家試験対策	16 国家試験対策	17
	18	19 不合格者発表	20 国家試験対策	21 国家試験対策	22 再試験	23 再試験	24
	25	26 模擬試験	27 国家試験対策	28 国家試験対策	29 国家試験対策	30 国家試験対策	31
2月	1	2 国家試験対策	3 国家試験対策	4 国家試験対策	5 国家試験対策	6 国家試験対策	7
	8	9 国家試験対策	10 国家試験対策	11 建国記念日	12 国家試験対策	13 模擬試験	14
	15	16 国家試験対策	17 国家試験対策	18 国家試験対策	19 国家試験対策	20 国家試験対策	21
	22	23 天皇誕生日	24 模擬試験	25 国家試験対策	26 国家試験対策	27 試験前登校日	28
3月	1 国家試験	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16 前日登校日	17 卒業式	18	19	20 春分の日	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

※振替授業日、追試験の日程、再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5							科目ナンバリング	
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力							DH-0-HCU-01	
	●												
科目名	英語Ⅱ				単位 認定者	細川 亮一		評価の方法	試験 (レポート)	50 %			
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	30 %			
						授業時間数	20 時間		受講態度	20 %			
					授業形態	演習	授業回数		10 回				
授業の概要	歯科医療現場で必要な単語を使った英会話を学ぶ。歯科医療現場で外国人の患者さんと接する機会が増えているが、そうした場面で、外国人の方々の不安や苦痛を理解し、的確な質問や説明を英語でできるようになることを目指す。												
到達目標	英語を用いたコミュニケーションのツールを作成することを通して、安心した歯科医療を提供できるスキルを身につける。												
学修者への期待等	コミュニケーション能力を伸ばすため、積極的な授業への参加を期待します。												
回	授業計画					準備学修							
1	授業のイントロダクション（授業概要・受講上の留意点）、英語で自分の特徴を知ろう					アクティブワークを行います。7.5X2.5cmの付箋紙の束を用意してください。							
2	歯科治療で用いる英単語					これまでに習った歯科の単語の英語表現を調べてください。(30分程度)							
3	受付と電話での英会話 1 初診患者					日本語で良いので問診票などのようなことを患者さんに聞くかまとめてください。(30分程度)							
4	受付と電話での英会話 2 予約の変更					覚えたフレーズの発音の練習をしてください。(30分程度)							
5	ユニットでの英会話 1 初診の問診 ユニットを動かす					日本語で良いので患者さんに聞くかまとめてください。(30分程度)							
6	ユニットでの英会話 2 アシスタントワーク					覚えたフレーズの発音の練習をしてください。(30分程度)							
7	これまでのまとめ(外国人が来院したことを想定して)グループワーク					シラバス1～6回目までの内容を復習してください。(30分程度)							
8	治療の説明 1 歯周治療の原因と流れを説明					覚えたフレーズの発音の練習をしてください。(30分程度)							
9	治療の説明 2 う蝕とその予防についての説明					日本語でフッ化物の説明をできるようにしておいてください。(30分程度)							
10	まとめ 授業内課題のフィードバック					これまでの疑問点をまとめてください。(30分程度)							
教科書	適宜資料を配布する。												
参考文献													
備考													

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-0-HCU-02				
		●	●							
科目名	医療手話				単位認定者	奥田 育代 佐藤 八寿子		評価の方法	試験（筆記, 実技）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	20 時間		受講態度	20 %
					授業形態	演習	授業回数		10 回	
授業の概要	聴覚障害者の言語である手話について、日本語とは異なる言語体系であることを理解し、手話での簡単な挨拶や会話を修得する。「ろう者」の価値観、障害の特徴などを理解し、「ろう者」とのコミュニケーションについて知る。また、歯科医療現場で聴覚障害者の患者と接する場面での対応について学ぶ。									
到達目標	日常会話に必要な手話単語や指文字を自然な順序で習得、聴覚障害やろう文化を理解し、手話の読み取り力や表現力を身につけてコミュニケーションの原点とは何かを体験的に知ることができる。手話での簡単な挨拶や会話ができるようになる。									
学修者への期待等	手話は言語コミュニケーションに「目」や「身体」を使います。音声なしで授業を進めますので、「音のない世界」で体感してください。授業外でも友達と手話を使って会話する反復訓練が効果的です。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	名前(自分の名前、友達の名前、挨拶、数字など)				手話は目で見ることばである。メガネ等の必要な方は準備して授業に臨むこと。				奥田 育代	
2	家族(親族名称、家族構成など)				予習として「指文字」から自分の名前を調べて授業に臨むこと。(1時間程度)				佐藤 八寿子	
3	自己紹介(出身地(都道府県)、現住所(市町村)など)				「名前」「家族」を復習すること。(1時間程度)				奥田 育代	
4	カレンダー(月日、曜日、休日、一日の流れなど)				「自己紹介」を復習すること。(1時間程度)				佐藤 八寿子	
5	タイムテーブル(時刻、家、学校での行動など)				「カレンダー」を復習すること。(1時間程度)				奥田 育代	
6	通勤通学(交通手段、交通経路、天候など)				「タイムテーブル」を復習すること。(1時間程度)				佐藤 八寿子	
7	食習慣(食べ物、好き/嫌い、回数など)				「通勤通学」を復習すること。(1時間程度)				奥田 育代	
8	趣味(趣味、回数など)				「食習慣」を復習すること。(1時間程度)				佐藤 八寿子	
9	ろう者と会話(自己紹介、好きな食べ物など)				ろう者と直接コミュニケーションを図るため、これまで学習してきた手話、指文字を復習すること。(2時間程度)				奥田 育代 半澤 啓子 石黒 節子 遠藤 里美	
10	まとめ(手話文法について)				これまで学習した手話を積極的に表現すること。				奥田 育代	
教科書	『手話奉仕員養成テキスト 手話を学ぼう 手話で話そう【全面改訂版】』 全国手話研修センター									
参考文献	『改訂新版 はじめての手話 初歩からやさしく学べる手話の本』 木村晴美・市田泰弘著 生活書院									
備考	2クラスに分かれて授業を実施します。いすのみを半円型に設営し、学修を進めます。 授業内課題は、添削後に授業内でフィードバックを行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

						科目ナンバリング				
						DH-0-HSC-01				
学修成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
	●	●								
科目名	スポーツレクリエーション				単位 認定者	菅原 一昭		評価 の方法	授業内課題	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	20 時間			
					授業形態	演習	授業回数		10 回	
授業の概要	スポーツレクリエーションを通じて、集団活動での協調性、安全についての理解を深めるとともに、集団活動から全体の規律・態度を学ぶ。また、子どもから高齢者・障がい者に及ぶ幅広いライフステージでの心身の発育とその特徴を学修し、歯科保健活動の際の導入段階としてレクリエーションを楽しく活用できる能力を養う。更に、運動の楽しさや喜びを深く体験することを通して、心身ともに健康な生活が送れる習慣を身につける。									
到達目標	レクリエーション支援活動を通じて、幼児・児童、高齢者、障がい者に対する理解を深め、歯科保健活動において積極的にレクリエーション支援活動を取り入れる。また、自分自身でも生涯を通じて心身ともに健康を送れるような生活習慣が身につけること。									
学修者への期待等	幼児・児童・高齢者・障がい者に対するレクリエーション支援の方法を学習し、実践すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンス(講義の概要・バス・体育館説明・評価方法等) レクリエーション支援に関わる諸理論 レクリエーションの意義と役割 アイスブレイキング、ホスピタリティ理論 (地下ラウンジ)					【事前】 各対象者に対するレクリエーション支援活動についての意義について理解を深めておく。(概ね30分) 【事後】 配布されたプリントは、回収し授業内課題として評価する。 (概ね30分)				
2	歯科保健活動での幼児・児童に対するレクリエーション理解 身近にある知育のアイデア 知育の効果を上げるプランニング等 (地下ラウンジ)									
3	歯科保健活動での高齢者に対するレクリエーション理解 楽しむためのサポートポイント レクリエーション支援の組み立て方、展開方法 (地下ラウンジ)									
4	歯科保健活動での幼児・児童を対象とした計画・実施の流れ 企画書作成、グループ発表 (地下ラウンジ)									
5	高齢者に対するレクリエーション支援活動 高齢者の介護予防支援におけるスポーツレクリエーションの取り組み事例から学ぶ (体育館)									
6										
7	障がい者に対するレクリエーション支援活動 障がい者の自立支援におけるスポーツレクリエーションの取り組み事例から学ぶ (体育館)									
8										
9	生涯に繋がるスポーツレクリエーション活動 多様なスポーツレクリエーションの実践事例から学ぶ 総括 (体育館)									
10										
教科書	なし									
参考文献	必要に応じて文献・資料を用意する。									
備考	1～4回目は、地下ラウンジにて実施。(座席については、初回時スライドに投影いたしますので、各自確認すること)。5～10回目は、体育館にて実施。(上下運動着、上靴持参)。土足厳禁。バス内での飲食禁止。事前に着替えてくること。授業内課題は、添削後に授業内でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●					DH-1-DHB-12				
科目名	一般臨床医学				単位 認定者	小野寺 健		評価の 方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	前期 <th>単位数</th> <td>1 単位</td> <td>授業内課題等</td> <td>10 %</td>	単位数	1 単位		授業内課題等	10 %
						授業時間数	20 時間		受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業回数		10 回	
授業の概要	歯科を受診する患者の多くが生活習慣病などの何らかの疾患を持っていると考える必要がある。その対応のために、口腔内のみならず、全身管理の視点を持つ必要がある。本科目では歯科衛生士として必要な一般的な臨床医学の知識と主要な疾患の概要を理解する。									
到達目標	歯科衛生士として学ぶべき全身疾患の基礎知識を身につける。また、全身疾患がある患者さんに対しての歯科治療を行う際の注意点を学ぶ。									
学修者への期待等	多様な価値観と様々なライフステージの対象を理解するため、「人間」「環境」「健康」について知識を身につけ、人々の健康保持・増進に向けて歯科衛生士としての役割を考えてほしい。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	代謝性疾患—先天性代謝異常症、メタボリックシンドローム、糖尿病、脂質異常症、痛風など。内分泌疾患—視床下部・下垂体系、副腎疾患、甲状腺疾患など					教科書の代謝・内分泌疾患 に目を通しておくこと。 (20分程度)			小野寺 健	
2	女性の体の基礎解剖・性ホルモンなどの理解					教科書P140～148産科・婦人科疾患・妊娠の内容について予習しておくこと。(30分程度)			佐藤 理恵	
3	老化と加齢変化、精神・神経障害、認知症、脳血管障害、パーキンソン病など					教科書の神経疾患、精神疾患 に目を通しておくこと。(30分程度)			小野寺 健	
4	妊娠・出産・産褥の理解					教科書P140～148産科・婦人科疾患・妊娠の内容について予習しておくこと。(30分程度)			佐藤 理恵	
5	アレルギー性皮膚疾患					事前に配布される教科書の「皮膚疾患」の項に目を通すこと。			柿沼 誉	
6	皮膚感染症、皮膚腫瘍					事前に配布される教科書の「皮膚疾患」の項に目を通すこと。			柿沼 誉	
7	子どもの成長発達・食行動の発達の理解								佐藤 幸子	
8	基本的な聴覚系・前庭系の生理解剖を学ぶ					聴覚器の構造を把握しておくこと。(20分程度)			渡邊 弘人	
9	子どもの健康教育・指導に必要な基礎知識、感染症・発達障害など								佐藤 幸子	
10	聴覚系・前庭系の疾患、治療、対応を学ぶ					自分が耳鼻咽喉科疾患になった時の症状を思い出す。			渡邊 弘人	
教科書	『歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック』橋本賢二・増本一真編著、医歯薬出版株式会社 他に適宜プリントを配布する。									
参考文献										
備考	レポート課題などが出題された場合は回収後、採点し、次回総括する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-18				
	●		●							
科目名	人間関係論				単位 認定者	尾形 晶子		評価の 方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	3 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		エクササイズ	15 %
					授業形態	講義	授業時間数		20 時間	受講態度
							授業回数		10 回	
授業の概要	良好な人間関係の構築には互いを理解する必要がある。日常生活や臨床の場において経験する人間関係のプロセスやメカニズムについて社会心理学的視点を通して理解を深める。さらに、臨床の場における患者―治療者関係は信頼が基盤となる。治療的関係と個人的関係を明確に区別できることが大切で、そこに生じる医療倫理について学ぶ。									
到達目標	人はどんな時にどのような気持ちになるのか、自分だけの枠で考え行動することが、人とのつながりの上ではどのように影響するかを考え、グループで話し合っているいろいろな価値観、考え方を認め自分の心も整理する技術を学びます。他人の話をよく聞き相手は自分に何を求め期待しているのかに気づき、自分の考え、思ったことを言葉にして伝えることの大切さを知ります。									
学修者への期待等	一人一人違った考え、個性を持つ人間同士が、良好なつながりを持つことが大切だということの復習。相手を理解すると同時に自分にストレスをためない自己表現法。考えるより実際にやってみる方が身につきますので積極的に行動しましょう。									
回	授業計画					準備学修				
1	オリエンテーション ―バーバルとノンバーバル (①感じのよい応対とは？、②重要な挨拶、③相槌で相手を認めよう)					本日渡したプリントをもう一度読み返すこと(30分程度) 次回分のプリント「学生と社会人の違いについて」に記入。				
2	社会人とは？ 社会人の倫理と医療に携わる者の倫理 (①職場とは？、②チームワーク)					プリント「コミュニケーションに関する設問」に答えてくること。(30分程度)				
3	ソーシャルスキル、PDCAで考える (①自己概念、②成功、失敗には原因がある)					プリントをあらかじめ渡すので読んでくること。 (30分程度)				
4	私って・・・？ 私らしさって・・・？ (①自己開示とフィードバック、②ジョハリの窓)					プリント「エゴグラム」に記入すること。 (30分程度)				
5	自分の取り扱い説明書、相手が思うあなたの長所、短所 (①エゴグラム、②人格と性格、③アイデンティティ)					プリント「敬語」の設問問題に答えてくること。 (30分程度)				
6	コミュニケーションって何？、分かち合う、応える、人を許すとは？ (①「たぶん・・・だろう」、②事実、伝聞、意見を分ける、③考える／訊く、④必要とされる敬語)					プリントをあらかじめ渡すので読んでくること。 (30分程度)				
7	報・連・相 (①危機管理、②社会的スキル尺度)					プリントをあらかじめ渡すので読んでくること。 (30分程度)				
8	人間関係を阻害するもの ―壁はどうしてできるのか ①伝聞、②思い込み(第一印象)、③経験					プリント「自己概念」について答えてくること。 (30分程度)				
9	メラビアンの法則 (①パラダイム、②認知実験)					プリント「対話の中で人と人がわかり合える」について答えてくること。(30分程度)				
10	「以心伝心」はあるのか、「人が人を理解する」とは？ (①相手の気持ちを推し量る、②自分の言葉で伝える)									
教科書	プリントと参考資料を使って授業を進めます。内容をよく読み意見をまとめておいてください。									
参考文献										
備考	対面接遇の練習、レポートの提出、意見交換への積極性などの評価。レポートを詳細に授業の中で総括する。 2クラスに分かれて授業を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHC-12				
	●									
科目名	口腔衛生管理				単位認定者	伊藤 恵美		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	3 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	20 時間			
					授業形態	演習	授業回数		10 回	
授業の概要	う蝕や歯周疾患の口腔疾病の予防だけではなく、周術期や病院の病棟でのオーラルマネジメントおよびチーム医療の一員として他職種との連携に必要な基礎知識を学び、全身疾患を持つ患者に合わせた口腔衛生管理を実践できる能力を養う。今後は病院だけでなく、診療室または在宅での口腔衛生管理の質を高める必要がある。本科目では、術後の肺炎の予防、手術部位の感染予防、口腔疾患の予防、全身麻酔の挿管時における動揺歯や抜歯すべき歯の発見、抗がん剤治療に伴う口腔衛生管理の知識、緩和ケアにおける口腔衛生管理の技術を修得する。									
到達目標	①周術期における口腔管理の目的を理解し、チーム医療の意義と歯科の役割を理解する。 ②がん治療患者の口腔の特徴を理解し、対象者に合わせた口腔衛生管理の手技を修得する。									
学修者への期待等	欠席せず、予習・復習をして意欲的に臨んで欲しい。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	周術期患者の口腔管理について（概要）				教本 歯科診療補助論 2章 周術期における歯科診療補助①周術期における口腔機能管理をよく読んでおくこと。（45分程度）				伊藤 恵美	
2	周術期における口腔衛生管理（がん薬物療法における口腔健康管理）				教本 歯科診療補助論2章 周術期における歯科診療補助①周術期における口腔機能管理 2. 病態の把握をよく読んでおくこと。（45分程度）				伊藤 恵美	
3	周術期における口腔衛生管理（頭頸部放射線療法における口腔健康管理）				前回の授業の内容を復習してくること。 放射線治療について調べておくこと。（30分程度）				伊藤 恵美	
4	周術期における口腔衛生管理（全身麻酔下での手術における口腔健康管理）				シラバス1回目の復習をしておくこと。（30分程度）				伊藤 恵美	
5	周術期における口腔衛生管理（終末期医療における口腔衛生管理）				緩和医療と終末期医療について調べておくこと。（30分程度）				伊藤 恵美	
6	周術期における口腔衛生管理の実際（使用機材の検討） クラス別演習 演習室 グループワーク				シラバス2～5回目までを復習して授業に臨むこと。（45分程度）				伊藤 恵美	
7	周術期における口腔衛生管理の実際（体位、患者姿勢） クラス別演習 演習室 グループワーク								伊藤 恵美	
8	周術期における口腔衛生管理の実際 クラス別演習 演習室								伊藤 恵美	
9	周術期患者の口腔管理について（歯科の役割） グループワーク				病院歯科の役割について調べておくこと。（30分程度）				伊藤 恵美 小野 ゆかり	
10	周術期における口腔管理の実際 グループワーク				これまでの授業内容を復習して授業に臨むこと。（45分程度）				伊藤 恵美 小野 ゆかり	
教科書	『歯科衛生士シリーズ 歯科診療補助論』 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『周術期口腔機能管理の基本がわかる本 ～基礎知識から口腔管理の実際まで～』梅田正博編著、株式会社シエン社 『これからはじめる周術期口腔機能管理マニュアル』別所和久監修、株式会社永末書店									
備考	シラバス1～5、9・10回目は合同授業、6～8回目はクラス別で実習室で実施する。 授業の冒頭で目標を示し授業の最後にまとめを行う。実習レポート・課題は提出期限厳守。添削後、返却する。 授業の進捗状況により順番が前後することがある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

大学病院で実務経験のある教員が、周術期における患者の口腔衛生管理の基礎知識と実践的な管理法を指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング DH-2-DHP-04				
		●								
科目名	う蝕予防処置法（臨床応用）				単位 認定者	鷲尾純平 佐藤聡子 伊藤恵美		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	20 時間			
					授業形態	演習	授業回数		10 回	
授業の概要	「歯科予防処置法」「う蝕予防処置法（臨床基礎）」で学んだ、う蝕予防法の基本的知識・技術をもとに、フッ化物の応用法と小窩裂溝処置法の手技を修得する。また、歯と口腔の健康を維持・増進のために継続的なメンテナンスの必要性を理解し、う蝕予防プログラムの実践の手技を修得する。									
到達目標	これまで「う蝕予防処置法（臨床基礎）」にて学んだ基本的な知識を踏まえて、様々なう蝕予防方法について演習を通じて、さらに理解を深めるとともに、その手技を身につける。また、個々人に合わせたう蝕予防プログラムの立案までのプロセスを理解し、実践する能力を身につける。									
学修者への期待等	①実習では身だしなみを整え、意欲的にのぞむこと。 ②提出物は、期日を守って提出すること。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	小窩裂溝充填法とは？（合同講義）				テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。（30分程度）				佐藤 聡子	
2	小窩裂溝充填法 模型実習（クラス別演習）				前回までの講義をよく復習したうえで、演習に臨むこと。（30分程度）				佐藤 聡子 伊藤 恵美 武山 真奈美	
3	フッ化物の応用（高濃度フッ化物塗布の方法・効果、フッ化ジアンミン銀塗布法） グループワーク				歯科衛生士シリーズ「保健生態学」5章フッ化物によるう蝕予防を読んで授業に臨むこと。（45分程度）				伊藤 恵美 武山 真奈美	
4	フッ化物歯面塗布法 相互演習①（クラス別演習）グループワーク				前回までの講義をよく復習したうえで、演習に臨むこと。（30分程度）				伊藤 恵美 武山 真奈美	
5	フッ化物歯面塗布法 相互演習②（クラス別演習）グループワーク				前回の演習を振り返ったうえで、演習に臨むこと。（30分程度）				伊藤 恵美 武山 真奈美	
6	う蝕活動性試験 演習①（クラス別演習）グループワーク				う蝕活動性試験の復習をして、演習に臨むこと。（30分程度）				伊藤 恵美 武山 真奈美	
7	う蝕活動性試験 演習②（データの解釈）（クラス別演習）グループワーク				前回の演習を振り返ったうえで、演習に臨むこと。（30分程度）				伊藤 恵美 武山 真奈美	
8	う蝕予防プログラムの立案（基本）（合同講義）				事前の指示に沿って、予習を行ったうえで、講義に臨むことが望ましい。（30分程度）				鷲尾 純平	
9	う蝕予防プログラムの立案（アドバンス）（合同講義）				事前の指示に沿って、予習を行ったうえで、講義に臨むことが望ましい。（30分程度）				鷲尾 純平	
10	まとめ・総復習				事前の指示に沿って、予習を行ったうえで、講義に臨むことが望ましい。（30分程度）				鷲尾 純平	
教科書	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献										
備考	2～7回は2クラスに分かれて演習を行う。2～7回目は8階演習室。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

【鷲尾・佐藤】歯科医師としての臨床経験、大学における教育経験を十分に有しており、その実務経験を活かし、う蝕予防及びその処置に関して具体的な授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-05				
		●								
科目名	歯周病予防法（臨床応用）				単位 認定者	伊藤 恵美		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業時間数	40 時間			
						授業回数	20 回			
授業の概要	「歯科予防処置法」「歯周病予防法（臨床基礎）」で学んだ、歯周病予防法の知識・技術をもとに、歯科衛生士としての専門知識・技術を修得し、相互演習を通して実践する力と態度を学ぶ。また、歯と口腔の健康を維持・増進のために継続的なメインテナンスの必要性を理解し、歯周管理の実践の手技を修得する。									
到達目標	歯周病予防と歯周管理の基礎知識を理解し、症例に合わせた実践の手技を修得する。									
学修者への期待等	1.身だしなみをきちんと整え、教科書等の忘れ物がないように授業に臨むこと。 2.欠席・欠課をしないよう意欲的臨んでほしい。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	歯周治療における歯科衛生士の役割（歯周治療の流れと歯科衛生士業務）メインテナンス、SPTの実際（歯周組織検査）業務記録の書き方				教本歯科予防処置論・歯科保健指導論Ⅱ編「③歯周病」をよく読んでおくこと。（45分程度）				伊藤 恵美	
2	歯周組織検査演習（患者1人目、2人目）グループワーク				歯周組織検査の復習をしておくこと。（45分程度） ・プロービングの基本操作 ・歯の動揺				伊藤 恵美 武山 真奈美 北村 麻衣	
3	歯周組織検査演習（患者3人目）グループワーク 相互実習説明（流れ、記録の記入について）								伊藤 恵美 武山 真奈美 北村 麻衣	
4	歯周組織検査、PTC演習（手用スケーラー、超音波スケーラー、歯面研磨）グループワーク（患者1人目）				前回までの実習記録をよく読んでおくこと。（45分程度）				伊藤 恵美 武山 真奈美 北村 麻衣	
5	歯周組織検査、PTC演習（手用スケーラー、超音波スケーラー、歯面研磨）グループワーク（患者2人目）								伊藤 恵美 武山 真奈美 北村 麻衣	
6	歯周組織検査、PTC演習（手用スケーラー、超音波スケーラー、歯面研磨）グループワーク（患者3人目）								伊藤 恵美 武山 真奈美 北村 麻衣	
7	手用スケーラーを用いたスクーリング演習（相互演習①②・マネキン実習③、相互演習②③・マネキン実習①） クラス別演習 グループワーク				手用スケーラーの基本操作について復習をしておくこと。（45分程度）				伊藤 恵美 武山 真奈美 北村 麻衣	
8	手用スケーラーを用いたスクーリング演習（相互演習①③、マネキン実習②、マネキン実習①②③） クラス別演習 グループワーク 次回相互実習説明								伊藤 恵美 武山 真奈美 北村 麻衣	
9	PTC相互演習 患者1人目（上下 術者交代） クラス別演習 グループワーク				シラバス4～6回目の実習記録をよく読んでおくこと。（30分程度）				伊藤 恵美 武山 真奈美 北村 麻衣	
10	PTC相互演習 患者2人目（上下 術者交代） クラス別演習 グループワーク								伊藤 恵美 武山 真奈美 北村 麻衣	
11	PTC相互演習 患者3人目（上下 術者交代） クラス別演習 グループワーク								伊藤 恵美 武山 真奈美 北村 麻衣	

回	授業計画	準備学修	担当
12	PTC相互演習 患者3人目（上下 術者交代） クラス別演習 グループワーク	シラバス4～6回目の実習記録をよく読んでおくこと。（30分程度）	伊藤 恵美 武山 真奈美 北村 麻衣
13	SRP後の評価と処置 演習1 ①イリゲーション ②EPP ③超音波スケーラー クラス別演習 グループワーク	教本 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学で、永久歯の形態学的特徴を復習しておくこと。（45分程度）	伊藤 恵美 武山 真奈美 北村 麻衣
14	SRP後の評価と処置 演習2 ①イリゲーション ②EPP ③超音波スケーラー クラス別演習 グループワーク	教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論P202「5）イリゲーション（洗浄）」、P218「7）（3）歯周ポケット内のイリゲーション（洗浄）」をよく読んでおくこと。	伊藤 恵美 武山 真奈美 北村 麻衣
15	SRP後の評価と処置 演習3 ①イリゲーション ②EPP ③超音波スケーラー クラス別演習 グループワーク	パワースケーラーの基本操作について復習しておくこと。（60分程度）	伊藤 恵美 武山 真奈美 北村 麻衣
16	手用スケーラー シャープニング クラス別演習	教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論P202「6）シャープニング」をよく読んでおくこと。（45分程度）	伊藤 恵美 武山 真奈美 北村 麻衣
17	SRP 相互演習3 患者1人目（上下 術者交代） クラス別演習 評価 グループワーク	前回までの実習記録をよく読んで復習しておくこと。（60分程度）	伊藤 恵美 武山 真奈美 北村 麻衣
18	SRP 相互演習3 患者2人目（上下 術者交代） クラス別演習 評価 グループワーク		伊藤 恵美 武山 真奈美 北村 麻衣
19	SRP 相互演習3 患者3人目（上下 術者交代） クラス別演習 評価 グループワーク		伊藤 恵美 武山 真奈美 北村 麻衣
20	手用スケーラーの固定法（口腔外固定、保持固定） クラス別演習 グループワーク	教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論P189「（4）固定」をよく読んでおくこと。（30分程度）	伊藤 恵美 武山 真奈美 北村 麻衣
教科書	『歯科衛生士シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
参考文献	『歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
備考	シラバス1回目は合同講義、2～20回目は実習室でクラス別演習を行う。16回目は7階演習室、2～6、8～20回目は8階演習室。 授業の冒頭で目標を示し授業の最後にまとめを行う。演習レポート・課題は提出期限厳守。添削後、返却する。 授業の進捗状況により順番が前後することがある。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

歯科診療所で勤務経験のある教員が、歯周病予防法の専門的知識と技術を指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-09					
		●	●								
科目名	保健指導演習Ⅲ（臨床総合）					単位 認定者	佐藤陽子 大宮由布子 伊藤明日香		評価の 方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位	受講態度		10 %	
						授業時間数 <td>60 時間</td> <td>授業内課題</td> <td>10 %</td>	60 時間	授業内課題		10 %	
				授業形態	演習	授業回数	30 回				
授業の概要	「保健指導論」、「保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）」、「保健指導演習Ⅱ（臨床応用）」を通して学んだ内容について、歯科衛生過程を用いて、実践する能力を身につける。										
到達目標	①各症例または事例における問題発見、解決方法を選択できる能力と口腔健康管理方法の知識、技術、態度を修得する。 ②歯科衛生過程に基づいた情報収集、ケア計画立案を行い、対象者に合わせた介入ができる。 ③計画内容および介入について評価・検討ができる。 ④口腔清掃指導の意義を理解し、継続した歯科衛生介入ができる。										
学修者への 期待等	欠席せずに意欲を持って臨み、予習・復習をしっかりと行い受講して欲しい。										
回	授業計画					準備学修				担当	
1	口腔衛生用具検討実習Ⅰ（歯ブラシ、補助清掃用具）					Ⅲ編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導P268～P280①口腔衛生管理に関わる指導 2年次に学修した内容を復習して授業に臨むこと。（40分程度）				佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香	
2	口腔衛生用具検討実習Ⅱ（症例検討、口腔衛生用具の選択、TBI）					前時に学修した内容を復習して授業に臨むこと。（30分程度）				佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香	
3	歯科衛生過程の展開					歯科予防処置・歯科保健指導論 教科書Ⅲ編2章P121～と2年次の歯科衛生過程演習を復習して授業に臨むこと。（30分程度）				佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香	
4	歯科衛生過程 事例検討					前時の講義内容および歯科予防処置・歯科保健指導論教科書Ⅲ編2章P121～を復習して授業に臨むこと。（30分程度）				佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香	
5	歯科衛生過程演習Ⅰ 1・3合同実習概要説明									大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香	
6	歯科衛生過程演習Ⅰ 1・3合同実習 相互演習(1)/(術者1人目)									大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子	
7	歯科衛生過程演習Ⅰ 1・3合同実習 相互演習(2)/(術者2人目)									大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子	
8	歯科衛生過程演習Ⅰ 1・3合同実習 相互演習(3)/(術者3人目)									大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子	
9	歯科衛生過程演習Ⅰ 1・3合同実習 相互演習(4)/(術者4人目)					歯科衛生過程1で実践した内容の見直しを行い、授業に臨むこと。（40分程度）				大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子	
10	歯科衛生過程演習Ⅱ 1・3合同実習 相互演習(5)/(術者1人目)									大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子	
11	歯科衛生過程演習Ⅱ 1・3合同実習 相互演習(6)/(術者2人目)									大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子	
12	歯科衛生過程演習Ⅱ 1・3合同実習 相互演習(7)/(術者3人目)					歯科衛生過程演習Ⅱで実施した内容についてプレゼンテーションできる準備をして授業に臨むこと。（60分程度）				大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子	
13	歯科衛生過程演習Ⅱ 1・3合同実習 相互演習(8)/(術者4人目)									大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子	
14	歯科衛生過程演習Ⅱ （口腔衛生指導の評価） プレゼンテーション演習(1)/Aグループ					歯科衛生過程演習Ⅱで実施した内容についてプレゼンテーションできる準備をして授業に臨むこと。（60分程度）				佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香 穴戸 敦子	
15	歯科衛生過程演習Ⅱ （口腔衛生指導の評価） プレゼンテーション演習(2)/Bグループ									佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香 穴戸 敦子	

回	授業計画	準備学修	担当
16	歯科衛生過程演習Ⅱ (口腔衛生指導の評価) プレゼンテーション演習(3)/Cグループ	歯科衛生過程演習Ⅱで実施した内容についてプレゼンテーションできる準備をして授業に臨むこと。(60分程度)	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香 穴戸 敦子
17	在宅訪問口腔衛生管理 (口腔清掃方法、清掃用具の選択他)	高齢者教科書Ⅳ編 3章 要介護高齢者への口腔ケア P138～151を復習し授業に臨むこと。(30分程度)	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香
18	在宅訪問口腔衛生管理 相互実習		佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香
19	口腔健康管理 口腔機能低下症 事例検討・演習	歯科予防処置・歯科保健指導論教科書P153～P157を読んでおくこと。P360～P371を復習して授業に臨むこと。(30分程度)	大宮 由布子
20	口腔健康管理 生活習慣の指導 ①非感染性疾患 ②禁煙支援 事例検討	歯科予防処置・歯科保健指導論教科書P289～P301を読んでおくこと。(30分程度)	大宮 由布子
21	地域歯科保健活動 災害時の歯科保健 大規模災害時の保健医療対策	保健生態学教科書P317～324、保健指導Ⅲ編1章4健康危機管理P387～393 8章 災害時の歯科保健を読んでおくこと。(40分程度)	大宮 由布子 阿部 夕
22	地域保健活動 災害時の歯科保健 グループワーク		大宮 由布子 阿部 夕
23	症例検討 X線読影 グループワーク	2年次の臨床科目(放射線学、歯周病学他)を復習しておくこと。(40分程度)	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香 穴戸 敦子
24	歯科衛生過程演習Ⅲ 客観的臨床能力の判断 概要説明	3年間で学習した内容を復習して臨んでください。(30分程度)	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香 穴戸 敦子
25	歯科衛生過程演習Ⅲ 客観的臨床能力の判断 相互演習(9)/術者1人目		佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香 穴戸 敦子
26	歯科衛生過程演習Ⅲ 客観的臨床能力の判断 相互演習(10)/術者2人目		佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香 穴戸 敦子
27	歯科衛生過程演習Ⅲ 客観的臨床能力の判断 相互演習(11)/術者3人目		佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香 穴戸 敦子
28	口腔衛生管理 (PCR、TBI) 相互演習(12)/術者1人目	これまでの授業および2年次で学修した内容を復習し、授業に臨むこと。(30分程度)	大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子
29	口腔衛生管理 (PCR、TBI) 相互演習(14)/術者2人目		大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子
30	口腔衛生管理 (PCR、TBI) 相互演習(15)/術者3人目		大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 穴戸 敦子
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生ケアプロセス実践ガイド』佐藤陽子 齋藤淳編著 医歯薬出版株式会社		
参考文献	授業内で適宜紹介する。		
備考	シラバス1、2、17、18回目はクラス別で演習 (7階) シラバス3～5、19～24回目は合同で教室 14～16回目クラス別教室 (4か所) シラバス6～13、25～30回目はクラス別実習 (8階) レポートおよび課題は添削後、授業内で総括する。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

歯科診療所で勤務実績のある教員が、各症例に対して具体的な口腔衛生管理および口腔機能管理について実践的技術を指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング DH-2-DHP-11				
		●								
科目名	口腔リハビリテーション演習				単位 認定者	佐藤 陽子		評価 の方法	試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	3 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	20 時間			
					授業形態	演習	授業回数		10 回	
授業の概要	摂食・嚥下のしくみとそれにかかわる障害についての歯科衛生士としての役割を理解する。口腔の問題・障害を克服する口腔リハビリテーションについて障害別に学び、ディスカッションを交えてプログラムを立案する。さらに相互演習を通じて技術の修得に努める。									
到達目標	口腔リハビリテーションチームの中での歯科衛生士の役割を理解する。									
学修者への 期待等	口腔リハビリテーションは、患者様の健康とQOLに密接に関わる領域であり、チームの一員として患者様の食に関わります。真摯な態度で学んでいただくことを希望します。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	摂食嚥下障害に対する訓練計画 症例検討準備					教科書Chapter11摂食嚥下訓練を読んでおくこと。(30分程度)			佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香	
2	摂食嚥下障害の対応1 症例検討					前回の授業の内容を復習しておくこと。			佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香	
3	摂食嚥下障害の対応2 症例発表					前回の授業の内容を復習しておくこと。			佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香	
4	歯科衛生士の行う専門的な口腔ケア1 リスクマネジメント概要					教科書Chapter7リスクマネジメントを読んでおくこと。(30分程度)			佐藤 陽子 伊藤 明日香	
5	歯科衛生士の行う専門的な口腔ケア2 吸引器の取り扱い相互実習					教科書Chapter10摂食嚥下リハビリテーションと口腔衛生管理を読んでおくこと。(30分程度)			佐藤 陽子 伊藤 明日香	
6	歯科衛生士の行う専門的な口腔ケア3 臥床時の口腔ケア相互実習					前回の授業の内容を復習しておくこと。			佐藤 陽子 伊藤 明日香	
7	摂食嚥下障害に対する直接訓練 食介助					教科書Chapter11-3摂食訓練(直接訓練)の選択と実施を読んでおくこと。(30分程度)			佐藤 陽子 伊藤 明日香	
8	急性期・回復期の摂食嚥下リハビリテーション「歯科衛生士の役割」					前回の授業内容を復習しておくこと。(30分程度)			児玉 俊恵	
9	摂食嚥下リハビリテーションへの取り組み(症例:小児障害児)					教科書Chapter12歯科衛生士が行う摂食嚥下リハビリテーションの基本を読んでおくこと。(30分程度)			佐藤 陽子	
10	摂食嚥下リハビリテーションへの取り組み(総括)					前回までの授業内容を復習しておくこと。(30分程度)			佐藤 陽子	
教科書	『歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版』日本歯科衛生士会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『口から食べる-嚥下障害Q&A』藤島一郎著、中央法規出版株式会社									
備考	シラバス1、4、7～10回は教室で合同講義。シラバス2、3回は言語聴覚学科と合同授業。シラバス5、6回は連続して言語聴覚学科演習室にて実習。レポートおよび課題は添削後、授業内で総括する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-15				
		●	●							
科目名	歯科診療補助演習Ⅲ（臨床総合）				単位認定者	花 潤 静 西 條 佳奈		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3 年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	40 時間			
				授業形態	演習	授業回数	20 回			
授業の概要	歯科衛生士が歯科臨床現場で求められる個々の知識や技能を高めるため、小児から高齢者までの各年齢での設定、患者の全身疾患の種類の設定、さらには臨床歯科医学に相当するさまざまな歯科治療の設定をした模擬患者症例に対して、その患者中心とした歯科診療の展開を具体的にマネジメントできる応用力を身につける。									
到達目標	・臨床の場に対応できる基本技術から応用技術までを修得する。 ・各治療内容における必要器材セッティングの基礎的知識及び技術を学ぶ。									
学修者への期待等	欠席せずに意欲を持って臨み、予習・復習をしっかりと行ってほしい。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	バイアル・アンプルの取り扱い N95マスク装着方法／滅菌ガウンの着脱演習				『口腔外科・歯科麻酔学』Ⅲ編 2 章-②局所麻酔時の業務、Ⅰ編10章-⑦縫合処置について読み授業に臨むこと。（40分程度）				花 潤 静 西 條 佳奈 三 浦 悦子	
2	口腔外科器材の取り扱い演習								花 潤 静 西 條 佳奈 三 浦 悦子	
3	アルジネート印象材による概形印象採得／各種咬合採得材料による咬合採得 相互演習 （演習概要説明／術者1人目）				『歯科診療補助論』Ⅰ編第5章-2．アルジネート印象材による概形印象採得を読み、術式および使用器材を理解し、授業に臨むこと。（40分程度）				西 條 佳奈 三 浦 悦子 矢 戸 敦子	
4	アルジネート印象材による概形印象採得／各種咬合採得材料による咬合採得 相互演習 （術者2人目、3人目／演習まとめ）				『歯科診療補助論』Ⅰ編第5章-2．アルジネート印象材による概形印象採得を読み、術式および使用器材を理解し、授業に臨むこと。（40分程度）				西 條 佳奈 三 浦 悦子 矢 戸 敦子	
5	光学印象（口腔内スキャナー） 基礎講義／基礎演習				光学印象（口腔内スキャナー）がどのような場面で使用されているか、また、その他の印象採得法との違いを調べてくること。（30分程度）				花 潤 静 西 條 佳奈	
6	光学印象（口腔内スキャナー） 相互演習（1） （演習内容説明／術者1人目）				シラバス5回目の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（30分程度）				花 潤 静 西 條 佳奈	
7	光学印象（口腔内スキャナー） 相互演習（2） （術者2人目／術者3人目／演習まとめ）								花 潤 静 西 條 佳奈	
8	歯科矯正治療時の診療補助 基礎知識（使用器材の名称と用途）				『歯科矯正学』Ⅰ編6章矯正装置を読み授業に臨むこと。（60分程度）				花 潤 静 三 浦 悦子	
9	歯科矯正治療時の診療補助 器材の取り扱い演習（ブラケット装着方法）				『歯科矯正学』Ⅲ編2章矯正歯科診療時の業務を読み授業に臨むこと。また、シラバス第8回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）				花 潤 静 三 浦 悦子	
10	歯科矯正治療時の診療補助 器材の取り扱い演習（ブラケット撤去方法）				『歯科矯正学』Ⅰ編6章矯正装置、Ⅲ編2章矯正歯科診療時の業務を読み授業に臨むこと。また、シラバス第8・9回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（40分程度）				花 潤 静 三 浦 悦子	

回	授業計画	準備学修	担当
11	接着性レジンセメントの基礎知識／暫間固定マネキン実習	『歯科診療補助論』Ⅰ編5章③-合着・接着の補助、『歯科材料』Ⅱ編第4章③-接着性レジンセメントの種類と用途を読み授業に臨むこと。（40分程度）	西條 佳奈 三浦 悦子
12	寒天・アルジネートによる精密印象採得 相互演習（応用演習） （演習手順説明／術者1人目）	『歯科診療補助論』Ⅰ編5章①-3.寒天印象採得の補助を読みアルジネート練和から寒天印象注入、採得までの流れを施術者のみで実施できるように事前準備をしておくこと。（60分程度）	西條 佳奈 三浦 悦子
13	寒天・アルジネートによる精密印象採得 相互演習（応用演習） （術者2人目、3人目／演習まとめ）		西條 佳奈 三浦 悦子
14	暫間被覆物作製演習 ／口腔内写真撮影 相互演習（1） （演習手順説明／術者1人目）	2グループ交代で実習するため、該当実習前に各自『歯科材料』Ⅱ編第7章暫間修復材と仮着用セメント、『歯科診療補助論』Ⅰ編第3章⑤-2.口腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯科保健指導論』Ⅲ編第2章⑧-2.写真・画像を読み授業に臨むこと。（30分程度）	花刈 静 西條 佳奈 三浦 悦子 穴戸 敦子
15	暫間被覆物作製演習 ／口腔内写真撮影 相互演習（2） （術者2人目）		花刈 静 西條 佳奈 三浦 悦子 穴戸 敦子
16	暫間被覆物作製演習 ／口腔内写真撮影 相互演習（3） （術者3人目）	2グループ交代で実習するため、該当実習前に各自『歯科材料』Ⅱ編第7章暫間修復材と仮着用セメント、『歯科診療補助論』Ⅰ編第3章⑤-2.口腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯科保健指導論』Ⅲ編第2章⑧-2.写真・画像を読み授業に臨むこと。また、シラバス第14、15回目の授業資料および実習記録を確認しておくこと。（30分程度）	花刈 静 西條 佳奈 三浦 悦子 穴戸 敦子
17	暫間被覆物作製演習 ／口腔内写真撮影 相互演習（4） （演習まとめ）		花刈 静 西條 佳奈 三浦 悦子 穴戸 敦子
18	補綴歯科治療における各種検査 基礎知識	『歯科補綴学』Ⅱ編1章④咬合と顎口腔機能の検査を読んで授業に臨むこと。（30分程度）	花刈 静 三浦 悦子
19	補綴歯科治療における各種検査 相互演習		花刈 静 三浦 悦子
20	歯間分離法および成形歯冠修復材 マネキン演習	『保存修復学・歯内療法学』Ⅱ編1章⑤-3.歯間分離法、7.隔壁法、『歯科診療補助論』Ⅰ編4章①-2.保存修復時の例と診療補助の流れ読み授業に臨むこと。（40分程度）	花刈 静 三浦 悦子
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科材料』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科機器』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
参考文献	授業の中で適宜紹介する。		
備考	クラス別で演習を行う。1・2回、6・7回、12・13回、14・15回、16・17回、18・19回は連続での演習を8階実習室で行う。 なお、授業の進捗状況により順番が前後することがある。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

歯科診療所で勤務経験のある教員が、器材の安全な取り扱いと診療に応じた患者対応について指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-18					
	●	●									
科目名	救急法・救急蘇生法				単位認定者	下田 元 菅原 一昭		評価の方法	試験（筆記）	35	%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		試験（実技）	65	%
						授業時間数	30 時間				
					授業形態	講義	授業回数		15 回		
授業の概要	救急処置と蘇生法の基礎を学び、歯科医療スタッフの一員として現場で応用できるようになることを目的とする。										
到達目標	歯科の臨床現場で、緊急時、正しい救急処置と心肺蘇生法を行うことができるようにする。										
学修者への期待等	教科書などで関連内容を熟読し復習してください。歯科口腔外科臨床で患者さんの安心、安全な全身管理を行うための重要な科目です。身近な人が突然倒れたときに、救急救命の知識があれば命を救うことができます。無知であれば、救急車が到着するまでなすすべがなく救うことができません。後で後悔しない為にも、救急救命法を学んで頂きたい。										
回	授業計画					準備学修				担当	
1	ガイダンス(評価方法。受講するにあたっての心構え)応急手当の重要性。(目的・必要性・救命処置・心肺蘇生)					【事後】本時内容の復習(概ね1時間)をし、次回に備える。				菅原一昭	
2	応急手当の重要性。救命の処置(心肺蘇生・AEDについて)					【事後】本時内容の復習(概ね1時間)をし、次回に備える。				菅原一昭	
3	特殊な傷病とその応急手当(歯の損傷・溺水・熱中症・感電 アキレス腱断裂・RICE処置)、気道異物除去(成人)					【事後】本時内容の復習(概ね1時間)をし、次回に備える。				菅原一昭	
4	気道異物除去(乳児)、搬送法・保温法・応急担架					【事後】本時内容の復習(概ね1時間)をし、次回に備える。				菅原一昭	
5	心肺蘇生法について、胸骨圧迫(成人)					【事後】本時内容の復習(概ね1時間)をし、次回に備える。				菅原一昭	
6	止血法、心肺蘇生法(成人)の手順					【事後】本時内容の復習(概ね1時間)をし、次回に備える。				菅原一昭	
7	子どもの応急手当(止血法)					【事後】本時内容の復習(概ね1時間)をし、次回に備える。				菅原一昭	
8	心肺蘇生法の実技(成人) 乳幼児の一次救命処置(PBLS)の手順					【事後】本時内容の復習(概ね1時間)をし、次回に備える。				菅原一昭	
9	心肺蘇生法の実技(成人)実技、AED					【事前】実技効果確認に備えて、理解してくる(概ね1時間)。				菅原一昭	
10	実技効果確認、総括					【事前】実技効果確認に備えて、理解してくる(概ね1時間)。				菅原一昭	
11	バイタルサインの評価、心肺蘇生法(BLS)の知識・手技の修得					教科書、講義資料などで関連内容を予習、復習し授業に臨んでください。(概ね1時間)				下田 元	
12	歯科口腔外科診療時の局所的・全身的偶発症、その症状、重症度評価、救急初期対処法、全身管理の修得					教科書、講義資料などで関連内容を予習、復習し授業に臨んでください。(概ね1時間)				下田 元	
13	全身的基礎疾患を有する歯科口腔外科患者の病態評価、全身管理、発症時の緊急処置、救急対処法の修得					教科書、講義資料などで関連内容を予習、復習し授業に臨んでください。(概ね1時間)				下田 元	
14	局所麻酔法、精神鎮静法、全身麻酔法、および、周術期患者管理、周術期合併症と緊急処置、救急対処法の修得					教科書、講義資料などで関連内容を予習、復習し授業に臨んでください。(概ね1時間)				下田 元	
15	インシデント・アクシデント報告、医療事故と法的責任、歯科口腔外科患者の全身管理で歯科衛生士に期待される役割についての理解					教科書、講義資料などで関連内容を予習、復習し授業に臨んでください。(概ね1時間)				下田 元	
教科書	『歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 菅原担当分はテキストは特に指定せず、随時プリントをこちらで準備する。										
参考文献	特に指定しない										
備考	下田：講義ごとにその講義内容に関連する資料を配布します。知識の整理、復習、応用に繋げる習慣を身に付けてください。 菅原：◎実技時、服装は白衣。ナースシューズ。髪は後ろで結ぶ。必要に応じ授業内容に関連する資料を配布します。(菅原担当分はクラス別で授業を実施する)◎授業で理解できなかったこと等の質問に関しては本館2階職員室(菅原)で対応する。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

【下田】歯科麻酔専門医、日本蘇生学会指導医として、歯科口腔外科周術期の麻酔科臨床(全身麻酔管理・静脈内鎮静管理など)、救急対処、および全身的基礎疾患患者の全身管理・緊急処置などに携わってきた。その多様な臨床症例の実務経験を基盤に、救急法・救急蘇生法に関する講義を系統的に分かりやすく実践する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング DH-2-DHP-21				
	●	●								
科目名	審美歯科演習				単位 認定者	花 渕 静		評価の方法	試験（筆記）	90 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	3 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	10 %
						授業時間数	20 時間			
					授業形態	演習	授業回数		10 回	
授業の概要	顎口腔系における形態美、色彩美、機能美の調和など審美歯科学の概要を学び、審美歯科治療における歯科衛生士の関わり方を理解する。また、現在多くの歯科医院で行われているホワイトニングについての基本的な知識を学び、各メーカー別のホワイトニング材の効果や安全性について演習を通して理解する。									
到達目標	歯科診療補助におちて歯科衛生士が行うホワイトニングの知識およびそれらに使用する歯科材料の理解と共に、操作技術を修得する。									
学修者への期待等	1. 欠席・欠課をしないよう意欲を持って授業に臨んで欲しい 2. 身だしなみをきちんと行い、忘れものをないようにしてほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	遠隔【オンデマンド】 審美歯科学総論									
2	遠隔【オンデマンド】 審美歯科治療における歯科衛生士の役割									
3	ホームホワイトニングカスタムトレー作製実習(1)(実習手順説明／術者1人目)					シラバス2回目で配信した事前準備を閲覧してから授業に臨むこと。(20分程度)				
4	ホームホワイトニングカスタムトレー作製実習(2)(術者2人目／3人目／実習まとめ)									
5	オフィスホワイトニング(ティオンオフィス)相互実習(1)(実習手順説明／術者1人目)									
6	オフィスホワイトニング(ティオンオフィス)相互実習(2)(術者2人目／3人目／実習まとめ)					シラバス5回目の授業配布資料を読み授業に臨むこと。(20分程度)				
7	オフィスホワイトニング(オパールエッセンスBOOST)相互実習(1)(実習手順説明／術者1人目)									
8	オフィスホワイトニング(オパールエッセンスBOOST)相互実習(2)(術者2人目／3人目／実習まとめ)					シラバス7回目の授業配布資料を読み授業に臨むこと。(20分程度)				
9	デンタルエステ(LIPエステ／リフレクソロジー：口内マッサージ)									
10	遠隔【オンデマンド】 審美歯科治療における症例別検討および審美歯科の考え方について									
教科書	プリント配布									
参考文献	『新版 歯科衛生士のためのホワイトニング』近藤隆一編著、加藤久子著：医歯薬出版株式会社 『歯科衛生士 ベーシックスタンダード 審美歯科』末瀬一彦、土屋和子、南 昌宏、宮崎 真至 編著：医歯薬出版株式会社									
備考	シラバス1・2・10回目は遠隔【オンデマンド】による講義、シラバス3・4回、5・6回、7・8回はそれぞれ連続でクラス別演習、シラバス9回目はクラス別演習									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

歯科診療所で勤務経験のある教員が、審美歯科の概要と歯科衛生士が行うホワイトニングの知識、使用する歯科材料および操作技術を指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング DH-2-CLT-03				
		●	●	●	●					
科目名	臨地実習Ⅲ（臨床総合）				単位 認定者	伊藤恵美 佐藤陽子 大宮由布子 花渕静 武山真奈美 西條佳奈 伊藤明日香		評価の方法	実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3 年	開講時期	通年	単位数	8 単位			
				授業形態	実習	授業時間数	360 時間			
						授業回数	集中			
授業の概要	本科目では、各医療機関での臨床実習、及び、教育機関、福祉施設での臨地実習を行う。1年次及び2年次で修得した学習内容をもとに、医療機関、教育機関、福祉施設での実習において自己を客観的に評価し、自らを向上させることのできる能力を身につける。さらに、福祉施設実習では、公衆衛生活動における福祉施設の役割を理解するとともに、利用者の口腔ケアの重要性を理解し、援助できる技術を修得する。これらを通して口腔衛生の専門職として、歯科衛生士に求められる責任感、誠実性、積極性、協調性、判断力を培い、実践能力を養う。									
学修者への期待等	1) 各施設における歯科衛生士の業務を実践することで歯科衛生士の役割を理解してください。 2) 修得した学修内容を応用し、実践的な知識、技術などを身につけてください。 3) 自己を客観的に評価し、自らを向上させることのできる能力を身につけてください。									
授業計画										
1. 実習期間 (1) 歯科診療所(2) 病院歯科(3) 矯正歯科診療所(4) 障害者歯科・訪問歯科診療所 (5) 高齢者施設実習:5～10月 (6) 小学校集団歯科保健指導実習(3年生・1年生の合同実習):1日間										
2. 実習の目標 医療人としての人間性や倫理観、コミュニケーション能力を習得するために、現場における歯科衛生士の役割を理解し、口腔保健を担う専門職としての知識・技術・態度を身につける。 (1) 歯科診療所 ・歯科診療所における歯科衛生士の役割について理解する。 ・歯科診療において各症例別の診療の流れを把握し、歯科診療補助の実践力を身につける。 ・歯科衛生士が行うメンテナンス管理について、臨床現場においてさらに理解を深め、自らも実践できる。 ・3年間学んだ知識および技術を臨床現場で確認し、自己の客観的評価と自らを向上させることのできる能力を身につける。 (2) 病院 ・病院歯科における歯科衛生士の役割と業務について理解する。 ・全身疾患をもつ患者様に対しての健康状態の把握や基礎疾患の理解とともに歯科診療補助の実践力を身につける。 ・口腔外科手術の術前・術中・術後の患者管理および各症例の診療補助の手技を習得する。 ・臨床現場において自己の知識や技術を客観的に評価し、自らを向上させることができる。 (3) 矯正歯科診療所 ・矯正歯科治療の目的および方法について理解する。 ・各症例を通して矯正歯科治療の目標と流れを理解する。 ・矯正歯科診療時の歯科衛生士業務について理解する。 ・矯正歯科患者に対する口腔保健管理を理解する。										

授業計画	
(4) 障害者歯科・訪問歯科診療所 ・障害者・在宅患者の口腔機能の向上と、QOLの向上に必要な口腔ケアの技能を習得するために、本人および介助者への対応と援助の能力を養う。 (5) 高齢者施設実習（介護老人保健施設・特別養護老人ホーム） 高齢者施設の概要及び歯科衛生士の関わりを理解し、要介護高齢者の口腔機能管理について学ぶ。 ・施設入居者および利用者の社会的背景を理解する。 ・施設入居者の身体的精神的ニーズを理解する。 ・施設における多職種協働について理解する。 ・歯科衛生士の役割および業務内容について理解する。 ・対象者に応じた口腔ケアプランの作成方法および歯科衛生介入方法を理解する。 (6) 小学校集団歯科保健指導実習 小学校における健康教育を実施するにあたり、歯科保健指導の具体的な方法を学ぶ。 ・対象学年に合わせた歯科保健指導計画の立案ができる。 ・指導計画に添って教材・教具を活用し指導ができる。 ・対象学年の児童に対してわかりやすい言葉、にこやかな表情で話を展開できる。 ・歯科保健指導において、動画教材を用いた指導方法を実践できる。 3. 実習計画 (1) 歯科診療所 (2) 病院歯科 (3) 矯正歯科診療所 実習項目) ・臨地実習Ⅰ、Ⅱで学んだ内容をもとに実践的な知識・技術の修得 (4) 障害者歯科・訪問歯科診療所 実習項目) ・障害者・在宅患者の要介護度と全身状態の理解 ・障害者・在宅患者の口腔内と口腔ケア内容の理解 ・専門的口腔ケアの見学及び介助 (5) 高齢者施設実習（介護老人保健施設・特別養護老人ホーム） 実習項目) ・施設利用者の要介護度と全身状態の理解 ・施設利用者の口腔内と口腔ケア内容の理解 ・専門的口腔ケアの見学及び介助 (6) 小学校集団保健指導実習 実習項目) ・学年に合わせた歯科保健指導案の作製 ・児童に対する口腔衛生集団指導の実施 ・3年生による下級生へのアクティブラーニングの実施	
教科書	1～3年次で、専門展開科目で使用する各教科書
参考文献	適宜授業内で紹介する。
備考	実習終了後に、実習報告会を実施する。この報告会で実習の振り返りを行い、実習評価について総括する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング DH-2-CLT-12				
		●	●	●						
科目名	臨地実習指導（臨床総合）				単位 認定者	花 淵 静		評価の方法	レポート	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3 年	開講時期	通年	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	臨地実習Ⅲ（臨床総合）の事前・事後指導を行う。事前指導では臨地実習Ⅱ（臨床応用）を踏まえ、社会人となる上で必要となる実践力、研究力の育成を目指す。事後指導では実習の反省を踏まえ、自己の課題を見出しながら、必要となる事柄の修得のための学びを深める。									
到達目標	臨地実習の目的および各実習施設の特徴や対象者を理解し、それぞれに応じた行動、技術の実践ができる。また、事前課題や実習の反省を踏まえ自己の課題を見出し解決できる能力を身につける。									
学修者への期待等	集団指導においては、各実習施設や対象者を理解し、それぞれに合わせた指導内容の計画と実践ができること。臨床においては、様々な患者様への対応とスタッフとの連携がとれるコミュニケーション能力を身につけること。実習メンバーとのコミュニケーションを円滑にし、事前課題および準備や計画を怠らず、真面目に取り組むこと。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	3年生臨地実習の目的・概要				自身が選択した実習施設の特色・概要を調べておくこと。（概ね60分）				花 淵 静	
2	ホスピタリティとは ～ホスピタリティマインドの発揮～				ホスピタリティについて詳しく調べておくこと。（概ね30分）				今井 恵美子	
3	『症例を診る』とは				歯科衛生学シリーズ『口腔外科学・歯科麻酔』、『保存修復・歯内療法』『歯科補綴』『歯科矯正』の教科書より自身が2年次の臨地実習で診た症例をまとめてくること。（概ね60分）				花 淵 静	
4	臨地実習Ⅰ ケースプレゼンテーション大会				実習時の1症例についてプレゼンテーションの準備をしておくこと。（概ね120分）				大宮由布子/花淵静 武山真奈美/西條佳奈 伊藤明日香	
5										
6	臨地実習Ⅰにおける振り返り【実習評価から自分の実習態度を振り返る】				実習日誌を事前にみて自己の振り返りをしておくこと。（概ね30分）				花 淵 静	
7	臨地実習Ⅱの実習目標の設定				シラバス6回目の実習評価をうけ臨地実習Ⅱに臨むための実習目標を設定しておくこと。（概ね60分）				花 淵 静	
8	臨地実習Ⅱ ケースプレゼンテーション大会				実習時の1症例についてプレゼンテーションの準備をしておくこと。（概ね120分）				大宮由布子/花淵静 武山真奈美/西條佳奈 伊藤明日香	
9										
10	臨地実習Ⅱにおける振り返り【実習評価から自分の実習態度を振り返る】				実習日誌を事前にみて自己の振り返りをしておくこと。（概ね30分）				花 淵 静	
11	臨地実習Ⅲの実習目標の設定				シラバス10回目の実習評価をうけ臨地実習Ⅱに臨むための実習目標を設定しておくこと。（概ね60分）				花 淵 静	
12	臨地実習Ⅲ①ケースプレゼンテーション大会				実習時の1症例についてプレゼンテーションの準備をしておくこと。（概ね120分）				大宮由布子/花淵静 武山真奈美/西條佳奈 伊藤明日香	
13	臨地実習Ⅲ②ケースプレゼンテーション大会 臨地実習Ⅲにおける振り返り 【実習評価から自らの実習態度を振り返る】									
14	上杉山通小学校 集団保健指導実習の目的および概要				『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』V編1章P396～P411を読んで授業に臨むこと。（概ね30分）				花 淵 静	
15	上杉山通小学校（グループワーク） 保健指導計画の立案									
教科書	歯科衛生学シリーズ 『歯科予防処置論・歯科保健指導論』『歯科診療補助論』『歯科機器』『歯科材料』『口腔外科学・歯科麻酔』『臨床検査』『歯科補綴学』『歯科矯正学』『小児歯科学』『保存修復・歯内療法』『高齢者歯科学』『障害者歯科学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献										
備考	授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。 シラバス4・5回、8・9回、12・13回、14・15回は連続の授業とする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング DH-2-RDH-01				
	●									
科目名	歯科衛生研究法Ⅰ（臨床基礎）				単位 認定者	小野寺 健		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	歯科衛生の実践場面で遭遇する問題を自ら解決していくため、3年間で学んだ知識と技術を整理する。歯科衛生士として必要な総合的能力を修得することを目的とする。また、本教科では、臨床歯科につながる基礎的な知識と技術の整理も行う。									
到達目標	3年間で学んだ知識の総まとめを行う。									
学修者への期待等	教科書などによる予習・復習を行い、授業内容を十分に理解することを望む。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	地域福祉保健(地域保健)1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(1時間程度)				石河 理紗	
2	地域福祉保健(地域保健)2(各論のまとめ)								石河 理紗	
3	歯科放射線学1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(1時間程度)				飯久保 正弘	
4	歯科放射線学2(各論のまとめ)								飯久保 正弘	
5	栄養学1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(1時間程度)				中村 吉孝	
6	病理学(まとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(1時間程度)				小野寺 健	
7	う蝕予防法1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(1時間程度)				鷺尾 純平	
8	栄養学2(各論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(1時間程度)				中村 吉孝	
9	薬理学1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(1時間程度)				北村 麻衣	
10	う蝕予防法2(各論のまとめ)								鷺尾 純平	
11	薬理学2(各論のまとめ)								北村 麻衣	
12	社会福祉論1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(1時間程度)				野口 美雪	
13	口腔リハビリテーション1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(1時間程度)				中川 大介	
14	社会福祉論2(各論のまとめ)								野口 美雪	
15	口腔リハビリテーション2(各論のまとめ)								中川 大介	
教科書	『歯科衛生士国家試験ポイントチェック①人体の構造と機能／歯・口腔の構造と機能／疾病の成り立ち及び回復過程の促進 令和4年版出題基準準拠』歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『歯科衛生士国家試験ポイントチェック②歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 令和4年版出題基準準拠』歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『歯科衛生士国家試験ポイントチェック③歯科衛生士概論／臨床歯科医学 上 令和4年版出題基準準拠』歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『歯科衛生士国家試験ポイントチェック④臨床歯科医学 下 令和4年版出題基準準拠』歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『歯科衛生士国家試験ポイントチェック⑤歯科予防処置論／歯科保健指導論／歯科診療補助論 令和4年版出題基準準拠』歯科衛生士国家試験対策検討会 編									
参考文献	適宜プリントを配布する。									
備考	授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-RDH-02				
	●									
科目名	歯科衛生研究法Ⅱ（臨床応用）				単位認定者	小野寺 健		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	歯科衛生の実践場面で遭遇する問題を自ら解決していくため、3年間で学んだ知識と技術を整理する。「歯科衛生研究法Ⅰ（臨床基礎）」で整理した、臨床歯科にかかわる基礎的な知識と技術を踏まえて、最新の臨床情報についても学習し、口腔衛生の専門職として活躍できる準備を整える。									
到達目標	3年間で学んだ知識と技術の総まとめを行い、歯科衛生士として必要な総合的能力を修得する。									
学修者への期待等	教科書などによる予習・復習を行い、授業内容を十分に理解することを望む。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	高齢者口腔保健学1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(1時間程度)				猪狩 洋平	
2	高齢者口腔保健学2(各論のまとめ)								猪狩 洋平	
3	保存歯科学1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(1時間程度)				八幡 祥生	
4	保存歯科学2(各論のまとめ)								八幡 祥生	
5	発達歯科学1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(1時間程度)				丸谷 由里子	
6	発達歯科学2(各論のまとめ)								丸谷 由里子	
7	病理学(まとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(1時間程度)				小野寺 健	
8	歯内療法学1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(1時間程度)				荘司 佳奈子	
9	歯内療法学2(各論のまとめ)								荘司 佳奈子	
10	歯科補綴学1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(1時間程度)				依田 信裕	
11	歯科補綴学2(各論のまとめ)								依田 信裕	
12	歯科矯正学1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(1時間程度)				木村 祥也	
13	歯科矯正学2(各論のまとめ)								木村 祥也	
14	歯周療法学1(総論のまとめ)				質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。(1時間程度)				梶川 哲宏	
15	歯周療法学2(各論のまとめ)								梶川 哲宏	
教科書	『歯科衛生士国家試験ポイントチェック①人体の構造と機能／歯・口腔の構造と機能／疾病の成り立ち及び回復過程の促進 令和4年版出題基準準拠』歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『歯科衛生士国家試験ポイントチェック②歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 令和4年版出題基準準拠』歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『歯科衛生士国家試験ポイントチェック③歯科衛生士概論／臨床歯科医学 上 令和4年版出題基準準拠』歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『歯科衛生士国家試験ポイントチェック④臨床歯科医学 下 令和4年版出題基準準拠』歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『歯科衛生士国家試験ポイントチェック⑤歯科予防処置論／歯科保健指導論／歯科診療補助論 令和4年版出題基準準拠』歯科衛生士国家試験対策検討会 編									
参考文献	適宜プリントを配布する。									
備考	授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

歯科衛生学科

- ナンバリング
- 学科教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価
- 実務経験を有する教員の科目一覧

1. ナンバリングの見方

【例】DH-1-○○○-01

DH	-	1	-	○○○	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

① 学科（専攻）識別番号

半角アルファベット（大文字）2桁

全学共通教養教育科目：CO

歯科衛生学科：DH

② 科目レベル

教養科目：0（全学共通教養科目も学科独自教養科目も同じ）

専門支持科目：1

専門展開科目：2

（学科によって専門科目の区分が若干異なるので、基礎的科目分類から順に1から番号を振る）

③ 科目分類

半角アルファベット（大文字）3桁

教養科目分野 人間と文化	HCU	Human & culture
教養科目分野 人間と社会	HSO	Human & society
教養科目分野 人間と科学	HSC	Human & science
歯科衛生基礎	DHB	Dental Hygiene Basic
歯科衛生臨床	DHC	Dental Hygiene Clinical
歯科衛生演習	DHP	Dental Hygiene Practice
臨床実習	CLT	Clinical Training
歯科衛生研究法	RDH	Research on Dental Hygiene

④ 連続番号

半角数字2桁 全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語	CO-0-HCU-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
法律入門	CO-0-HSO-04
情報処理	CO-0-HSC-01
数理リテラシー	CO-0-HSC-02

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	CO-0-HCU-01
		英語Ⅰ	CO-0-HCU-02
		英語Ⅱ	DH-0-HCU-01
		医療手話	DH-0-HCU-02
	人間と社会	法律入門	CO-0-HSO-04
		現代の社会	CO-0-HSO-03
		コミュニケーション演習	DH-0-HSO-01
		心理学	DH-0-HSO-02
	人間と科学	数理リテラシー	CO-0-HSC-02
		保健統計学	DH-0-HSC-03
		情報処理	CO-0-HSC-01
		化学	DH-0-HSC-02
		スポーツレクリエーション	DH-0-HSC-01
専門教育分野	専門支持科目	解剖学	DH-1-DHB-01
		生理学	DH-1-DHB-02
		組織発生学	DH-1-DHB-03
		口腔解剖学	DH-1-DHB-04
		口腔生理学	DH-1-DHB-05
		歯牙解剖学	DH-1-DHB-06
		病理学	DH-1-DHB-07
		微生物学	DH-1-DHB-08
		薬理学	DH-1-DHB-09
		栄養学	DH-1-DHB-10
		生化学	DH-1-DHB-11
		一般臨床医学	DH-1-DHB-12
		衛生学・公衆衛生学	DH-1-DHB-13
		口腔衛生学	DH-1-DHB-14
		地域保健・保健統計	DH-1-DHB-15
		衛生行政・社会福祉・社会保障	DH-1-DHB-16
		人間関係論	DH-1-DHB-18
		地域保健	DH-1-DHB-19
	専門展開科目	歯科衛生士概論	DH-2-DHC-01
		歯内療法学	DH-2-DHC-02
		保存修復学	DH-2-DHC-03

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング
専門教育分野	専門展開科目	歯周療法学	DH-2-DHC-04
		歯科補綴学	DH-2-DHC-05
		口腔外科学	DH-2-DHC-06
		歯科矯正学	DH-2-DHC-07
		小児歯科学	DH-2-DHC-08
		高齢者口腔保健学	DH-2-DHC-09
		障害者口腔保健学	DH-2-DHC-10
		歯科放射線学	DH-2-DHC-11
		口腔衛生管理	DH-2-DHC-12
		歯科予防処置法	DH-2-DHP-01
		う蝕予防処置法（臨床基礎）	DH-2-DHP-02
		歯周病予防法（臨床基礎）	DH-2-DHP-03
		う蝕予防処置法（臨床応用）	DH-2-DHP-04
		歯周病予防法（臨床応用）	DH-2-DHP-05
		保健指導論	DH-2-DHP-06
		保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）	DH-2-DHP-07
		保健指導演習Ⅱ（臨床応用）	DH-2-DHP-08
		保健指導演習Ⅲ（臨床総合）	DH-2-DHP-09
		口腔リハビリテーション論	DH-2-DHP-10
		口腔リハビリテーション演習	DH-2-DHP-11
		歯科診療補助法（基礎知識）	DH-2-DHP-12
		歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）	DH-2-DHP-13
		歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）	DH-2-DHP-14
		歯科診療補助演習Ⅲ（臨床総合）	DH-2-DHP-15
		感染予防法	DH-2-DHP-16
		臨床検査法	DH-2-DHP-17
		救急法・救急蘇生法	DH-2-DHP-18
		介護技術の基礎	DH-2-DHP-19
		審美歯科演習	DH-2-DHP-21
		臨地実習Ⅰ（臨床基礎）	DH-2-CLT-01
		臨地実習Ⅱ（臨床応用）	DH-2-CLT-02
		臨地実習指導（臨床応用）	DH-2-CLT-11
		臨地実習Ⅲ（臨床総合）	DH-2-CLT-03
		臨地実習指導（臨床総合）	DH-2-CLT-12
		歯科衛生研究法Ⅰ（臨床基礎）	DH-2-RDH-01
		歯科衛生研究法Ⅱ（臨床応用）	DH-2-RDH-02

歯科衛生学科 教員一覧

	職位	氏名	研究室	電話番号	E-mail
1	教授	おのでら けん 小野寺 健	小野寺 研究室	022-738-7715	k_onodera@seiyogakuin.ac.jp
2	教授 (学科長)	いとう えみ 伊藤 恵美	共同 研究室	022-217-0277	e_itou@seiyogakuin.ac.jp
3	教授	さとう ようこ 佐藤 陽子			yo_satou@seiyogakuin.ac.jp
4	准教授	おおみや ゆうこ 大宮 由布子			y_oomiya@seiyogakuin.ac.jp
5	講師	はなぶち しずか 花渕 静			s_hanabuchi@seiyogakuin.ac.jp
6	助教	たけやま まなみ 武山 真奈美			m_takeyama@seiyogakuin.ac.jp
7	助教	さいじょう かな 西條 佳奈			k_saijou@seiyogakuin.ac.jp
8	助教	いとう あすか 伊藤 明日香			a_itou@seiyogakuin.ac.jp
9	助手	すずき さえこ 鈴木 沙江子			sa_suzuki@seiyogakuin.ac.jp

歯科衛生学科 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室内にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。

歯科衛生学科 実務経験を有する教員の科目一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
法律入門	1	鈴木 一樹	公認会計士・税理士として、法定監査等の実務経験あり。
口腔解剖学	2	白石 成	歯科医師としての実務経験あり。
口腔生理学	2	小山 重人	歯科医師としての実務経験あり。
薬理学	1	磯谷 美重	歯科医師としての実務経験あり。
衛生行政・社会福祉・社会保障	2	園部 英俊	歯科医師としての実務経験あり。
歯科衛生士概論	2	大宮 由布子	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
歯周療法学	1	梶川 哲宏	歯科医師としての実務経験あり。
歯科補綴学	1	依田 信裕	歯科医師としての実務経験あり。
口腔外科学	1	岩永賢二郎 千葉高大	歯科医師としての実務経験あり。
高齢者口腔保健学	1	猪狩 洋平	歯科医師としての実務経験あり。
障害者口腔保健学	1	星 久美	歯科医師としての実務経験あり。
口腔衛生管理	1	伊藤 恵美	歯科衛生士として、大学病院での実務経験あり。
歯科予防処置法	2	武山 真奈美	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
う蝕予防処置法(臨床基礎)	1	鷺尾 純平	歯科医師としての実務経験あり。
歯周病予防法(臨床基礎)	2	伊藤 恵美	歯科衛生士として、大学病院での実務経験あり。
う蝕予防処置法(臨床応用)	1	鷺尾純平 佐藤聡子	歯科医師としての実務経験あり。
歯周病予防法(臨床応用)	2	伊藤 恵美	歯科衛生士として、大学病院での実務経験あり。
保健指導論	1	佐藤 陽子	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
保健指導演習Ⅰ(臨床基礎)	1	伊藤明日香 大宮由布子 佐藤陽子	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
保健指導演習Ⅱ(臨床応用)	2	佐藤陽子 大宮由布子 伊藤明日香	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
保健指導演習Ⅲ(臨床総合)	2	佐藤陽子 大宮由布子 伊藤明日香	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
歯科診療補助法(基礎知識)	2	花渕静 西條佳奈	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
歯科診療補助演習Ⅰ(基本技術)	2	花渕静 西條佳奈	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。

歯科診療補助演習Ⅱ(臨床技術)	2	花渕静 西條佳奈	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
歯科診療補助演習Ⅲ(臨床総合)	2	花渕静 西條佳奈	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
臨床検査法	1	花渕静 伊藤明日香	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
救急法・救急蘇生法	1	下田 元	歯科麻酔専門医として、救急対処等の実務経験あり。
審美歯科演習	1	花渕 静	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
		41	実務経験を有する教員が担当する科目の単位
		93	設置基準上の標準単位数